

特207

229

岩手縣產之卷

木炭取引案内

薪炭新報社編

始



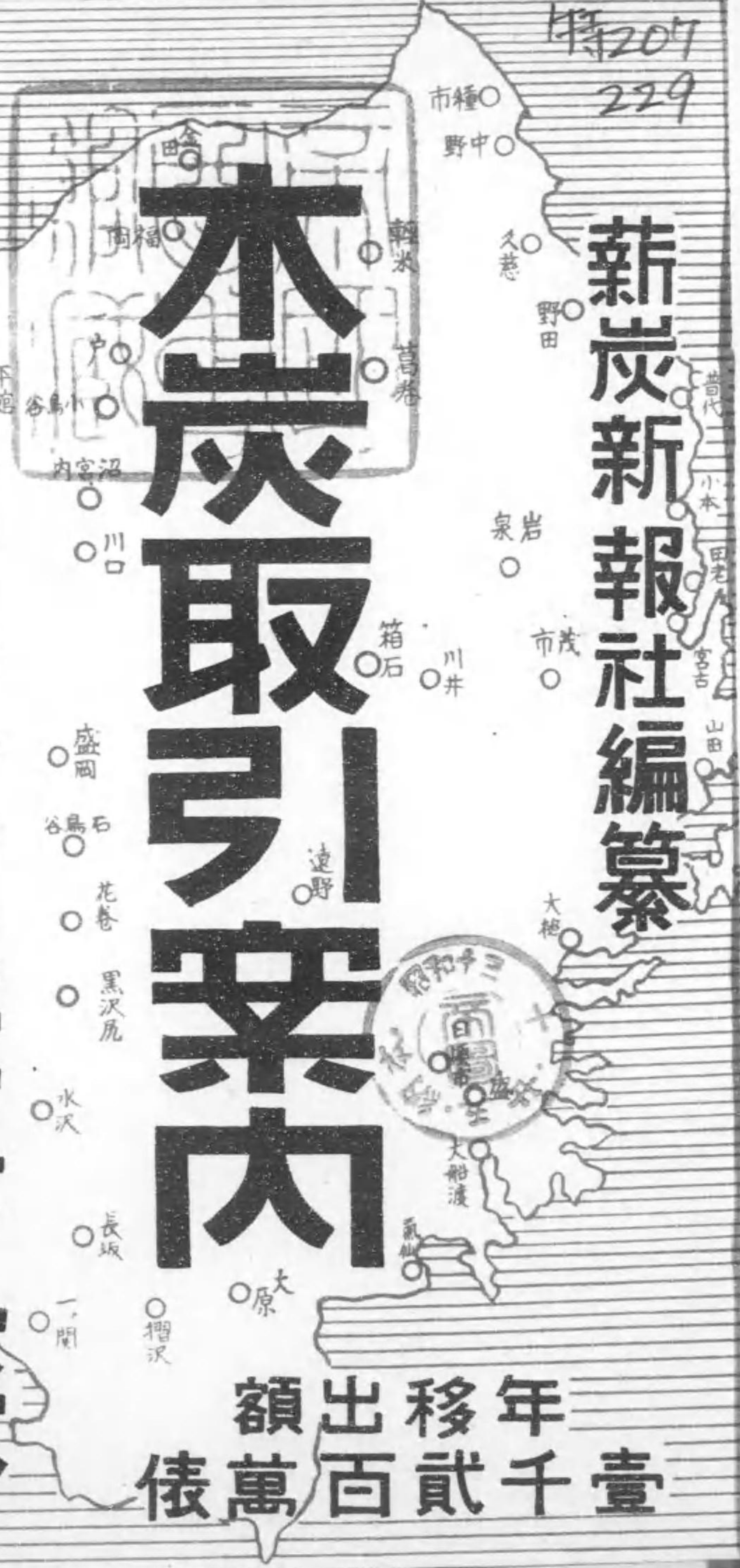
特207  
229

# 薪炭新報社編纂

# 本炭取引案内

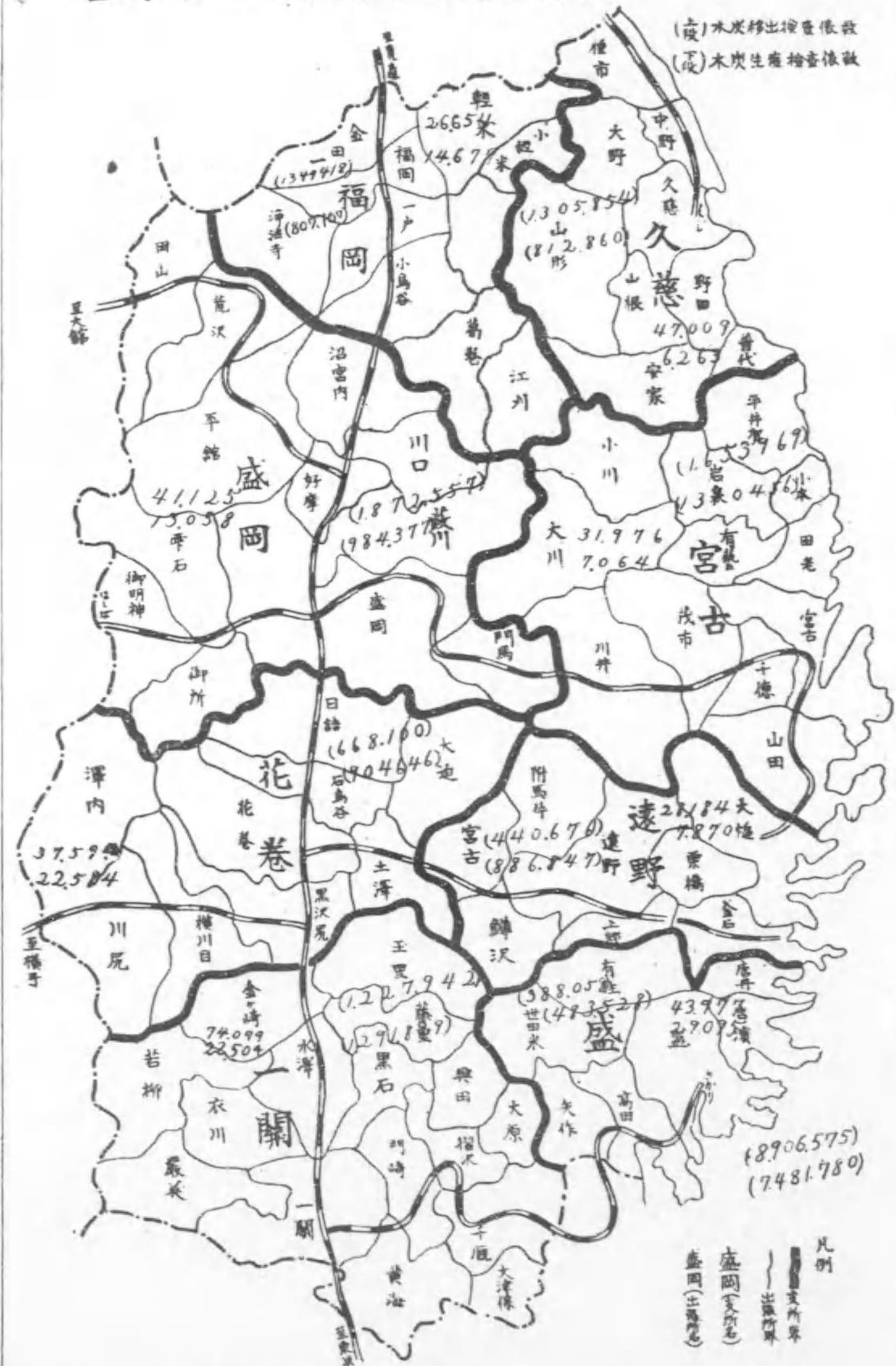
# 石手縣産之卷

額出移年  
俵萬百貳千壹



# 岩手縣木炭支所別検査数

(度) 木炭移出検査係数  
(産) 木炭生産検査係数



凡例  
■ 支所界  
— 出張所界  
盛岡(正盛岡)

萬屋本店

薪炭

丸島常右衛門商店

東京市下谷區三ノ輪町第一銀行前

電話淺草(84)五二一四番

振替口座東京一〇〇三二六番

告

萬屋支店

丸島新太郎商店

問屋

東京市淺草區地方今戸町一二九番地

電話淺草(84)五二一八番

振替口座東京九八八〇八番

### 木炭取引案内岩手縣産の卷

#### 目次

緒言.....一

岩手縣木炭の全貌.....二

岩手縣木炭移出同業組合

商業組合と提携  
販路擴張に努む

本線の一關.....四

一關共同移出組合——西澤萬造商店——佐藤留之助商店——千葉喜三郎商店——加藤壽商店

西尾高樹商店——藤原一實商店——其他

大船渡線地方木炭の情勢.....一〇

摺澤管内の産.....二

鈴木長助商店——佐藤甚作商店別欄に掲ぐ——和賀松商店——加藤文吉商店——飯澤武雄商

店——菊地良一商店——金野專左衛門商店——佐藤三都男商店——佐藤命三郎商店——小泰  
屋商店——其他

千厩管内の産 ..... 一五

菅原貞根商店——三星商店——菊地長右衛門商店——其他

黄海地方の産 ..... 一七

岩淵要商店——熊谷見造商店——東磐井郡産の結び

氣仙郡盛支所管内の木炭 ..... 一九

陸前矢作驛と移出を營む業者 ..... 一九

竹駒、高田、脇ノ澤 ..... 二〇

大塚幸太郎商店——大和田金三郎商店——吉田良雄商店——其他

盛驛移出地域 ..... 二三

盛、日頃市、立根と吉濱、唐丹、越喜來

村上正平商店——千葉藤商店——日頃市信用販賣購買利用組合——山田與治右衛門——其他

本線前澤の産 ..... 二五

鳥海庄七商店——其他

備長の稱ある水澤白炭 ..... 二七

和賀榮助商店——小原善次郎商店——佐賀省吾商店——和賀源吉商店——大平留平太商店

——其他

黒澤尻の産 ..... 三〇

後藤屋圭介——織笠源助商店——加藤正憲商店

横川目の産 ..... 三一

小原昇商店——其他

横黒線陸中川尻の木炭 ..... 三三

菅原喜七商店——中川商店——川尻物の實質

東北本線花巻の木炭 ..... 三五

小原政治商店——中目直也商店——和賀幸吉商店——高橋金太郎商店——北山鏘一商店——

其他

土澤驛と晴山驛 ..... 三九

花釜線宮守驛 ..... 四〇

鱒澤驛の木炭 ..... 四〇

好評ある遠野の木炭 ..... 四一

豊田卯一商店——菊田榮助商店——奥島豊助商店——瀧田清治商店——瀧田義一商店——  
菊地富貴商店——其他

岩手上郷の産 ..... 四二

千葉商店出張所——其他

大迫産出木炭 ..... 四三

石島谷驛より積出——黒炭白炭共に産す——村田金平商店——一井祥太郎商店——平澤千  
藏商店

岩手日詰の産 ..... 四四

黒炭白炭共に産出——齋藤龜次郎商店

古來より知らるゝ盛岡の堅 ..... 四五

川村市助商店——千葉長太郎商店——吉田清一商店——加藤清次郎商店

岩手縣橋場線平石の木炭 ..... 四六

橋場驛移出木炭 ..... 四七

上野勘六商店——篠村幸次郎商店——工藤善太郎商店——其他

山田線川井の木炭 ..... 四八

内澤角助商店——繫木炭出荷組合——山田松太郎商店——香西八郎商店——澤田松太郎商  
店——前關朝吉商店——藤原勘助商店——西山要次郎商店——小田島貞治商店——妻神兼  
松商店——熊澤助三郎商店——其他

腹帯驛の木炭 ..... 四九

山田線茂市驛移出の木炭 ..... 五〇

渡邊操商店——其他

岩泉の木炭 ..... 五一

澤向吉三郎商店——其他

暮目驛の木炭 ..... 五二

山田線の王者宮古の木炭……………六

宮古驛移出業者組合員諸店——倉部外一郎商店——内藤良多商店——岩泉益男商店——中洞  
桑吉商店——岩船常藏商店——大森清司商店——其他

山田驛移出木炭……………五

田老産出木炭……………五

荒屋新町を中心の花輪線……………七

大更移出木炭……………五

平館驛の産……………五

岩手松尾の産……………六

荒屋新町物……………六

移出業者諸店——畠山市太郎商店——北口吉太郎商店——田口仁八商店——坂田彌太郎商  
店——小山田精一商店——本宮松男商店——齊藤孫治商店——阿部甚内商店——其他

田山産の木炭……………八〇

關左太郎商店——石井徳太郎商店——山本佐治郎商店——安保實商店——其他

岩手川口の産……………八三

縣北の優品沼宮内の木炭……………八四

佐々木藏次郎商店——藤澤商店——鈴木直八商店——國定總介商店——竹花金四郎商店  
——高橋祐助商店、久保正雄商店——米田商店——齊藤新吉商店——袖留次郎商店——府  
金義兵商店——稻村俊太郎商店——鍋倉春海商店——其他

福岡支所管内産出木炭總攬……………九二

奥中山以北金田一の間六驛概況……………九三

福岡支所管内木炭移出業者……………九七

六驛移出業者連名——柳畑松太郎商店——柳澤末太郎商店——久保長商店——仲下彌平商店  
——中村貞男商店——遠藤彦三郎商店——遠藤仁太郎商店——中村善八商店——堀口治郎右  
衛門商店——浪岡徳四郎商店——中島萬次郎商店——高見春松商店——澤藤商店——坂下貞  
治商店——小野寺源助商店——阿部繁孝商店——高崎權次郎商店——小野寺定雄商店——坂  
本仁助商店——田中善藏商店——岩岡商店——菅原久七郎商店——石田圓次郎商店——山本  
善次郎商店——村上喜三郎商店

## 優勢を極む久慈驛移出木炭

久慈出張所管内移出數量——改善促進の一端——普代出張所管内——平井賀出張所管内——  
工藥精作商店——熊谷亮二郎商店——野中榮吉商店——三船仁太郎商店——米内石太郎商店  
——山田千太郎商店——中野義廣商店——岩手縣木炭移出商業組合——明内文一郎商店——  
大澤良文商店——其他

一三

## 中野支部管内産

一四

## 最高優良品種市の木炭

一五

種市驛の概況——八木驛の木炭——階上驛種市産——工藤仁太郎商店——種市信用販賣購買  
利用組合——其他

## 八戸市の今昔

一三

八戸木炭株式會社——宮古林業株式會社——阿部由三商店——本村竹次郎商店——久慈季六  
商店出張所——長谷佐太郎商店

## 京濱著名市場木炭問屋の芳名

一

東京二十八驛木炭入荷數量——東京、横濱、八王子、千葉、各地有力木炭問屋芳名

## 緒言

木炭王國の稱ある岩手縣は最近一ケ年間の木炭の生産額は四千四百七萬三千六百九十貫にして之を依に換算せば壹千壹百壹萬八千四百二十二俵となる、更に増算計劃としては年移出額を壹千貳百萬俵に達せしむべしとし今や躍進の途上におかれてゐるか、岩手縣は全國に冠たる木炭の産地であつて東京市場とは殊に密接の關係を有し同縣の全移出量を千分比にせば八〇一、四は實に東京市場に於て消化され東京市場消費量の三割五分は岩手縣産の供給に待つて需要を充たしてゐる、從つて當業木炭問屋の手を介し若しくは小賣業者の手に依り直接に取引を求むるの外に官公衙又は消費組合等その岩手縣に注ぐ視聽は日に月に濃密を極めてゐる。然るに未だ岩手縣産取引の榮となるべき完璧なる著述なく爲に新たに取引を求めんと欲するものゝ不便多かるべきを思はしむるに到つた即ちこゝに本誌の出現を見ることゝなつた次第である。從つて本誌の使命としては永年取引關係を持續されてゐる諸氏にも現に取引してゐる移出業者の營業狀態をも更に詳知し得て取引の圓滿永續を期せらるゝ上にも資し、新たに岩手縣産を求めんと欲する諸氏への爲には態々日子を費し不案内



の産地を跋涉する要なく本誌を披かば座がらにして希望品の産地を知り且つ移出を営む業者を知り得るのである、又若し産地を一巡視察したいとある諸氏の爲には本誌は好個の燈臺たり得るのであつて鐵道沿道主要地は悉く洩らすなく又沿線にあらずとも有力なる産地と有力なる荷主の總てを網羅し、順次に各移出驛と移出木炭の品種別と移出數量と移出業者の所在地を明かにし就中有力なる移出業者にありては特に營業狀態を詳述し取引上の參考に供することゝした、而かも本誌の内容は實地踏査に索めたる極めて新らしき現實を紹介せるものである。本誌が岩手縣産と消費市場とを結ぶ上に本誌の使命を果し業界諸氏の満足に副ひ得ば編者の欣幸とするところである。

## 編 者 述

## 岩手縣木炭の全貌

岩手縣は夙に各種の改善施設を講じ縣營検査の實施も全國に範を垂れ早くも大正十年移出木炭に對して検査を施行し超へて昭和十年十月には更に生産検査を兼行し今は生産移出兩検査を行ひつゝある。又製炭の改良にありては縣の施設に加へ岩手縣木炭移出同業組合は縣下主要生産地十五個所に製炭指導員を設置し、縣の指導施設と連絡提携して専ら窯元指導に努めてゐるが、昭和十二年度にありて指導を行へる支部のみでも沼宮内、小島谷、石鳥谷、花卷、水澤、一關、福岡、種市、平井賀、宮古、大槌、川井、遠野、摺澤、川尻、盛の十六支部管内に及び成績大いに見るべきものがある、又他面には同業組合は奨励金を交付して各部落に品評會を開催せしめ、又木炭の需給の調整を圖り併せて販路の擴張を圖るための施設として岩手縣木炭移出同業組合と姉妹關係にある岩手縣木炭移出商業組合とが協調を保ちつゝ夫々本然の任務に向つて活動し、同業組合の有にかゝる木炭倉庫のみにても東京出張所に五棟を有する外縣内各地に倉庫を建設し今や五十九棟の多きを數へ總坪數二千三百九十九坪に達し倉庫を有せざる組合員の使用に便せしめてゐる。敘上の如き各施設は

効を奏し販路は年次に擴張されて其昭和十二年度に於ける縣外移出量八百九十二萬千二百三十八俵は東京を首位に左の各縣に分布さるゝに到つた。

東京へ七一四九〇四〇俵、宮城へ四六〇五三六、神奈川へ三九一九五二、青森へ三五〇九八七、千葉へ二六〇三三四、埼玉へ一五二七三三、秋田へ一二八三四八、群馬へ二八五四一、茨城へ一二三六五、栃木へ七五一一七、福島へ五四一四、其他二七四七一俵を供給してゐる。本誌は順を追ふて同縣の關門一關驛より大船渡線へ入り戻りて本線より順次に北へ進み年移出額壹百二十萬俵の稱ある製品のうち最も實用價值に富める楢割その楢割多産地である久八線の久慈驛へ向つて逐次記述することゝせん。

## 岩手縣木炭移出同業組合

### 商業組合と提携販路擴張に努む

岩手縣木炭移出同業組合は、業界の弊害を除去すると共に品質の改良發達を向上し販路の擴張を圖るを以て目的として縣一圓に於ける木炭移出業者を網羅し時の山林課長西澤治郎氏並に岩手輕便

鐵道株式會社常務取締役三鬼鑑太郎氏の援助のもとに

小原政治、北山鏘一、稻村俊太郎、中野傳三郎、高橋百次郎、中村龜次郎、澤藤倉治、西澤萬造

大平留平太、中森市三郎、菊田儀助、喜藤養治、石川與七、佐藤萬治郎、宮本利藏

以上の諸氏が發起人となり大正十五年二月二十五日發起認可申請書を提出し昭和二年一月二十四日附發起認可となるや直ちに同意書を徴し創立總會開催の準備に着手し、昭和二年五月愈々創立總會を開き昭和二年十二月七日を以て商工大臣の設立認可を得たる組合であつて移出販賣業者の組合なるが故に商工省の主管に屬してゐる、組合の業務とするところは

(1) 木炭の改良發達を圖ること。(2) 販路の擴張販賣の改善に關すること。(3) 需給調節に關する施設をなすこと。(4) 營業上の紛議を調停すること。(5) 斯業功勞者並に優良職工の表彰に關すること。(6) 其他組合の目的を達するに必要な事項

以上の各項である創立して爾來十一星霜事業は圓滿に進捗し組合創立目的に向つて順調なる成績を擧げ、組合の基礎は愈々鞏固なるものがある、何故に基礎鞏固なるかとあれば第一は組合財源が決定的なることであつて、即ち縣營検査手数料の一俵一錢五厘を縣は一錢に低減し其五厘を割いて組合經費となすことの陳情を容れ爾來引續き今日に到つてゐる。今他の地方同業組合が検査を營む

ことを以て使命として立てるに検査を縣に移管せると共に組合は財源を失ひ遂に解散の餘儀なきに到つてゐるに比し岩手縣の組合は移出販賣業者を以て組織してゐる點である、第二は歴代の組長が山林課長であり従つて縣營検査と相俟つて極めて圓滿に極めて有効に組合を運営し來れることである。本部の下に十九支部を連ね組合員は六百四十五名に達してゐる、又一面には時代の進運に棹さして生れたものに岩手縣木炭移出商業組合があり東京池袋驛前に出張所を置き組合員の寄託にかゝる木炭は今や年額七十萬俵の多きに達し、同業組合と彼我提携協力し販路の擴張取引の改善に力を致し、個人取引は漸次に商業組合の統制に推移しつゝある。

## 本線の一關

### 大船渡線の分岐驛

岩手縣一關は黒炭角俵と白炭の楢込、雜込合して二萬餘俵を加へて年移出量十五萬四千俵を移出し、嚴美、衣川の兩村に五十年乃至百年の老木地帯を残すの外悉く十五六年生の若木に更新され近時改良一關物として中央に認めらるゝに到る、品種別に内譯せば柗丸三二〇俵同割六一四、楢丸一九四七八、楢割二三六四三、雜丸二〇六七七、雜割一九七三四、楢荒一七四九五、雜荒一六六二七、松炭九一六六、栗炭五三〇〇、楢白炭一二六〇、雜白炭八八〇俵を移出する。

一關木炭は聲價挽回の趣旨より主産地であり且つ若木資材に富める西磐井郡萩莊村に長期三十日に亘り岩手縣山林會主催一關支部後援のもとに淺沼農林技手を講師に製炭改良講習會を開催し其成績頗る見るべきものがあつた現今改良一關木炭とし名を揚げてゐる故なきに非ずと謂へる。

岩手縣一關町地主町

### 一關共同移出組合

電話一關一〇五番乙

小岩 德 吉  
千 葉 金 七

**移出業者** は一關驛前西澤萬造商店、山目の加藤壽商店、山目の小岩德吉商店、地主町の千葉金七商店、大町の千葉與三郎商店、廣街の佐藤留之助商店、八幡街の西尾高樹商店、八幡街の藤原一寶商店の外に地主町に一關木炭共同移出組合がありて小岩德吉、千葉金七兩氏の共同經營のもとに移出してゐる、因みに岩手縣林産物検査所一關支所では製品の統一を圖る爲生産者の共同出荷を奨勵し集合検査制に依り受験

年移出は五萬俵、産地は萩莊村、嚴美村、北上川沿岸の製炭地、樹齡二十年黒炭楢五割雜五割各地信用組合の代行、移出驛一關驛、平泉驛、花泉驛、移出先東京府、宮城縣、千葉縣、神奈川縣。

小岩德吉氏は閑散期を利用して嚴美村須川温

泉に出張賣店を開設する、同温泉は宮城、秋田  
岩手の三縣界にありて風光明媚紫外線に富み胃  
腸呼吸器系に靈効あり近く國立公園に指定さる  
ゝ地である。

岩手縣一關驛前

## 西澤萬造商店

電話一五三番

木炭移出鐵道枕木商を兼營木炭は年額三萬俵  
を移出し、東磐井郡眞瀧村其他にて手山百町歩  
を經營し、黒炭楢丸、楢割、雜丸、雜割、松炭  
を産出、樹齡二十年生乃至三十年生優良品なり  
積出驛は一關驛、大船渡線眞瀧、仕向先は東京  
府、千葉縣、埼玉縣、神奈川縣なり、店主は巖

に岩手縣木炭移出同業組合の理事其他公職にあ  
り、木炭界の先輩重鎮を以て聞ゆ。

岩手縣一關町廣街十二番地

## 一 佐藤留之助商店

電略(〇イチ)又ハ(サ)

萩莊嚴美兩村の木炭改良組合と特約し年移出  
約四萬俵、楢丸楢割二萬雜丸雜割と松角十二キ  
ロ、栗十五キロ合して二萬楢は二十年生前後の  
若木多し、一關驛より積出し東京市場へ仕向く  
同店は創業最も古く一關唯一の老舗なり、店主  
は取引に人情味を込め一度び取引を開始せば永  
久となり取引先よりも未だ一回だも倉入を受け  
しことなし。

岩手縣一關町

## 今 千葉喜三郎商店

手山經營資材楢面積壹百町歩築窯數三十餘基  
あり樹齡二十年前後の若木物多し一關驛より積  
出、東京、埼玉、千葉、神奈川へ仕向く。

千葉、埼玉、宮城、青森の各地なり。

岩手縣一關町八幡街十四番地

## 畝 西尾高樹商店

振替仙臺一九一一八番  
電信略號(ニシヲ)

銀行當座陸中銀行本店、岩手殖産銀行一關支

店萩莊改良組合製品を一手特約同組合製炭計劃  
は面積百二十町歩向ふ五ヶ年繼續樹齡二十年前  
後の若木楢丸楢割合して年額二萬俵を移出す。

東京市場に於て右製品を一手に引受る問屋を希  
望す。其他に買炭と直營あり、東京池袋、飯田  
町、恵比壽の各地へ仕向く。

岩手縣一關町山目鍛冶町

## 壽 加藤 壽商店

電話三三九番

東磐井郡内各所に手山を營み楢黒炭を製出し  
一關、山目の兩驛よりは楢丸、楢割、雜角を積  
出し、磐越西線猪苗代にも出張所を有し手山經  
營會津白炭を移出す。仕向先は東京、神奈川、

岩手縣一關町八幡街

## 藤原一寶商店

電話 二一九番

電略 (フ) 又ハ (一)

宮城縣栗原郡鶯澤村山林面積四十町步樹齡二十年檜一品、小山田舜二氏の合理化方針に和し箱入切炭年額壹萬箱其他普通角俵を製産し一關より積出す。

## 大船渡線地方木炭の情勢

岩手縣一關より分岐し、氣仙郡盛町に到る東磐井、氣仙の兩郡産出の木炭を通稱し大船渡線物と云ひ移出驛は一關驛より順次に陸中門崎、松川、摺澤、千厩、矢越、折壁、氣仙沼(此の驛は宮城縣本吉郡産も集荷)竹駒、高田、協ノ澤、大船渡、盛の各驛であり又東北本線花泉驛よりは黄海、藤澤の産が集荷し移出を見る、大船渡線地方産は氣仙郡日頃市の奥地と吉濱と越喜來の一部に老齡樹を認むるのみにして悉くが消費地で好まるゝ若木資材に更新されてゐることが注目を惹いてゐる。然るに調整乃至包装に多少の缺陷ある故か同縣産の他の製品に比するときは二三錢方の落値を以て取引されてゐることであるが一たび實用に充てんか丸物は縦裂するとの聲は聞けども檜割の如

きは他に比し毫も遜色なきを思はせる、之より各驛に就いて移出の數量と品種別と移出を營む業者を紹介せん。

## 摺澤管内の産

世に摺澤物と稱するは岩手縣林産物検査所一

關支所摺澤出張所管内の摺澤長坂大原猿澤興田

折壁、の各村より生産する木炭を總稱することが出来よふ。今昭和十二年度に於ける移出検査數量は二十八萬六千三百五十六俵にして黒炭檜丸四八四八五、檜割六五三六四、檜荒一八六三七、雜丸二五二四六、雜割三三六七六、雜荒三四七九八、栗炭二一三三二、松炭五五八八、粉炭五二二、黒炭柶丸二〇五九柶割三九八六、柶

荒二一三、白炭檜込二〇六八八、檜荒三七七二、雜込八一五五、雜荒三八三四、以上各種等級別は極上五七二五、上一二〇八八〇並一三二二〇八合計二八六三五六

移出業者摺澤村 和賀松之輔、宮本作太郎、

飯澤武雄、藤原利雄、加藤文吉、長坂村鈴木長助、佐藤甚作、大原町菅原隆、金野専左衛門、佐藤三都男、佐藤命三郎、足利專吉、猿澤村菊池良一、猿澤信用組合、小野寺助造、興田村小山泰助、伊藤五郎助、及川正之助、伊東榮助氏經營京津畑組合、折壁村菊地長右衛門以上諸店あり。

岩手縣東磐井郡長坂町

岩手縣大船渡線摺澤町驛通り

### カ 鈴木長助商店

### ワ 和賀松商店

電話二番電略(ヤマカ)  
振替 仙臺 一六五六三番

電略(ワカ)又ハ(ワ)

年移出額六萬五千俵、樹齡二十年乃至三十年長坂、田川津、猿澤、松川、前川、磐清水、興田、門崎、小梨の外に下閉伊郡川内の各地に於て製炭直營總面積二百町歩、品種は楢丸楢割、雜丸雜割、荒、松炭、白炭楢込、雜込、栗堅、山田線川内は主に雜堅込荒、積出驛は陸中松川摺澤、千厩、山田線川内驛、移出先は東京、神奈川、千葉、埼玉等創業三十年店主は幾多公職にあり。

東磐井郡一圓に亘り手山並に改良組合共同出荷特約品等にして若木楢丸楢割、雜丸割、荒、松炭並に薪を移出し東京、神奈川、千葉、埼玉宮城、山形へ仕向く主に摺澤驛より積出す。因みに店主は岩手縣木炭界の中堅水澤白炭の大荷主和賀榮助氏並に花卷町に於て躍進の歩を進めてゐる和賀幸吉氏とは同族の關係にありて摺澤驛前に店舗を構へ同地方の好望なるに着眼し着手せるは今を距る七年前良品精選主義をモットーとし横濱市場へは特に聞へてゐる

岩手縣東磐井郡摺澤驛前

### カ 加藤文吉商店

電略(カト)又ハ(カ)

黒炭と白炭と薪を製出し悉く手山にして若木なり黒炭、楢丸、割、雜丸、割、栗炭、松炭、白炭、楢込、雜込、薪は、楢、雜の二種小割物年生産六萬束を下らず山形縣下並に福島縣下の鐵道購買に特に歡迎さる、木炭は主に東京、神奈川へ仕向く、大船渡線摺澤驛より積出す。

岩手縣東磐井郡猿澤町

### キ 菊地良一

電略(キヨ)又ハ(キ)

樹齡十五年より二十年白炭丸通し極上品並に黒炭、楢丸、楢小丸、楢割、雜丸、割、松炭、白の六割は楢込雜込に荒なり山七分買炭三分の率

岩手縣大船渡線摺澤驛前

### イ 飯澤武雄商店

電略(オイ)又ハ(イ)

にて産地は猿澤、興田、田河津の各村なり年移  
出額黑白合し三萬俵、摺澤驛より積入れ東京、  
神奈川、千葉へ仕向く、昭和三年製炭移出を開  
始す、又呉服店をも營む。

岩手縣東磐井郡大原町

米穀 薪炭 ⑩ 金野專左衛門

電略(○セン)又は(カ)

大原町一圓里山若木資材に依る手山品にして  
就中雜丸、割の樹種優秀せり若木楢丸割、雜丸  
割荒の外買炭に屬する楢割大木物をも取扱ふ。  
大船渡線摺澤驛より積出す。因みに店主は曩き  
に岩手縣木炭移出同業組合摺澤支部に支部長の  
任にありて改善施設に没頭されし人なり

岩手縣東磐井郡大原町

⑪ 佐藤三都男商店

電略(○マン)又は(サ)

樹齡二十年大原町、興田村、澁民村に手山を  
營み楢丸、割、雜丸、割、外に買炭にかゝる大  
木楢割、荒、ザク、栗の外十二キロ松角を移出  
す松炭のみ月二車見込、摺澤驛より積込み、東  
京、千葉、神奈川、埼玉、宮城へ仕向く。

岩手縣東磐井郡大原町

⑫ 佐藤命三郎商店

電略(サト)又は(サ)

年移出量三萬俵手山八分買炭二分の率黒炭だ

込み東京、千葉、神奈川等へ供給す。

千厩管内の産

大船渡線千厩検査所管内は矢越、千厩、折壁  
小梨の各驛に跨る

矢越驛は黒炭楢丸五八六四、楢割一〇八九三  
雜丸三三五七、雜割六二一五、松炭六四〇、栗  
炭八二〇合計三萬〇三百五十六俵を移出す移出  
業者には矢越驛前に須藤一次郎商店がある。

千厩驛 よりは黒炭楢丸五八五〇、楢割一三  
四三四、雜丸三八五〇、雜割七一五三、櫟丸割  
合して二八九九、松炭栗炭合して一六四八、合  
計三萬四千九百三十三俵を移出す、移出商には  
千葉七郎商店、菅原貞根商店とがある

と雜と相半はす産地は大原町、興田村縣有林に  
して楢荒、雜荒、十二キロ松炭をも産出し東京  
神奈川へ仕向く。

岩手縣東磐井郡興田八日町

木炭 製産 ⑬ 小泰屋商店

店主 小山泰助

電略(オタイ)又は(オ)

店主は岩手縣木炭移出同業組合摺澤支部長の  
要職にあり營業は木炭生産移出を殆んど專業と  
し純手山と稱するを得べく興田村一圓を地域に  
二十年前後の若木資材に依る黒炭、楢丸、割、  
雜丸、割、荒、白炭、楢込、雜込を製出し極上  
五%上六〇%並三五%の振合なり摺澤驛より積

折壁驛 よりは黒炭楢丸二〇二九、楢割三八六九、雜丸一一五六、雜割二一四八、櫟八八二松栗四〇六、合して一萬〇四百八十九驛を移出し隣驛小梨驛よりは同種木炭一千一百四十一俵を移出す、移出業者には折壁驛前に菊地長右衛門商店がある。

二萬餘俵を産出し千厩、八澤、藤澤、奥玉、磐清水、摺澤、薄衣、津谷川、小梨の各地にて直營し千厩驛へ集荷し東京、神奈川へ移出す樹齡概ね十七年乃至二十年の若木地帯多し。

岩手縣東磐井郡千厩町

木炭移出  三星商店

店主 千葉七郎

電話五七番電略(ミツ)

岩手縣東磐井郡千厩町

 薪炭米穀 精米製粉 菅原貞根商店

電話六七番電略(サタ)又ハ(サ)

振替口座仙臺一五九九番

千厩地方の櫟丸は皮附よく品質良好を以て鳴る、櫟丸、割、楢丸、割、雜丸、割合して年額

楢丸、割五%、雜丸、割二%、櫟丸、割二%、荒栗合して一%産地は千厩、磐清水、薄衣、八澤、小梨、大津保の各部落にして積出驛は千厩、矢越小梨の三驛なり年移出量二萬餘俵主と

して東京千葉へ仕向く

岩手縣東磐井郡折壁驛前

 菊地長右衛門

電略(キクチ)又ハ(キ)

摺澤、折壁、矢越の、三驛と山田線川井驛より移出し東京、神奈川、千葉を取引先とす、品種別は楢割二%雜割三%楢丸二%其他櫟丸、割雜丸、荒、栗、若木地帯の楢雜細物をも多量に産出す。

場へ供給する數量は昭和十二年度に於て六萬九千五百餘俵に達し、楢丸二九一五五、楢割二二四九五、雜丸四一八〇、雜割二七七〇、荒一七一〇〇、櫟丸四一七〇、櫟割二七八〇、松炭一五五〇を示し東北本線花泉驛より積出す。

岩手縣東磐井郡黄海村

木炭各種 製産移出  岩淵要商店

電略(オイワ)又ハ(カ)

第一倉庫部東北本線花泉驛前第二倉庫部東磐

井郡黄海村製炭地は東磐郡井の黄蘗、薄衣、千

### 黄海地方の産

岩手縣東磐井郡黄海村産出木炭のうち關東市



既、門崎、西磐井郡の目形、金澤、老松の各村にして樹齡多くは十八年乃至二十年の若木物にて楢丸、割、櫟丸、割、雑丸、割、楢、櫟、雑の細物、松炭等、東北本線花泉驛、千厩驛、陸中門崎驛より積込東京、千葉、神奈川、宮城へ仕向く、黄海は黒炭の始祖を以て知られ又櫟は獨特の聲價あり。

を凌ぐの概あり嚴格なる性格の持主なり、營業は大津保、藤澤の各地に於て手山と買炭とを營み黒炭各種木炭を移出す。積出驛は東北本線花泉驛にして仕向先は東京市場なり。

### 東磐井郡産の結び

東磐井郡産を總括批判せば同郡産は頃合ひの若木にして唯調製或は選別乃至は俵裝技術に缺くるものを往々散見する爲に、市場の聲價が本線の縣北地方産に比して二三錢劣れるが如くあれどもそれは全部に亘る製品の評定にあらざること消費市場の認むるところである、故に生産地の集荷其儘を移出せず俵裝の技その他に手直しを加ふれば聲價の獲得にも萬全を期せらるべしと思料する。



### 木炭 移出 熊谷見造商店

電略(クマケン)

店主は勳八等功七級海軍に屬し日露戰役に於て偉大の勳功を奏せし人齡還歴を越ゆるも壯者

## 氣仙郡盛支所管内の木炭

岩手縣林産物検査所盛支所管内は大船渡線矢作驛以北竹駒、高田、脇の澤、大船渡、盛の各驛にして地域よりせば氣仙郡全面を網羅し地區内總産額を検査數量に索むるに昭和十二年度にありて生産検査數量六十七萬〇七百八十二俵、移出検査數量に於て四十七萬四千百四十八俵の巨額に達してゐる之を品種別にせば櫟丸五〇三、櫟割一一九五、櫟荒六〇、楢丸八四五八〇、楢割一一五三一九、荒二〇六三一、雜丸六七九六三雜割九〇二〇一、荒七四二三八、栗八三五七、松一七四八、粉炭五一〇一、更に白炭にありては楢丸八一、楢割二〇五、楢込一三一九、楢荒一二六三、雜丸四九、雜割七五雜荒七五二となる、之より各驛別に内譯したる品種と移出數量と有力移出業者を紹介せん。

### 陸前矢作驛と

#### 移出を營む業者

大船渡線陸前矢作驛よりは黒炭白炭合して七

- 萬千五百三十八俵を移出し黒炭櫟丸は二五一、割七六六、楢丸一五六一六、楢割一七七七五、楢荒四九六八、雜丸六〇一七、雜割七〇六〇、雜荒一一九四三、栗四八四二、白炭楢丸二四、

楷割三八、楷込八一六、楷荒九〇二、雜丸四二  
雜割二四、雜込一七三、雜荒二七一、以上黒炭  
六萬九千二百三十八俵、白炭二千三百俵が移出  
される、黒炭白炭共に若木にして家庭向に歓迎  
されてゐる。

移出業者 には大原町の菅原隆商店、氣仙郡  
脇ノ澤驛前の大和田金三郎商店、同郡矢作村の  
鈴木平吉商店、同村の佐々木健吾商店、氣仙町  
の熊谷千代吉商店の各店が此驛移出木炭を取扱  
はれてゐる。

### 竹駒高田脇の澤

大船渡線竹駒驛と陸前高田驛と脇の澤驛とを  
總計せる木炭年額移出量は十七萬四百十七俵に

して品種別は黒炭楷丸二三三三七、楷割四六七  
三五、楷荒五九〇四、雜丸一九四三六、雜割四  
三三六六、雜荒二八六七六、栗炭一〇一八、粉  
炭一六〇、白炭楷丸六二、楷割一六二、楷込五  
〇三、楷荒三五五、雜丸七、雜割五一、雜込五  
三、雜荒四七、黒炭合計十六萬九千五百十三俵  
白炭合計千二百八十九俵を示してゐる。

移出業者 數量の順位より擧ぐれば脇ノ澤驛  
前大和田金三郎商店、氣仙郡上有住村佐藤彦作  
商店、竹駒驛前大塚幸太郎商店、氣仙郡氣仙町  
吉田良雄商店、東磐井郡折壁村鈴木覺商店、氣  
仙郡高田町菅原藤藏商店の諸店を數ふ。

氣仙郡は雜の樹質よくモミヂ、スベリ、ウリノ  
キと云つた樹種に富み雜の品位他に勝るを見る

岩手縣大船渡線竹駒驛前

### 大塚幸太郎商店

振替口座仙臺四六九九番

竹駒、世田米、横田、上有住、下有住、矢作  
の各部落に手山を營み、楷割三%、雜丸、割三  
%、楷丸一、五%、雜丸一、五%の率に製炭し  
東京、神奈川、千葉へ仕向く尙ほ柶丸、割及び  
栗炭をも製産す、其他に買炭地域よりは楷割大  
木三等品級格を多量に移出す、店主は福井縣の  
出身立志傳中の人、岩手縣に居を定めて僅かに  
十五年間の成功者、昭和六年には堂々たる店舗  
をも新築されてゐる。因みに車窓より眺むる宏  
大なる建物は即ち氏の邸と店舗とである。

岩手縣氣仙郡脇ノ澤驛前

### 大和田金三郎商店

電話高田六八番

店主は氣仙郡木炭界の權威を以て知らる、製  
炭移出、鐵道枕木並に木材の製板移出を營み、  
貨物自動車運送部をも經營し現に四臺の貨物自  
動車を所有してゐる、又自らが製炭技術家にし  
て往昔は製炭講習會に講師として聘せられしこ  
と屢々ありて其獨特の大和田式黒炭窯は幾多の  
長所を有してゐる、従つて同店は悉く直營製炭  
にして世田米、上有住、下有住、横田、矢作、  
高田、竹駒、越喜來の各地に製炭所を有し楷丸、  
割、雜丸、割、楷荒、雜荒、柶丸、割、松、栗

を合し年移出量は尠くも十萬俵を下らざる盛況を呈してゐる、積出驛は大船渡線矢作、竹駒、高田、脇の澤の各驛にして東京、神奈川、千葉へ供給してゐる。

て東京市場並に神奈川、千葉の兩縣下へ販賣されてゐる。

### 盛驛移出地域

#### 盛日頃市立根と

#### 吉濱唐丹越喜來

岩手縣氣仙郡氣仙町

#### 木炭製産 移出問屋 吉田良雄商店

電話六五番電略(ヨシ)又は(ヨ)

世田米村と矢作村との資材楢雜、更新若木林に向つて手山を經營し雜丸、雜割は特に優秀品を以て知られてゐる、楢丸、割、楢細雜細も多産し千葉縣八日市場、銚子等には殊に歡迎されてゐる、その他に白炭十五キロ楢込、雜込をも製産する、大船渡線高田驛を積出地とし主とし

大船渡線の終點盛驛集散の木炭は盛、猪川、立根、日頃市、綾里の各地にして黒炭年移出額十一萬五千八百八十三俵を示してゐる、その他氣仙郡内の吉濱港と越喜來港と唐丹港とがあり船積に依つて鹽釜港へ搬出するもあり宮古港へ行くもあり又地方消費として釜石へ仕向けらるゝもありて吉濱と越喜來とを合して年移出六萬

二千七百一俵、唐丹港よりは五萬三千四百三十

購販利組合の諸店がある。

五俵を示してゐる、左に各地を分類し移出木炭の種別數量と移出業者とを掲ぐ。

吉濱と越喜來 氣仙郡吉濱村と越喜來村とを

盛驛 よりは楢丸二八〇二四、楢割二七二二

八、楢荒七六〇一、雜丸一七六〇五、雜割一五

〇一一、雜荒一七六七一、栗一五五七、松一六

二六、粉炭六五八、合して十一萬五千八百八十

三俵を移出してゐる。

品種別にせば楢丸八五〇九、楢割一三一一一、楢荒二四六九、雜丸一二〇八九、雜割一四八五六、雜荒六八五八、櫟丸五二、櫟割八四、粉炭四二四三、栗三一〇、松一二〇となる。

移出業者 氣仙郡猪川村村上正平商店、盛町

千葉善之輔商店、盛町千葉藤右衛門商店、盛町

寺澤りや商店、氣仙郡立根村山内與治右衛門商

店、立根村菅生徳四郎商店、氣仙郡日頃市村日

頃市信用購販利組合、日頃市村清水吉四郎商店

氣仙郡綾里村熊谷松之助商店、綾里村綾里信用

移出業者 氣仙郡吉濱村菊地榮作商店、吉濱村齋藤喜一商店、氣仙郡越喜來村越喜來信用購販利組合、越喜來村及川米藏商店の諸店がある。

唐丹港 は年移出量五萬三千四百三十五俵に

達し楢丸九三一一八、楢割一〇四七三楢荒六九

三、雜丸一二八一六、雜割九九〇八、雜荒九〇

九〇、栗炭六一一俵を算す。

**移出業者** 數量順位より紹介せば氣仙郡唐丹村伊藤商店、唐丹村高橋伊勢藏商店、唐丹村大字小白濱の村主善作商店、同村の新田兼松商店同村上野源七商店、宮古町の宮古林業株式會社宮古支店出張所、唐丹村小白濱の早坂平三郎商店を數ふ。

岩手縣氣仙郡猪川村

米穀薪炭 移出問屋 **金村上正平商店**

電話(ムラ)又ハ(ム)

取引銀行 岩手殖産銀行盛支店

樹齡二十年乃至三十年生の資材林を求めて手山に着手し直營七分買炭三分の率にして盛方面第一位の數量を移出する、營業領域は日頃市、

猪川、立根、越喜來の各村にして楢丸、割を八%、雜丸、割を二%外に栗炭をも扱ひ大船渡線の盛驛、大船渡驛より積入れ東京、千葉、神奈川の外兩毛線の消費地へも仕向く。

岩手縣氣仙郡盛町四八

米穀薪炭商 **千葉藤商店**

電話一二二番電略(チト)

日頃市、立根、猪川、上有住の各村にて手山を經營し楢丸、割七%、雜丸、割、荒、栗炭合して三%樹齡は二十年前後の若木多く大船渡線盛驛より積入れ東京、千葉へ仕向く。困みに先代は同地方業界公共に盡せし人、當主は若冠なるも父祖の業を繼承し、熱心に木炭の業を營む

岩手縣氣仙郡日頃市村關谷

保證責任 **日頃市** 信用販賣 購買利用 組合

日頃市村木炭の全産額七萬五千俵の内三萬俵は同組合の統制に集まり昭和十三年度は四萬俵を見込み以後五ヶ年計劃として六萬俵を統制すべく努力されてゐる、日頃市村の資材林一千八百五十町歩は二十五ヶ年輪伐を以てしても年額八萬俵は永續すべしとあり楢七割、雜三割、若木物八割、老木物二割なり先年縣山林會主催のもとに製炭講習會を開催して以來品質の向上を見る。販賣方法は縣購聯の統制に委し居れども、産額増進と共に直接に消費地の業者へも供給すべしとされてゐる。

岩手縣氣仙郡立根村田谷

薪炭移出、打双萬金物製造並に雜貨

㊦ **山内與治右衛門**

電話(ヤ)又ハ(ヤマ)

立根村里山資材二十年乃至三十年生直營製炭楢丸、割、雜丸割、荒を移出す楢四割雜六割の振合なり、東京市場の外千葉縣へも移出す積出驛は大船渡線盛驛なり。

**本線前澤の産**

黒炭角俵七萬二千

岩手縣膽澤郡前澤町集散の木炭は衣川、小山西磐井郡の嚴美村の一部、前澤町附近の資材に

依る黒炭にして衣川村の資材は殊に優良にして

努めてゐる。

樹齡二十年櫛多數を占めてゐる、敍上生産地の

岩手縣前澤町

産にして前澤驛より移出する年移出量は昭和十

### 庄印 鳥海庄七商店

二年度に於て七萬二千四百八十俵に達し之を種

別せば黒炭櫛丸二五四八〇、櫛割一〇七二〇、

電話一六番電略(トリ)又ハ(ト)

雜丸一二六七〇、雜割五四三〇、松炭一八一八

振替口座仙臺二一五六八番

〇依となる。

移出業者 前澤町鳥海庄七商店を筆頭に、前

澤町及川三七郎商店、前澤町立木勝一郎商店、

膽澤郡衣川村の衣川村信用購買販賣組合等であ

る。因みに産業組合擴充計劃に棹さし衣川村信

販購組合は木炭生産の増進を劃し同時に品位の

向上を圖り、直接に消費市場の堅實筋と取引を

爲すべしとて躍進の歩を進め國策に副ひ増産に

も多く若木なるを以て櫛丸七分、櫛割三分、雜も丸七分、櫛三分、雜三〇%の率なり  
其他に西磐井郡嚴美村並に下閉伊郡川井村に事業所ありて移出驛は東北本線前澤驛と山田線陸中川井驛にして川井驛よりは櫛雜の割及び荒を産出する、合して年移出量五萬俵を超へ東京、神奈川及び千葉縣へ仕向く。

## 備長の稱ある水澤白炭

### 留窯焼にして検査格付も亦嚴なり

岩手縣水澤の白炭は古くより水澤備長の稱ありて其聲價を謳はれてゐることは周知の事實である、樹齡は十年より十五年の若木にして丸物多く込となるものでも二十年からの古木は稀である、技術に鍛鍊せる製炭職工を有し悉く一定せる留窯焼である、今昭和十二年度に於ける移出數量を擧ぐれば十一萬五千四百三十二俵にして品種別に内譯すれば、櫛上一一五四〇、櫛上並二四六二〇、櫛荒上一七三一五、櫛荒並二三〇八二、雜込一一五〇、雜荒上九二二二、雜荒並一三八四八、粉炭四三五〇俵である。

移出業者 數量の順位に紹介せば江刺郡岩谷堂町和賀榮助商店、同郡黒石村藤原留三郎商店、同郡米里村人首佐賀省吾商店、同郡岩谷堂町和賀源吉商店、同郡岩谷堂町小原善次郎商店、同郡水澤町驛前大平留平太商店、同郡米里村人首菊地豊吉商店の諸店である。

岩手縣岩谷堂町中町八八

## わ 和賀榮助商店

電話二十三番電略(ワカ)  
振替東京一五二六二三番

創業四十年手山經營主義にして製法は吉田式留窯に依る事業地は江刺郡伊手村、岩谷堂町、藤里村等にして樹齡十年より十五年の資材品種は白炭檜込並、荒上、雜込並、荒上、荒並、外に黒炭檜雜角俵を産し、白炭七分黒炭三分の率である若木なるが故に細堅を多産し名は粉炭と稱するも小指程度にして工業用に適す、仕向先は東京、埼玉、神奈川、千葉を主とす、熟練せる製炭職工は永勤し整束倉庫夫は製品毎俵を検討し品位の向上に努む、年移出量四萬俵を突破

し益々優勢を極む

岩手縣江刺郡岩谷堂町

## 命 小原善次郎商店

電話十五番電略(ヤマナカ)  
振替東京一〇四九七番

岩手縣有數の資本家にして村稅戸數割のみにて年五千八百圓を納稅するを以てするも推して知るべきものがある、立志傳中の人正に一代の成功者である、木炭は悉く自己所有資材林を充て江刺郡内數百町歩は輪伐に依り永遠に盡きるなき優勢を示してゐる製品は白炭檜込雜込の二種にして主として東京市場へ仕向く。因みに店主は水澤支部長の任にあり業界の信望又厚し、

岩手縣江刺郡米里村

## 木炭 移出 問屋 佐賀省吾商店

第一倉庫 水澤驛前 呼出電話(米里公衆)  
第二倉庫 自 宅 振替仙臺六六六七番  
第三倉庫 人首町荒町 電略(サ)又ハ(サセ)

白炭檜、雜の込並、荒上、荒並、黒炭檜割、雜割を移出し手山と買炭とである、製炭地は和賀郡谷内村、江刺郡米里村、伊手村、氣仙郡世田米村等にして東北本線水澤驛より積込み東京神奈川、埼玉へ仕向く、白炭は吉田式留窯燒にして樹齡は十五年乃至二十年の若木である、年移出量二萬俵を數ふ。同店移出木炭のうち白炭檜込並は殊に優秀し恰も上検査品に匹敵し、取引先に迎へられ備長代用にも供せらる。

岩手縣江刺郡岩谷堂町

## 三 和賀源吉商店

振替口座仙臺一七七二九番  
電略(ヤマニ)又ハ(ワ)

岩手縣江刺郡藤里、伊手、田原の各村と岩谷堂町里山とにて經營す樹齡十五年乃至二十年、製炭法は吉田式留窯燒檜込、檜荒上、雜込、雜荒上、檜七〇%、雜三〇%の率にて産出し東北本線水澤を積出驛とし東京、埼玉、千葉へ仕向く。

岩手縣江刺郡水澤驛前

## 大平留平太商店

長電話五十七番

江刺郡、膽澤兩郡内にて手山を営むも同郡内及東磐井郡内の生産組合の特約品ありて手山六分買炭四分の振合にて白炭黒炭共に生産移出を営む仕向先は東京、千葉、埼玉、茨城の各市場である、主に水澤驛より移出す。

## 黒澤尻の産

岩手縣横黒線の分岐驛である黒澤尻驛よりは黒炭三萬五千俵、白炭二萬俵を移出し、驛前に後藤圭介商店があり、更に川岸に至れば織笠源助商店があり、又目今岩泉町に出張所を置き直營製品を山田線茂市驛より移出してゐる加藤正憲商店がある、黒澤尻驛移出の白炭は量は多からざれども水澤に準じ留察若木資材にして秋田の吉田式が普及され品質佳良である。

岩手縣黒澤尻驛前



白炭黒炭  
直營移出

後藤屋圭介

電話三六番電略(ゴ)

江刺郡福岡、廣瀬の兩村に手山を經營し一面買炭をも営む、手山樹齡二十年白炭楢込七分雜込三分の振合にして外に黒炭角俵楢及雜にて本品も七、三の率にて製出す黒澤尻驛より積入れ東京市場へ仕向く。

岩手縣黒澤尻町川岸



薪炭  
輸出

織笠源助商店

電略(オ)又は(オリ)

留察燒白炭楢込、楢荒上、雜込、雜荒上、黒

炭楢丸楢割を製出す、白炭六割黒炭四割の比率なり江刺郡福岡村並に和賀郡谷内村の二ヶ所十五年乃至二十年生の楢七分雜三分の資材に依り直營し東京市場と秋田縣へ供給す、外に楢小割薪をも製産す。

岩手縣黒澤尻町



米穀  
木炭

加藤正憲商店

電話十番電略(キニシヨ)

出張所 下閉伊郡岩泉町

店主は慶應大學理財科に學びしと聞く事理に長ざるの人、商人肌と謂はんよりは紳士肌と稱し得んか、木炭米穀の業を営むこと十數年今は山田線茂市驛より楢丸、割、雜丸、割、荒の各

種を移出す、製炭地は下閉伊郡岩泉町の近傍若木地帯に依つて直營さる。

## 横川目の産

岩手縣横黒線横川目驛移出木炭は黒炭三萬壹千六百四十九俵、白炭九百六十八俵にして生産地は横川目、笹間、岩崎の各村にして民有林及び部落接續の國有林を資材に供する製品は三十年生内外と稱し得らるゝも中央山脈に屬する奥地は老木多く概して壯齡樹四割老齡樹六割と稱し得ん、移出木炭を品種別數量別に擧ぐれば黒炭楢丸八〇四、楢割四四四七、雜丸三八六〇、雜割一六一五〇、丸俵荒五三三三、松炭九〇にして外に白炭楢込五七、雜込二一、楢荒五、雜

荒八八五俵となる以上は昭和十二年度に於ける移出量である。

**移出業者** 數量順位に掲ぐれば、横川目驛前に小原昇商店、横川目驛前に高橋榮八商店、横川目村大字堅川目に中畑末吉商店、横川目驛前に小原市兵衛商店、和賀郡岩崎村大字山口に岩崎信販購利組合がある。

岩手縣和賀郡横川目驛前

### 全薪炭移出 問屋 小原昇商店

出張所 和賀郡川尻驛前

黒炭楢丸、割、雜丸、割、荒、白炭楢込、雜込、薪、楢小割、雜小薪束廻り三尺、丈一尺四寸物、横川驛より木炭九目千五百俵、川尻驛より

り壹萬五千俵を移出し、東京、神奈川、秋田、栃木の各地へ仕向く、雜七分楢三分にして就中雜割を多く製出す、産地は和賀郡澤内村、湯田村横川目村にして樹齡三十年乃至五十年なるも二十年生前後の若木四割を占む。雜割は一品積の需めに應じ得られ又同店の雜割資材は良好にして實用價値に富む、因みに店主は岩手縣木炭移出同業組合黒澤尻支部に支部長の任にありて同業者の和親協調に努むるの外、検査當局と携へて検査の適正を圖り、同時に窯元指導をも忽がせにせず、又一面川尻支部管内に事業地を有する關係より、菅原川尻支部長とも連絡を圖り横黒線木炭の品位の統一を期する上にも努めてゐる。

## 横黒線陸中川尻の木炭

### 増産奨励と共同販賣施設を攻究

先年岩手縣山林會主催のもとに製炭講習會が開催されて以來製品の面目一新し改良の見るべきものが多い、木炭の移出量は資材林豊富なるに拘はらず鑛山旺盛の爲に昭和十一年度に比すれば約十萬俵を減じ昭和十二年度に於ける移出量は黒炭十四萬四千五百俵、白炭二萬九千六百八十八俵合して十七萬四千四百五十六俵を示してゐる、川尻支部にては減産傾向に鑑み昭和十四年度よりは増産助成費として年額二百圓を計上し施設を講ずることとなり製品は共同販賣の方法に依り山村の收利をより多く圖り得らるゝやふ講究してゐる、尙ほ銃後の婦女子として製炭に従事すべきことを奨励し、比較的製炭技術を要せざる方面に向つて、用材の枝と云ふが如きその他の殘木を製炭し荒となすことに勞務を集中せしめてゐるがそれが爲に込にも均しき質良好なる黒炭荒が多産されることは注目に値する、因みに此の地移出木炭を品種別に擧ぐれば左の如くである。

黒炭楢丸六八九八、楢割二六四〇〇、雜丸一一九五〇、雜割二四四六〇、楢荒一〇四九七、雜荒



六五五五九、合計一四四五〇〇俵、白炭楢込一〇〇〇、楢荒七〇〇、雜割七九、雜込三、〇〇〇  
荒二四八〇六、合計二九六八八俵

**移出業者** 數量の順位に紹介せば、和賀郡湯田村川尻菅原喜七商店、秋田縣仙北郡六郷町藤岡泰  
治商店出張所、和賀郡澤内村中川商店、和賀郡澤内村佐々木善吉商店、和賀郡横川目村八重樫儀左  
衛門商店、和賀郡横川目村小原昇商店、和賀郡湯田村高橋與助商店、和賀郡湯田村川村彌太郎商店  
和賀郡湯田村坂本政吉商店、以上を有力筋とす。

岩手縣和賀郡陸中川尻驛前

### 菅原喜七商店

木炭木材  
鐵道枕木

電話一〇番電略(スカキ)

振替仙臺八一五七番

店主は岩手縣木炭移出同業組合副組長の要職  
に擧げられ又今次の地方物價委員をも任命され

岩手縣林業界の重鎮である。營業方面は木炭直  
營並に共同出荷特約、製材、鐵道枕木等多方面  
に亘り規模の大いなるものがある、木炭は前掲  
の川尻驛移出木炭の各種の外に横黒線の各驛並  
に山田線、山形縣の米坂線等にも事業地を有  
し、東京、神奈川、千葉、秋田、新潟、埼玉、  
青森の各地へ供給されてゐる。

岩手縣和賀郡澤内村

### 中川商

木炭  
製炭移出

振替口座東京三九八一六番

生産地は澤田村一圓にして悉く直營にかゝり  
黒炭楢雜共に丸物二分制八分の比率に産出し又  
白炭雜荒上も生産す白炭は總量の二割内外なり  
陸中川尻驛より積込み東京秋田へ仕向く。

## 川尻物の實質

### 笹間と澤内の産

量の尠きを遺憾とするが川尻支部管内へは秋  
田縣の吉田式を學べる製炭職工が相當に配置さ

れて、笹間、澤内の部落里山に屬する樹齡十四  
五年生と云ふは白炭留窯燒として製出されて  
ゐる又黒炭では笹間の産になると種市物に比較  
して餘りに遜色がない、同地方は國有林が四  
割、民有林が六割であり、楢が三割、雜七割の  
割合である、その國有林を資材とせるものには  
納炭向の雜堅、大木物の黒炭雜割を産出する  
が、先年製炭講習會を開設せる以來は兩村の木  
炭改良組合が一層緊張度を加へ川尻木炭の聲價  
を高めることに努めてゐるので、改良されし數  
量が末だ多きに達せざる爲に、今尙ほ國有林資  
材に依る製品に依つて恰も聲價に覆面を掩はせ  
られてゐる形だが聽ては川尻物の實質を認めら  
るゝに到るであらう。

# 東北本線花巻の木炭

三六

## 黒炭と共に優秀なる白炭も産出

岩手縣花巻驛は著名なる花巻温泉を控へ又一面には花釜線の分岐驛である、木炭年移出量は昭和十二年度にありては二十萬四千五百四十二俵に達し内黒炭は八一%白炭は一九%の比率を示してゐる、黒炭櫓雜の振合は櫓四九%雜五一%である、樹齡は全生産の七割までは十五年生乃至三十年生の頃の若木であつて五十年、七十年と云ふ中老木が三割を數へられる、改善施設としては花巻支所管内に亘り各生産地部落を單位とせる木炭改良實行組合の設立を奨励して生産者の共同集荷販賣に努めしめ、検査にありても統一を期する方針のもとに生産地集荷検査の制に則り検査に際しては指導をも忽せにせず懇切に説明を與ふることに力めてゐる、更に移出驛にありては整束改良組合を設くる等検査當局の活動頗る見るべきものがある。

**品種別移出量** は黒炭櫓丸二〇三七八、櫓割五一九七八、雜丸一八〇九一、雜割四一五五四、松炭六七七九、栗炭八七八、荒二四四四〇、白炭櫓込一四八四二、雜込一四九九八、櫓荒一三七四、

雜荒五三〇一俵であつて白炭は若木は特に留窯焼を奨励するを以て質優秀なるものがある。

**移出業者** 此地有力なる業者は小原政治商店、中目直也商店、和賀幸吉商店、高橋金太郎商店、佐々木源吉商店の五店であり、北山鏘一氏もまた運送店を經營せる外に稀れに木炭の移出を營む場合もある。因みに北山氏は岩手縣木炭移出同業組合に主事であり、中目氏は花巻支部に支部長であり、和賀氏は副支部長である又高橋氏と佐々木氏とは共に代議員に擧げられてゐる、先輩小原政治氏は同地の重鎮にして嘗て花巻町長に推擧され就任せるうち花巻町有志の擧つて推薦に立つて縣議政に進出すべき優勢を逞ふし、立候補を宣したことあれども不所存者の現はれし爲に遂に逐鹿場裡を棄つるに到れるは惜しむべきであつた、今は政治方面を全然省みず木炭製産に全力を傾注し花巻の外に山田線宮古驛より改良せる木炭を製産し質に於て量に於て注目を惹いてゐることは次に紹介するが如きである。

岩手縣花巻町

### 木材移出小原政治商店

電話三十番電話(オ)

振替仙臺一三九〇番

店主は現に花巻合同運送株式會社に社長の仕事にあり又嘗ては花巻町長たりしこともある、營

業方面にありては最近下閉伊郡重茂村の民有林五百町歩櫓の若木を求め製炭を開始し山田線宮古驛より移出されてゐる、尙ほ從來より繼續の産地は上閉伊、稗貫、江刺の各郡であつて黒炭七割白炭三割黒炭では櫓丸、櫓割、荒、白炭では櫓込、雜込を産出し悉く手山である、積出驛は花巻、水澤、前掲宮古の三驛にして現在の仕向先は東京、神奈川、千葉の各消費地である。

岩手縣花卷町西公園通り

薪炭製繩  
製産移出



### 中目直也商店

電話七二番電略(ナカ)又ハ(ナ)  
振替口座仙臺三四七〇番

産地は稗貫、和賀、上閉伊の各郡に點在し手  
山八割買炭二割の率にて黒炭白炭と丈一尺四寸  
束廻り三尺の楢雜小割薪を生産されてゐる、花  
卷驛より輸出し東京、神奈川、千葉の各地へ供  
給してゐる、黒炭の樹齡は概ね三十年前後楢雜  
の角俵と荒とであり就中楢割が多い、白炭は樹  
齡二十年留窯燒楢込雜込相半ばし品質優良を以  
て知られてゐる。因みに同店の製品は丸三ツ星  
の商標と共に古くより評判がよい。

岩手縣花卷町驛通り相生町

黒炭白炭  
製産輸出

### 和賀幸吉商店

電話四三四番電略(ワカ)  
振替仙臺一三一五六番

店主は岩谷堂町の權威和賀榮助氏と同族關係  
にあり同地出身なるが故に白炭に造詣が深い花  
卷町に開業して十八星霜商運隆盛を極めてゐる  
移出品は黒炭楢丸、割、雜丸、割、相半ばし、  
白炭は楢込、雜込、荒にして樹齡十八年乃至二  
十年の若木留窯燒にして品質良好を以て聞へが  
高い、黒炭五割白炭五割の割合に産し黒炭は樹  
齡三十年乃至三十五年にして割物六割を占む  
仕向先は東京、神奈川、埼玉、千葉の各地であ

る、尙ほ小割薪をも移出する。

薪炭、銅鐵地金、製紙原料問屋

岩手縣花卷町豐澤町

### 金 高橋金太郎商店

電話二番電略(タカキン)  
振替口座仙臺七六七九番

手山七割買炭三割、稗貫、和賀の兩郡に跨り  
製炭所を經營し、樹齡概ね三十年黒炭では楢四  
分、雜六分、丸割相伯仲し白炭は吉田式留窯楢  
込雜込八割荒二割である、東北本線花卷驛より  
積入れ東京、埼玉、千葉へ仕向く。同店昭和十  
二年度にありては花卷驛移出量に於て第一位を  
示し、花釜線沿道の若木地帯へも手を延ばし優  
品の産地を目ざし共同出荷の特約買入をも眺  
む。

岩手縣花卷町



運送店  
兼 營

### 北山鏘一商店

電話花卷七一 番

店主は岩手縣移出同業組合の創立發起人にし  
て現に主事の職にあり、又一面岩手縣木炭移出  
商業組合に常務理事であり岩手縣木炭界の重鎮  
を以て任す。

### 花釜線沿道産地

### 土澤驛と晴山驛

此の地帯は若木多く黒炭と白炭とを産出し年  
移出量は兩驛合して三萬七千五百俵を算出し黒

白相伯仲し品位と品種とは花巻に準じてゐる。従つて白炭は十五年前後の若木を充て多くは留釜焼である。

**移出業者** には晴山驛前の山加印岡田徳治郎商店、和賀郡土澤町の角今印熊谷鐵郎商店、同町の山キ印佐々木辨次郎商店、和賀郡中内村の丸信印中内村信販購利組合の四店である。

### 鱒澤驛の木炭

白炭六萬黒炭五千餘

花釜線鱒澤驛集散の木炭は白炭六萬一千五百俵、黒炭五千二百俵を算し、白炭品種別は、楢込二二六〇〇、荒二五〇〇、雜込三二四〇〇、雜荒四〇〇〇、黒炭楢丸一二〇〇、楢割二五〇〇、雜丸三〇〇、雜割七〇〇、楢荒四〇〇、雜荒一一〇、若木にして白黒共に家庭用に適し市場より歡迎さる。

**移出業者** 上閉伊郡小友村の金モ印及川金十郎商店、鱒澤驛前の丸小印小友善藏商店、遠野町の丸キ印菊田榮助商店が此地方産出木炭の移

### 花釜線宮守驛

此驛よりは優良なる白炭を産し楢丸楢込、合して五千七百俵、雜丸込合して八千六百俵、楢荒二百五十俵、雜荒五百二十俵合計一萬五千七十俵を算する。

**移出業者** 遠野町の丸善印瀧田清治商店の獨舞臺の地である。

出を營む。

### 好評ある遠野の木炭

此の如くして改良統一に腐心

岩手縣遠野の木炭は切つて石があるとの定評を冠せるは量目が充實してゐること素よりではあるが樹齡も若く且つ炭質に締まりがあるからであらふ、遠野出張所當局が改良施設を緩めざる點より窺ふも偶然にあらざるべきを悟り得る、年移出量四十萬俵に垂んとせる遠野も漸次に炭材が更新されつゝある關係もあつて今は生産量も減退に傾き昭和十二年度に於て三十三萬五千俵を示してゐるこゝに改善施設とも稱すべき一端を紹介せんに、岩手縣林産物遠野支所遠野出張所では毎月十二日の定休日を利用し整束者の全員を集合せしめ検査吏員及び移出業者立會のもとに各移出業者の木炭倉庫を巡回して先づ検査格付の統整に資する爲に検査吏員並に整束者の全鑑識を整正し、調製及び俵装の統一を圖る上に忌憚なき批判會を行ひつゝある、更に又毎月二十二日には定期打合會を開き上閉伊郡西部検査吏員を參集せしめて検査施行上に關する打合會を開き移出業者側へも立會を促

し尙ほ整束者總員の出席をも求めて、品質及び等級に關する查定的協議を行ひ各自意見を披瀝したる後標準を決定しその決定を基調として山元指導に努めてゐる。

尙ほ検査に關しての等級別格付査定であるが舊檢時代には特等は絶對に出さぬ方針のもとに検査を嚴にした言ひ換れば等級格付を低ふして値を賣るに努めた方針の如くもあつて遠野は他に比して三錢高い五錢高いとあつた如けれども、改正規格實施後には縣内統一の見地に則り夫々規格に準據して適正を期すべくあつて要は検査の統一に主力を注がれてゐるよふに窺はれる。

**移出木炭の種別** 黒炭楢丸九四四八七、楢割一六四五二〇、楢荒一一七七、雜丸一四九七一、雜割二五五三二、雜荒三〇六九五、栗五〇六、松炭九六八、粉炭八八合して三十三萬二千九百四十四俵にして外に白炭楢込九九三雜込八三八楢荒二〇四雜荒二一以上黒炭白炭合計三十三萬五千俵を移出する。

**移出業者** 數量の順位に紹介せば山ト印豊田卯一商店、丸キ印菊田榮助商店は五角の勢力を示し次いで山ハ印奥島豊助商店、丸善印瀧田清治商店、土淵村の金夕印高砂洋一商店、遠野町の丸メ印菊池富貴商店丸夕印瀧田義一商店、山傳印小西傳之助商店、丸正印東京會陽組出張所穴澤岩三郎商店土淵村の金中印中村繁治商店の十店を數ふ。

岩手縣遠野町

### ト 豊田卯一商店

電話一七三番  
振替仙臺四一〇二番

事業地は上下兩閉伊郡に跨り多くは二十年乃至三十年の樹齡を撰び黒炭楢丸、割、雜丸、割荒、丸四〇%割六〇%の比率に産出す、積出驛は花釜線の遠野、綾織、岩手二日町、岩根橋の各驛、並に山田線陸中川井驛にして、主として東京市場と横濱市場へ仕向く

岩手縣遠野町

### Ⓢ 薪炭 問屋 菊田榮助商店

材木  
電話遠野二〇三番  
振替仙臺四三五五番

直營製炭所を上閉伊郡の各部落と下閉伊郡の一部に有し手廣く營み、黒炭と白炭とを移出するも大部分が黒炭にして品種は楢割七割、楢丸三割にして雜丸、割も又同率に産出し、楢七割雜一割五分、荒一割五分の率である、積出驛は遠野、鱒澤、綾織の各驛と山田線川井驛にして、炭材の樹齡は二十年乃至三十年生、仕向先は東京、神奈川、千葉の各地である、開業二十餘年遠野町の老舗を以て知らる。

岩手縣遠野町

### △ 薪炭 販賣 奥島豊助商店

生産  
電話一四七番電略(オク)  
振替仙臺九六九〇番

需要地の嗜好を汲み生産に留意し殆んど手山を営まれてゐる、産地は上閉伊郡中部の林地樹齡二十五年より古くとも四十年生を限りとされてゐる、檜割と檜丸とは七と三の割合に製出し、雑丸と雑割とは、四と六の割合にして、檜七割雑三割の比率に製産し遠野驛より積入れ東京、神奈川へ供給する。

岩手縣花釜線遠野町

### 善 瀧田清治商店

電話(セイ)又ハ(タキタ)

手山製品を遠野、岩手二日町、宮守の三驛より移出し、黒炭檜丸、檜割、雑丸、雑割、荒、白炭檜込、雑込を生産する、既述の如く宮守驛

移出の白炭は同店の獨占せる所である、主として東京市場へ供給す。

岩手縣遠野町

### タ 瀧田義一商店

電話一四三番電略(〇タ)

店主は衆望を擔ひ遠野町會議員に擧げらる、直情なる性格は營業の上にも現はる店主常に曰く「努めて優良品を生産し御得意より御小言を貰ふことは恥辱と心得てゐる但し弊店の手山て物は責任嚴選主義をモットーとしてゐるに依て使つて見て始めて眞價を認識して頂けるのである、之が即ち店則である」と語る直營地は上閉伊郡の東部及西部であり黒炭檜八割雑二割、

丸四分、割六分の率に産出し販路は東京市場にして遠野驛より移出する。

岩手縣遠野町

### メ 菊池富貴商店

電話一四四番電略(〇シメ)

振替仙臺一七五五五番

店主は二期に亘り遠野町會議員に擧げられてゐる、營業は手山が多く上閉伊郡の私有林を資材に充て樹齡十八年生乃至三十年生である従つて若木物にありては殊に歓迎される、檜七割雑三割の割合にして遠野驛より積入れ東京市場と神奈川縣へ供給す。店主は性格の然らしむる所か一たび取引を開始せば永續主義を遵り轉向を

好まぬ。

### 岩手上郷の産

花釜線岩手上郷驛移出の木炭は品位は遠野に準じ品種は悉く黒炭であつて、平倉、足ヶ瀬、仙人峠驛を合し年移出量五萬壹千六百二十俵にして、種別は檜丸九〇三四、檜割一六七七六、雑丸三五四四、雑割六七〇八〇、荒一五〇〇〇に類別さる、上郷村林野面積は七千百七十七歩にして國有林三千四百八十五町歩、御料林七千百七十七町歩、私有林千九百三十三町歩にして私有林は二十年乃至二十五年の更新林なるも國有林と御料林とは老齡樹が多い、因みに前記總數量中には地の利の關係より氣仙郡産約壹萬俵を含む

**移出業者** 上郷村の丸千印千葉喜惣治商店を筆頭に、山サ印佐々木熊次郎商店上郷信購買利組合、上郷村金仁印小向仁太郎商店、同村の新田兼松商店同村の林崎長兵衛商店、氣仙郡上有住村鈴木作兵衛商店の諸店が移出を営む。

岩手縣花釜線上郷驛前

### ⑩ 木炭 千葉商店出張所

移出

電略(○チ)又ハ(チハ)

上閉伊郡上郷村、氣仙郡上有住村の民有林若木二十年生乃至三十年生資材を直營し岩手上郷足ヶ瀬、仙人峠の各驛より東京、神奈川へ仕向く、楢三割、雜五割、荒二割の率に産出する、雜の樹種はタモ、イタヤ、ソロ、ガビ、アサ

ダ等にして硬度高く品質亦良好である、楢は丸割相伯仲の量である。

## 大迫産出木炭

### 石鳥谷驛より積出

### 黒炭白炭共に産す

岩手縣稗貫郡大迫町産出の木炭は稗貫、紫波、和賀の三郡の産にして、黒炭二萬六千五百六十俵楢四六%雜五四%の比率にして、白炭一萬七千八百八十四俵楢七九%雜二一%外に栗、松粉炭を加へ合計四萬四千八百二十三俵を産し東北本線石鳥谷驛より移出し、消費先へ仕向けられてゐる、白炭は品質優良なるに價格が低廉で

あるとの好評を博し京都、神戸、大阪等へ歓迎され、黒炭は東京、神奈川へ仕向けてゐる。

### 品種銘柄別

- 黒炭楢丸二五六〇、楢割六八九
- 二、楢荒二七五二、雜丸三四三五、雜割四九八一、雜荒五九五〇、合計二萬六千五百六十俵、
- 白炭楢割一九、楢込一二二八九、楢荒一二八七
- 雜込三〇三七、雜荒五五二、外に栗七一七松九六、粉二六六、合計一萬七千八百八十四俵以上昭和十二年度に於ける移出量である。

### 移出業者

有力なる業者には大迫町金平印村田金平商店、同町丸三印一井祥太郎商店、同町丸王印平澤千藏商店を著名とされてゐる以上の諸店共に白炭黒炭を生産し又は部落共同出荷に待ち關西は京都市場に多く神戸市場へも供給す

岩手縣稗貫郡大迫町

### 手山 木炭 村田金平商店

電話 大迫 一八番  
電略(ムラ)又は(キン)

樹齡十五年乃至三十年の若木資材である稗貫郡内川目、外川目、龜ヶ森並に紫波郡佐比内村の各部落に於て手山を經營し主として白炭楢込楢込と荒とを製産し、尚ほ黒炭楢雜各種を生産してゐる白炭八〇%黒炭二〇%の率であつて東京、神奈川、關西へ供給されてゐる。創業四十年信用ある老舗にして内川目の百五十町歩、外川目の三百町歩其他の資材林面積を合し七百町歩は輪伐に依つて施業案を樹て資材の蓄積保續

を圖つてゐる。

岩手縣稗貫郡大迫町



木炭 製産

### 一井祥太郎商店

電話 三十番

稗貫郡内川目、外川目、紫波、和賀の兩郡内の各地に於て手山を營み黒炭は地場の消費に充つる外僅かに東京、神奈川の市場へ供給するに過ぎぬなれども、大迫白炭と稱する留窯燒白炭は特に神戸市場に迎へられ常取引店を有してゐる檜堅込四割雜堅込六割の率である、黒炭は檜七割雜三割にして白炭八〇%黒二〇%の割合である。神戸は四國、山陰の白炭を迎へてゐるが東北に比せば格高である爲、鐵道運賃が加算さ

れても尙且つ廉價なるに加へ品良好なりとの評が高いと聞く。

岩手縣稗貫郡大迫町



木炭 移出

### 平澤千藏商店

電略(ヒラ)又ハ(セン)

大迫の白炭は近時關西市場に迎へられ、同店では神戸、大阪、京都に供給し雜堅込、荒上の如きは十五年乃至二十年の若木なるに加へ留窯燒なるを以て家庭用に恰適し聲價を博してゐる、檜込、荒、雜込、荒の品種にして檜雜相半ばしてゐる、外に黒炭は下閉伊郡小國村に於て手山を營み山田線川井驛より移出を營まる。

## 岩手日詰の産

### 黒炭白炭共に産出

岩手縣の日詰と言へば檜崎式を以て知られ田口倍次郎氏旺盛の當時は黒炭の覇を以て任じてゐた、時代は推移し今は小野寺式岩手式等が普及されてゐる、いま日詰驛より移出する木炭の數量を縣の調査に見るとき年額に於て黒炭三萬四千百三十俵白炭三萬九百五十八俵、合して六萬五千〇八十八俵を示してゐる、品種別にすれば黒炭檜三六、檜丸四一七六、檜割一〇七三三、檜荒四五七三、雜丸一七九四、雜割三五六一、雜荒五七三八、檜六七%雜三三%の割合で

ある、白炭は檜丸二一、檜割三四、檜込二〇六八〇、檜荒一二四三、雜込八四三九、雜荒四二二五、檜堅七一%雜堅二九%の生産率である、

岩手縣紫波郡志和町

### 友 齋藤亀次郎商店

電略(サイ)又ハ(サイト) 振替仙臺七二六二番

黒炭檜丸、檜割、雜丸雜割、荒の各種と白炭檜込、雜込、荒の各種を移出す、紫波郡山王海水分、紫波の各部落に手山を營み、白炭にも近時力を注がれ檜込、雜込等若木なるを以て歡迎されてゐる、黒炭は檜六割、雜四割の割合である、東北本線の日詰驛並に石鳥谷驛より積込み



主として東京市場へ供給される、同店は水分村 之も亦木炭と共に信用を博してゐる。  
産の壘表を移出し志和表は耐久力に富めるとて

## 古來より知らるる盛岡の堅

### 三十餘萬俵に對し八六%が白炭

岩手縣盛岡の白炭は古來よりその名を知られ宮内省にては特に盛岡堅炭を指定されし歴史さへ有してゐる、主として東京市場に愛用され、橋場線物と共に家庭用雜用に供せられてゐる、近時資材も若木となり、實用價値に富める楢荒と云ふが多産されるよふになつたことは注目し値する、昭和十二年度に於ける總移出額三十萬七千二百九十六俵の内二十六萬五千三百四十六俵は實に白炭の占むるところであつて、黒炭は四萬九千九百三十九俵である。

品種別内譯 白炭は楢丸六二、楢割七二、楢込一四二〇五三、楢荒一五六七六、雜込八九七三五、雜荒六二六五、楢堅十五萬七千八百六十三俵、雜堅九萬六千俵、楢六二%雜三八%である。黒炭は

櫟三二五、楢丸六四六五、楢割一〇七九七、楢荒二〇六七四、雜丸五五六、雜割八九八、雜荒二二二四、楢三萬七千九百三十六俵九〇%、雜三千六百七十八俵九%、櫟一%の比率に移出される。

盛岡市鉈屋町

## 斎川村市助商店

電話 四四五番

## 千葉長太郎商店

盛岡市新馬町

電話五九七番電略(チバ)

白炭は十五年乃至二十年、黒炭は三十年前後の若木を資材に充て悉く手山にて經營さる、岩手郡外山、藪川の各部落、山田線の淺岸、大志田陸中川井、川内へも手を擴めてゐる白炭八割黒炭二割、白炭は込八割、荒二割、雜堅七割、楢堅三割、黒炭は楢七割、雜三割の割合である、積込驛は盛岡、山田線の川内、陸中川井の各驛

であり年移出額六萬俵東京、埼玉、山形、神奈川の各地へ供給する。  
白炭六割、黒炭四割年移出額六萬五千俵、手山と買入炭とであり橋場線及び山田線の各地にして樹齡十五年乃至三十年、白炭は楢四割、雜六割、雜堅は家庭用雜用として殊に歡迎されてゐる、黒炭は楢七割雜三割であり、積出地は

山田線の各驛及び橋場線にして、仕向先は東京を主とし千葉、埼玉、神奈川に及ぶ、因みに白炭は向島、龜戸、大島方面に根深き販路を有す。

### 高評 山田線特選 黒炭角俵各種

出張所山田線墓目驛前

木炭直營移出問屋

盛岡市新馬町馬檢場通り

**仲** 木炭 吉田清一商店 枕木

電話九三三番電略(○ナカ)

手山大部分を占め買炭は、二割内外か白炭を主に黒炭をも移出し山田線事業地よりは黒炭荒を多量に而かも一品積に供給する白炭は盛岡産

岩手 **分** 加藤清次郎商店

電話一〇八五番 電略(カ)又ハ(カト)

の名に背かず檜込、雜込、荒の各種を産出する、下閉伊郡、岩手郡の産、積出驛は盛岡、山田線區界、淺岸、平津戸、川内、陸中川井の各驛にして東京、千葉の各地へ仕向く。

店主は高等専門の學府を出で一年志願兵豫備少尉、理解に富む、父祖の業を繼承し製炭移出を營む、その山田線宮古の手前墓目の手山は檜七割雜四割にして精選殊に良く聲價を博す

## 岩手縣橋場線雫石の木炭

岩手縣岩手郡橋場線雫石驛より移出する木炭は昭和十二年度にありては十八萬八千七百四十二俵にして内白炭十四萬三千四百四十三俵、黒炭四萬五千二百九十九俵である、改善施設としては雫石支部主催のもとに毎年一回長期三十日間に亘り製炭講習會を開催し來れるが今後も繼續行ふべしとされてゐる。それと相俟つて部落に木炭品評會を舉行し優品産出を奨勵する、又生産地受檢地においては隨時等級査定會を開き検査の統一を圖りつゝあると共に受檢地に於て検査成績に基き個人別に等級を通算し成績良好なる製炭者に對しては表彰を行つてゐる因みに先年岩手縣山林會主催雫石支部後援のもとに西山村に製炭講習會を開催せるが、同支部では本年十一月頃を期し此地に製炭競技會を開催すべしとのことである、斯くして雫石の木炭は家庭向を目的に將た生産經濟の條理に合致せしめ搗て、加へて品等の統一を圖るため改善施設依然として繞まざるものがある。

品種別移出量 を細別せば左の如し

白炭	同割	七八五五	岡支所御明神出張所管内の産にして品種も品等
檜込	雑丸	一八七九	も雫石産と五角の性質を具有してゐる、昭和十
同荒	同割	四〇一七	二年度に於ける品種別移出量は左の数字を示し
雑込	雑荒	三二一七	てゐる。

同荒	松炭	一八三四九	白炭	黒炭			
計	一四三四四三三	栗割	一二五〇	檜込	一三五四〇	檜丸	二四一一
黒炭	粉炭	五〇二〇	同荒	一三六〇	檜割	四一二七	
檜丸	三六六四	計	四五二九九七	雑込	五八六六八	同荒	二五
				同荒	一〇六七六	雑丸	二七一五
				計	七八二四四俵	同割	三〇八六
				同荒	二〇三五	計	一四四五九俵

### 橋場驛移出木炭

#### 白炭雑込多産の地

秋田縣生保内と連繫すべき、橋場線の終點橋場驛より移出する木炭は岩手縣林産物検査所盛

野石橋場兩地移出業者 雫石驛前丸力印の上

同驛前山幸印の本郷宗幸商店、岩手郡御所村山十印の中野源吉商店、岩手郡御明神村山文印の工藤善太郎商店、岩手郡御所村丸ト印の澤藤徳太郎商店、外に岩手郡御明神村に御明神木炭移出組合の設けありて新里富次郎氏が組合長に擧げられてゐる。

炭業の興隆施設にある、營業方面は悉く手山にして白炭七割黒炭三割年移出量大凡七萬俵、橋場線雫石橋場の兩驛山田線大志田、腹帯の四ヶ驛より積出し關東市場へ仕向く。

岩手縣岩手郡雫石驛前

木炭移出 **カ** 上野勘六商店

電話雫石二十二番  
振替仙臺一五七四〇番

店主は木炭の主産地西山村長の重任にあり木炭の大量産地だけに村民の多くは木炭生産を業とされてゐるので行はるゝ村自治政の大半は木

木炭移出 **幸** 篠村幸次郎商店

振替仙臺二四四六八番

直營のもとに岩手郡雫石、西山、御所、御明神の各部落と下閉伊郡の川井、小國の兩村に手を營み且つ共同出荷に向つての特約買入等、白炭八割、黒炭二割、年移出量九萬俵外に松炭十二キロ一萬五千俵を産し、橋場線雫石、橋場山田線川内、箱石、陸中川井の各驛より仕向け

東京、埼玉、千葉、神奈川を販路とされてゐる。

橋場線の橋場、雫石の兩驛并に山田線川内驛

より移出し白炭八〇%黒炭二〇%の比率に供給

してゐる。白炭では雜堅八割檜堅二割、黒炭は

檜雜相半ばしてゐる、仕向先は主として東京市

場である。

岩手縣岩手郡御明神村

### ☆ 工藤善太郎商店

電略(クト)又ハ(ク)

## 山田線川井の木炭

### 黒炭白炭合して六十萬を突破

山田線に於ける多量生産地は岩手縣木炭移出同業組合川井支部管内にして黒炭と白炭とを合し昭和十二年度移出量は六十萬九千二百六十八俵に達し黒炭七〇%白炭三〇%の比率に産出する、川井村は原料林極めて豊富にして岩手縣木炭の寶庫と稱するも過褒ならざるものがあつて、現在の巨額

に加へ尙且つ將來を囑望さるゝを以て沿線の業者は素より雫石盛岡、遠野方面の業者にして此の地に製炭の手を延長するもあり或は生産地部落の共同出荷を目がけて暗躍を試みんとするもある、而かも集荷木炭は周ねく關東市場に仕向けられ、黒炭白炭共に大衆向家庭用として歓迎されてゐる、今川井支部管内陸中川井、箱石、川内を總括せる移出量を品種別に掲ぐれば左の如くである。

#### 黒炭

#### 白炭

#### 栗炭

#### 四九

檜丸 三二一九一

檜丸

五六

以上の如くにして雜堅十一萬八千七百七十二俵

檜割 一二〇〇九九

檜割

一五六

檜堅五萬八千三百四十八俵、黒炭檜二十三萬六

檜切割 八八六

檜込

九五九九

千五百三十七俵、雜十八萬六千九百六十八俵と

檜荒 八三〇〇〇

檜荒

三八五二七

なり檜五六%雜四四%白炭檜は三〇%雜七〇%

雜丸 一六五三八

雜割

三三〇

の生産率である

雜割 三一八三二

雜込

一〇七五一〇

移出業者 主なる業者には川井驛より移出

雜切割 三八一

雜荒

一〇三三二

を營むものに、か印の内澤角助商店、宮古林業

雜荒 一三八二一七

計

一七六五二〇

株式會社川井出張所主任喜藤國藏氏、驛前の山

計 四二三五〇五

粉炭

七一九三

信印の高橋榮五郎商店、川井村丸幸印の福田幸

平商店、山松印の山口松太郎商店、川井村繫木炭出荷組合長の佐々木長助氏、箱石驛には山二印の西山要次郎商店、丸テ印の小田島貞治商店丸モ印の盛内傳次郎商店、丸カ印の藤原勘助商店、山益印の太平益三商店、金太印の鈴木佐治助商店、山上印の佐藤三夫商店、川内驛には妻神兼松商店菊地善藏商店外に諸店がある。

岩手縣山田線陸中川井驛前

### か 木炭 内澤角助商店

問屋

電略(ウ)又ハ(ウチ)

店主は川井驛合同運送の社長であり岩手縣木炭移出同業組合川井支部長の任にある、木炭業は川井、刈屋の兩村の樹齡三十年生の若木を自

らの經營に依つて製炭する外買炭は生産地各部落の共同出荷組合の特約品である、各種黒炭及び白炭を移出し、集荷木炭は陸中川井驛、腹帯驛、川内驛より積入れ東京、神奈川、秋田の各地へ供給されてゐる。

岩手縣山田線川井村繫

### サ 繫木炭出荷組合

代表 佐々木長助

振替仙臺六八七〇番

同店全扱量の五割は繫木炭出荷組合の製品にして其他に個人經營の手山あり川井、小國兩村の産黒炭檜割、丸、雜割、丸、荒を市場へ販賣してゐる、陸中川井驛を發送驛とし東京、神奈川へ供給す。

岩手縣下閉伊郡川井村川井

### 松 山口松太郎商店

振替仙臺一二二五三番

支店 山田線陸中川井驛前

川井、小國兩村の産黒炭檜、雜の各種を東京市場へ供給するの外、貨物自動車運輸部を設け運輸業を盛大に經營する外雜貨商をも營む。

木炭移出、自動車運輸業

岩手縣下閉伊郡小國村

### ハ 香西八郎商店

電略(カネ)又ハ(八)

振替仙臺一八九四九番

下閉伊郡小國、川井兩村に於て直營し樹質よき荒多産にして其他に檜丸、檜割、雜丸、雜割を製出する全總數量の七割は檜荒雜荒と稱せられ川井驛より東京、千葉へ仕向く。

岩手縣下閉伊郡小國村

### 十 木炭木材 澤田松太郎 雜貨旅館

電略(サワ)又ハ(マツ)

木炭は小國村各地に於て直營す、用材の枝を荒に生産する關係より恰も黒炭丸割込と稱し得る程の良質の荒を多量に産する荒一品積の求めにも應じ得らるべしと、檜雜丸、割、荒積合せならば好都合ならん、陸中川井驛より中央市場へ供給す。

岩手縣下閉伊郡小國村

### 命

木炭移出  
雜貨荒物

### 前關朝吉

電略(マイ)又ハ(マ)

振替仙臺一二三六五番

同店製炭部製出の木炭は檜荒、雜荒多産にして亞ぐに檜割、雜割にして丸物二割、割物八割、ザク六〇%の振合に産出し積出驛は陸中川井にして主に東京市場を販路とされてゐる。

岩手縣山田線箱石驛前

### 力 藤原勘助商店

電略(カン)又ハ(〇カ)

店主は製炭業を經營すること古く創業二十年

に達するであらふ、曩きには吉濱にあり次いで

平津戸驛前に移り現在は箱石驛前に於て泰然と

して木炭直營移出を營む、同店は悉く手山にし

て自ら資材林を購入し自らの採算のもとに焼子

を使役す、現在の資材林は向ふ五年計劃なりと

云ふ、製品は燒製法、資材の調製、選別、佞装

の悉くが精巧綿密を極め取引先に信用を博して

ゐる、若木は二十年乃至三十年檜六分雜四分を

産し外に老齡樹檜割並を多産する本品は格安に

して納炭向に適する又雜丸雜割は樹種良質にし

てイタヤ、スベリ等が多い、積出驛は箱石驛と

陸中川井驛にして販路は東京を中心に近縣の各

地である。

岩手縣山田線箱石驛前

### 三

手山經營  
木炭移出

### 西山要次郎

電略(ニシ)又ハ(ニ)

小國村の山林實測面積三百町歩に築窯二十餘基完成、手山經營のもとに黒炭檜、雜、荒と白炭雜込並、荒上を生産しつゝある繼續事業として漸次擴充計劃を樹てゝゐる、箱石及陸中川井より積込み東京神奈川の各地へ供給する。

岩手縣山田線箱石驛前

### テ 小田島貞治商店

電略(〇テ)又ハ(オタ)

製産地は川井村の各部落樹齡三十年前後の資材を購め檜丸、割雜丸、割、檜荒、雜荒を産出

し白炭檜堅をも生産されてゐる、同店は横黒線横川目に本店を有し製炭移出創業二十年の閱歴を累ね今に到る、箱石驛より東京市場へ仕向く。

岩手縣山田線川内驛前

### 共 妻神兼松商店

電略(サイ)又ハ(カネ)

生産地は川井村、山田線の川内、平津戸、箱石の三驛より移出する、黒炭檜丸と檜割、雜丸雜割、檜荒、雜荒の各種を生産し、荒八割を占む、外に白炭檜四割雜六割の振合である、同店こそは荒を求めんとする市場業者への福音とも云へる。

岩手縣山田線陸中川井驛前

## 助 熊澤助三郎商店

### 出張所

電略(〇スケ)又ハ(スケ)

同店本店は北海道にあり店主は無限の資本を擁立し製材を營めると聞く、當山田線の好望なるに着目し夙に小國村字小國實測面積八百町歩の資材を購入し製材部と製炭部を設け、製炭は昭和十二年一月に着手し昭和十三年度には十萬俵、昭和十四年度には二十萬俵の施業案を樹立してゐる。全山總産額壹百萬俵を見込まれる。以上は直營にかゝる計劃であるが、外に川井、小國兩村各部落よりせる生産者の共同販賣木炭の

て事業を營まれる、實に山田線の巨商と謂へる。

特約をなし此數年額二萬俵を豫想される、品種は黒炭荒(丸俵ザク)五割を占むべく、白炭雜込、雜荒上合して四割、白炭檜込、檜荒合して一割の振合である、積出驛は陸中川井と箱石の兩驛であつて、現在に於ける仕向先は東京市場と茨城縣下であるが、生産の増加と共に當然販路を擴張すべき必要に促がされることにならふ、因みに白炭雜込及び荒は工業用其他納炭に恰適すべく此種品目が全産額の七割を占むると云ふことであつて、その他は家庭用に需求せらるゝことになるが、概して大衆向製品であり値ひも格安なるが故に時代向とも言へる、同店には小國村に製炭事務所を有し、陸中川井驛前に木材木炭移出事務所が設けられ春夏秋冬を通じ

一一七六〇、檜荒一四九〇〇、雜丸三三〇〇、雜割五八五〇、雜荒一七八〇〇となる。

移出業者 雫石驛前の上野勘六商店、岩泉町の中川重三郎商店、茂市村の工藤利三商店、腹帶村の裴岩重雄商店の諸店である。

## 腹帶驛の木炭

山田線腹帶驛移出木炭は年額五萬八千八百俵にして品種を内譯せば黒炭檜丸四二〇〇、檜割

## 山田線茂市驛移出の木炭

### 黒炭檜雜四十六萬餘の大量に達す

刈屋村の寶庫を控へ、彼の有名なる押角墜道の開鑿が話題となれる當初の豫想は今や全く實現して、岩泉町を中心とせる附近村落の産、さては安家、大川、小川各村の産にして嘗ては小本又は本線

へ搬出せられたる悉くが、此の驛へ集荷さるゝこととなり、且又刈屋村の切炭箱入木炭の始祖である小山田舜二氏の多年の努力もこゝに切丸、切割の數字を現はすに到り其量の漸増するこそ一異彩と稱すべきものがあつて、今や茂市驛移出木炭は黒炭四十四萬二千六百七俵と白炭二萬〇百五十六俵、合して四十六萬七千九百六十三俵を帝都を中心とし周ねく關東市場へ供給するの優勢を逞ふるに到つた。左に品種別に掲げて取引上の資に供せん。

<b>黒炭</b>		雑切	一九二七〇
楢丸	四〇九八〇	雑荒	一三七七一〇
楢割	一二七二五三	計	二〇六六七九
楢切丸	三四六一	<b>白炭</b>	
楢切割	二二一五三	楢丸	二〇五
計	一三三三八二	楢切	一〇五四
楢丸	一八五三五	楢切丸	二五七四
同割	三二一六四	楢切荒	八二四
		計	四六五七

雑丸	二〇	小山田舜二商店	刈屋村
雑割	三三三五	折祖清五郎商店	刈屋村
雑込	一〇九三〇	加藤正憲出張所	岩泉町
松荒	八二二五	岩徳商店	宮古町
松炭	二五	澤向吉三郎商店	岩泉町
粉炭	五一七五	渡邊操商店	茂市驛
合計	五四七八六四	山本權正商店	刈屋村
		山崎善四郎商店	宮古町
		岩見政三商店	刈屋村
		吉澤菊次郎商店	刈屋村
		千葉長太郎商店	盛岡市
		橋本岩松商店	茂市驛
		佐々木岩松商店	平館村
		阿部繁孝商店	福岡町

**移出業者** 宮古林業株式會社茂市出張所の十一萬六千九百五十二俵を筆頭に、茂市村高中勝利商店を最終順位に十七店の多きに達してゐる左に主なる業者を移出數量順位に紹介せん。

宮古林業株式會社 宮古町  
久保綱藏商店 茂市驛前



高中勝利商店 茂市驛

岩手縣山田線茂市驛前



木炭  
輸出

### 渡邊操商店

本店福島縣常磐線木戸村  
振替口座 東京四八七五〇番

茂市驛に近き地域に資材を購入し専ら手山を  
經營し黒炭楡丸、楡割、楡荒、雜荒を産出する  
年移出量二萬七千俵、茂市驛より積出し、東京  
神奈川、千葉の各地へ仕向く、荒は川井物と同  
じく丸割込と均しく徳用品として歓迎されて  
る。

## 岩泉町の木炭

に開發せられつゝあつて木炭の生産は逐年増加  
の傾向を辿りつゝある。

**移出業者** 丸一本店澤向吉三郎氏、業界での  
重鎮中川重三郎氏、黒澤尻町加藤正憲氏の出張  
所、阿部要一郎氏、更に小島谷村の平野倉藏氏  
等を主なる業者とされてゐる、

**改善施設** 岩泉出張所では各移出業者の木炭  
倉庫に標準木炭を陳列し製品の統一と検査の適  
正を期すべく努めてゐる。

岩手縣岩泉町大橋通り



木炭  
移出

### 丸一本店

店主澤向吉三郎

電話三八番電略(〇一)

振替仙臺四八〇七番

## 山田線茂市驛より移出 生産は逐年増加の傾向

岩手縣下閉伊郡岩泉町産出の木炭は前掲の茂  
市驛移出の中に包含されてゐるが、こゝに岩泉  
町木炭界を紹介せんために切離し詳述せんに、  
同地は資材豊富なるが故に或は老木地帯の如き  
觀あれども、更新されし部分は十五年生より三  
十年生のもの五割に達し残る五割が老木と云ふ  
ことになる、斯く若木地帯多きが故に全生産額  
十五萬俵中楡丸二萬五千俵を占め楡割五萬三千  
俵、雜丸一千八百俵、雜割三千六百俵、荒ザク  
二萬俵と云ふ振合に生産されてゐる、同地方は  
山田線の開通以來交通の便に恵まれ林源も自然

下閉伊郡岩泉町、大川村、有藝村の産手山に  
屬するもの六割と買炭四割の振合にて事業を營  
み、黒炭楡五割雜三割と荒二割と外に白炭楡荒  
を移出する、老齡樹若木七割を占め資材林の悉  
くが民有林なれば樹質は良好である。

## 葦目驛の木炭

山田線葦目驛よりは黒炭四萬百十九俵を移出  
す、品種別に掲ぐれば楡丸三六〇、楡割一〇〇  
五〇、楡荒一一〇二〇、雜丸二五〇、雜割四〇  
一〇、雜荒一四〇四〇にして左の諸店が移出を  
營まれてゐる。

加藤清次郎商店

盛岡市四ツ家町

阿部安之助商店 宮古町保久田  
 吉田清一商店 盛岡市新馬町  
 飛澤仁太郎商店 藝目驛丸通

### 山田線の王者

### 宮古産出木炭

検査当局の指導と當業者の熱誠樹齡亦十五年二十年若木多し

岩手縣宮古町集散の木炭は中央市場に聲價を博し、資材若く、調製の入念製炭技術の普及、検査の適正に依るものと謂ふべく、検査當局に

は宮古支所管内駐在検査員を招集し、隨時査定會を開催して検査格付の統整と検査の適正に努め、又各移出業者の倉庫使役者を以て組織せる整束組合の設けありて之又必要と認むる場合には總會を開きて改良を圖るべき諸般の打合を爲す等施設亦宜しきに適ふてゐる、移出數量は資材が若木に更新さるゝに加へ山田線開通に伴ふて他驛へ分布さるゝを以て自然移出量を減じ現今にては一ヶ年三十萬俵内外にして昭和十二年度の數字は左の如くである。

黒炭  
 楢丸 六五四三九  
 楢割 一一五三九七  
 雜丸 二一三五四

宮古町八幡通り

### 倉部外一郎

電話三七三番

宮古町光岸地

### 企亀章 悟商店

電話二六一番

宮古町横町

### 内藤良多

電略(ナイト)

宮古町保久田

六九

雜割	二二七六三
楢荒	二二一九七
雜荒	三七五〇一
松炭	一八七
粉炭	七九〇
合計	二八七五一五

### 宮古驛移出業者

宮古町築地通り

宮古林業株式會社 **宮古支店**

電話一八五番

# 分 岩 泉 益 男

電略(イワ)

宮古町横町

# 分 中 洞 衆 吉

電略(ナカ)又ハ(ク)

宮古町保久田

# 分 阿 部 安 之 助

電話七十四番

宮古町舊館

# 分 岩 田 德 右 衛 門

電話二十番

宮古町築地通

# 分 岩 船 常 藏

電略(カネイ)

宮古町本町

# 山 山 善 木 炭 部

電話十四・十五番

岩手縣宮古町八幡通り

# 分 倉 部 外 一 郎 商 店

振替仙臺一〇六六三番

電話三七三番電略(クラ)

樹齡二十五年頃合の資材を直營し其他部落改

を擴張し五萬俵供給の計劃であると。

岩手縣宮古町保久田

# 分 岩 泉 益 男 商 店

電略(イワ)又ハ(イ)

良組合及び共同移出組合等の特約買入等を合し年移出額九萬俵を下らず。仕向先は東京市場は山手線に多く地方は千葉、神奈川、群馬の各縣に販路を有す。精撰せる製品なるを以て宮古木炭の王座を占め聲價が高い。

岩手縣宮古町横町

# 分 内 藤 良 多 商 店

電略(ナイト)又ハ(ナ)

手山製品七割に買炭三割にして事業地は山口、千徳、花輪、磯鷄、津輕石の各部落にして樹齡二十年前後の若木物なり、楢丸、割、雜丸割、楢七〇%雜三〇%の振合に産出す。昭和十二年度は三萬俵を移出せるが本年度は買炭地域

新進氣鋭將來性に富む、同店は地方販賣に主力を注げるも近時縣外移出に躍進し、宮古、茂市、花輪、山口、の各村を集荷領域とし、年移出量三萬俵、宮古、茂市の兩驛より、東京市場の外千葉群馬へ供給す、樹齡二十年の若木物を多く取扱ふも、從來地方向の販路へ充てたる楢割舊檢三等品級の製品も亦多量に達するとある。

岩手縣宮古町横町

### 命 中洞 兼 吉 商店

電 略 (ナ カ)

店主は温順そのものゝ如き性格、移出木炭も店主性格の現はれとも云ひ量より質を貴び自ら毎俵に目を通し厳選主義をモットーとされ宮古の山中印と謂へば夙に中央市場の聲價に上る、調製の精緻、包装の技巧、宮古木炭の標本と稱するも過褒ならず、手山七割事業地は千徳、山口、崎山、花輪の各村にして、山田線茂市、墓目、宮古の三驛より積出し主として東京市場へ供給す。

岩手縣宮古町築地通り

### 不

手山經營  
木炭移出

### 岩 船 常 藏

電 略 (カ ネ イ)

同店は山田線千徳驛より移出し樹齡十五年乃至二十年の里山若木を直營のもとに製産し主として東京市場へ供給す、楢丸楢割が五〇%雜二〇%若木ザク三〇%の振合なり。

岩手縣宮古町

### 大 森 清 司 商店

電 略 (セ イ) 又 ハ (セ)

同店は従來地方販賣のみを營み來れるが先年より縣外へ移出を開始し手山と買炭と漸次に規

模を擴充しつゝ、現今は豊間根と刈屋村和井内に事業地を有し宮古、豊間根の兩驛より東京市場へ移出を營まれてゐる、品種は黒炭楢丸五割、雜三割、荒二割の比率である。

### 山田驛の木炭

山田線山田驛の木炭は略ぼ宮古に準じ良品を産出してゐる昭和十二年度に於ては十萬八千六百六十九俵を移出してゐるが、多くは宮古町の業者に販賣し直接移出を營むものは山田町齊藤健次郎商店が稀れに營まれるに過ぎざるべく眺む、同地産を品種別にせば左の如し。

黒 炭 楢 丸 一五〇四九

雜 割	一六八二〇	雜 丸	一一七六一
楢 割	四五六二六	雜 荒	一五〇九四
楢 荒	四三二〇	計	四三六七五
計	六四九九四	合計	一〇八六六九

### 田老産出木炭

### 宮古積と八戸廻送

岩手縣下閉伊郡田老港は木炭の産額著減して昔日の倅なく殊にラサ工業が多量を消費する爲に老木裾物の悉くは地場にて販賣するが故に東京へ移出する木炭は若木の十五六年生より二十年生を資材とし且此地駐在の検査員は稀に見る熱心家にして山元生産検査に臨んでは集合検査

の制に則り製品に就いては其の短を指摘して指導講話をなし、移出検査に際しては之も亦日割を決定し各移出業者の集合を求め所謂立會検査を行はれてゐる、而かも加ふるに時々等級査定會を開き格付の統一を期するに努めてゐる、又販賣方法の指導にありても田老木炭共同販賣組合の組織を斡旋し林本長次郎氏組合長に擧げられ販賣に際しても先づ總會を開き市場價格を究め市場と協定したる後發送する、斯くて相互福利の増進を圖るに努めてゐる。

移出木炭種別 宮古驛經由東京市場へ仕向けらるゝ數量は昭和十二年度にありては黒炭楡丸一九六六、楡割七二〇二、楡荒三八一三、雜丸六四二、雜割九二五、雜荒八四八、合して壹萬五千五百七十六俵にして、其他に舊慣を踏襲し船にて八戸市へ回送さるゝ數量九千餘俵に達すべしとのこと。

移出業者 林本長次郎、小幡松之介、山崎勘藏、佐藤由三、赤沼喜兵衛の諸氏あり山共印田老木炭共同販賣組合に於て一手に移出を營む。

## 荒屋新町を中心の花輪線

### 白炭としての視聽を集むる田山

岩手縣の岩手郡の一部並に二戸郡に屬する花輪線は木炭の主要産地であることゝに好摩驛より順次に移出驛を擧ぐれば大更、平館、松尾、赤坂田、荒屋新町、田山、兄畑の七驛である、移出量は大更驛が二萬六千二百二俵、平館が三萬七千二百四十俵、松尾が五千六百俵、荒澤支部管内荒屋新町と赤坂田を合して三十三萬七千七百八十八俵、田山、兄畑の兩驛が白炭十萬五千九十八俵黒炭四萬三千二百二十四俵、斯くて花輪線の移出總數は五十五萬六千三百八十俵に達してゐる左に各驛に就いて品種別數量と移出業者を紹介せん。

## 大更移出木炭

花輪線大更驛集荷木炭は里山は十五六年生なるも田頭、原笠の部落には四、五十年生の中老木多く若木物四割、中老木物六割と稱し得べく全移出量は二萬六千二百二俵を示し、楡丸一三九一、楡割一九四九、雜丸一三八、雜割二二四、

松炭一七二九三、栗炭一〇九、丸俵ザク一〇三一、白炭楡込二五八四、雜込一四八三俵である。  
移出業者 岩手郡大更村山井印の井上百次郎  
商店を筆頭に同村山三印の三浦清次郎商店、岩手郡田頭村山ヨ印の高橋與七商店を數ふ。

## 平館驛の産

平館驛は十五年乃至二十年内外の幼齡樹もあれども奥地は五十年に近きもありて若木物と老木物とが相伯仲してゐる。年移出量三萬七千二百四十俵之を内譯せば

黒炭	栗炭	一三六	
楢丸	八四〇五	ザク	七八〇三
同割	六〇四五	白炭	
雜丸	一五六五	雜込	九
同割	一〇八五	同荒	五二二
松炭	一一六七〇		

移出業者 數量の順位に紹介せば岩手郡平館村丸徳印の田中徳三郎商店、同郡寺田村丸田印の田村光之商店、平館村丸ト印の松浦徳助商店等が有力筋である。

### 岩手松尾の産

岩手松尾驛移出の木炭は鑛山所在地のために古木地帯は悉く伐り盡し今は十五年乃至二十年生の若木揃ひであつて年移出量五千五百五俵の中楢丸一五四五俵を占め丸俵ザク二四五五俵之も若木の折炭である、其他楢割九五〇、雜丸九五、松炭四五〇の率を示してゐる。

移出業者 二戸郡荒澤村赤坂田の山ヨ印關與吉商店の獨占となつてゐる。

### 荒屋新町物

數量に基き品種別に掲ぐれば左の如くである。

黒炭	栗炭	四三九七	
楢丸	五五八九四	松炭	八五〇四
楢割	九二一九二	粉炭	五九〇〇
楢荒	一三九六一	白炭	
雜丸	三四四〇五	楢込	九九二
雜割	五二〇七九	楢荒	四五〇
雜荒	五七四三一	雜込	三三六〇
計	三〇五九六二	雜荒	八二二七
總計	三三七七八八	計	一三〇二九

移出業者 移出を營む業者を、荒屋新町驛の二十五萬俵と赤坂田驛の五萬俵に就き數量順に紹介せば

### 荒屋新町驛

岩手縣花輪線荒屋新町は荒澤支部管内三十三萬七千餘俵の内二十五萬俵を下らざる年額移出量を示してゐる、近時資材林の不足に傾くと共に多くは更新林となり十五六年生古くとも三十四五年を止まりとしてゐる、爲に炭材としては誠に申分のない頃合である、而かも岩手縣林産物検査所荒澤出張所の施設としては毎日曜日を利用して主産地窯元の指導に當り、移出地にありては毎月十五日を期して整束組合の例會を開いて各移出業者の倉庫を巡視し、選別調整包装等に關し主任検査員より批判説明をなしかくして荒屋新町物としてかち獲たる聲價を失墜せしめざることに留意され、検査當局の精勵大いに見るべきものがある、因みに昭和十二年度移出

志賀商店出張所 青森縣三戸町

五日市農事實行組合 荒屋新町驛前

畠山市太郎商店 荒屋新町驛前

北口吉太郎商店 同所

宮本松男商店 同所

田口仁八商店 同所

齊藤幸吉商店 荒澤村

坂田彌太郎商店 荒屋新町驛前

村山悦郎商店 同所

齊藤瀧右衛商店 荒澤村

赤坂田驛

齊藤孫治商店 赤坂田驛前

阿部甚内商店 同所

佐藤徳四郎商店 同所

稻村俣三商店 同所

岩手縣二戸郡荒屋新町驛前

△ 畠山市太郎商店

電略(ヤマニ)又ハ(ハタ)  
振替仙臺五六七六番

製品産地は荒澤村と浄法寺村にして樹齡三十年を悉く直營のもとに生産し檜七割、雜二割、荒と白炭とで一割と云ふ比率であり、赤坂田及荒屋新町の兩驛より移出す、年數量二萬五千俵東京、神奈川、秋田、青森の各地へ供給す店主は岩手縣木炭移出同業組合の代議員に擧げられてゐる。温厚篤實の性格を具有し業者間にも信用厚く亦店基の鞏固なるを眺む。

岩手縣二戸郡荒屋新町驛前

⊕ 北口吉太郎商店

電略(○キヨ)又ハ(キタ)

産地は浄法寺と荒澤の兩村若木資材手山七割買炭三割、檜丸割を多産し、荒には若木の檜細多量あり雜角は總量の二割である、店主は荒澤支部の支部長の要職にある。

岩手縣二戸郡荒屋新町驛前

△ 田口仁八商店

電略(ヤマニ)又ハ(ニ)

集荷は手山と買炭と相半ばし檜六割、雜三割、荒一割の割合にして資材は二十五年乃至三十年である、荒屋新町驛積出、東京市場の販路

へ供給す。

岩手縣二戸郡荒屋新町

⊕ 坂田彌太郎

電略(サカ)又ハ(サ)

浄法寺、荒澤兩村内に於ける部落有林手山と買炭、手山の樹齡三十年黒炭檜七割、雜二割、荒一割の率、並品七〇%、上三〇%、東京を始めとし秋田、青森に販路を有す、

岩手縣二戸郡荒屋新町驛前

⊕ 小山田精一商店  
⊕ 本宮松男商店

電略(○セ)又ハ(モト)

同店は共同經營のもとに淨法寺、荒澤、赤坂田並に田山に於て手山と買炭を營み、黒炭は櫛三割、雜四割、荒三割の率に産出し、精撰せる良品にして中央市場に歡迎さる、白炭は雜荒多く田山驛より移出し納炭向に恰適す、販路を東京、千葉、神奈川、青森、秋田に有す、荒屋新町、赤坂田、田山の三驛より移出す。

岩手縣二戸郡赤坂田驛前

### 今 齋藤孫治

木炭 移出

電話(サ)又ハ(サイ)

悉く直營品にして黒炭七〇%白炭三〇%の製産率である黒炭は櫛割六割、丸四割雜も同率、白炭は櫛込、雜込、荒上の各種なり、赤坂田、及び荒

屋新町より主として東京へ更に秋田へ仕向く

岩手縣二戸郡赤坂田驛前

### 松 阿部甚内商店

木炭 移出

電話(ア)又ハ(ア)

荒澤、平館兩村部落よりの製品にして黒炭七割、白炭三割、若木地帯よりは櫛、雜の各細物を産し細物のみが全移出額の一割に該當す、黒炭は櫛雜共に丸割相半ばし東京市場と神奈川と秋田へ供給す。

## 田山産の木炭

### 白炭は殊に優良なり

栗炭	三三	櫛荒	二四八一
松炭	八〇	雜丸	七二二
紛炭	一〇〇五	同割	一八七七
白炭		雜込	六二一九
櫛丸	二〇八六	同荒	五七七六二
櫛割	三六二五	計	一〇五〇九八
櫛込	七九九四	合計	一四九五五〇

岩手縣二戸郡田山村兄畑

### 左 關左太郎商店

木炭 移出

電話(〇サ)又ハ(セキ)

店主は岩手縣木炭移出同業組合田山支部長の任にある營業方面は田山村内の各部落に手山と買炭とを營み、白炭雜堅八割、櫛堅二割と黒炭

岩手縣二戸郡田山村は秋田縣に隣りし、製炭の技術にありても彼我交通上の關係より、秋田の吉田式を取入れ殊に花輪營林署の官行事業地よりの製品の如き民間物に超越せる良品を産出する、田山の堅は品質に於て水澤物と盛岡物の中間に位せる聲價を博し市場より認められてゐる、近時黒炭も進出し田山、兄畑の兩驛を通じて全移出量十四萬九千五百五十俵の内四萬三千二百二十四俵は黒炭である、各品種別を擧ぐれば左の如し、

黒炭	雜丸	一五七四	
櫛丸	一二五九	雜割	四七三九
櫛割	四九四四	雜荒	一八四一六
櫛荒	一一二九四	計	四三三二四



楢、雜各種を産し、白炭七割、黒炭三割の振合である東京市場と秋田縣下を販路とし積出驛は兄畑、田山の兩驛である。

秋田縣花輪線陸中花輪驛前

### 倉石井徳太郎商店

電話花輪一二七番  
振替仙臺六三八一番

同店は大部分が仕込山と稱する直營八割と買炭二割とであり、田山村の各地と秋田縣鹿角郡宮川村の各地に製炭事業所を經營し、白炭七割楢込一、雜込七、荒二の振合、黒炭の三割を品種別にせば楢割七、楢丸三、雜割、雜丸各々半ばし尙ほ荒をも産出す、東京、秋田、青森縣内遠くは富山地方へ仕向く、積出驛は田山、兄畑

陸中花輪の三驛である。

岩手縣花輪線田山驛前

### 山本佐治郎商店

電略(ヤマ)又ハ(ヤ)

田山産優良白炭六割、楢と雜を半々に製出し又黒炭の四割は楢六割と雜四割の振合に供給してゐる。買炭七、手山經營三の率、白炭荒上に至るまで家庭小焚用に適する若木物多く古木は納炭に向く、田山驛より積入れ東京、秋田、青森へ供給す。

岩手縣二戸郡田山驛前

### 尖木炭部

店主 安保 實

同店は手山經營に成るもの三割、部落共同出荷を特約し買入るもの七割、黒炭七〇%白炭三〇%田山驛積出、東京市場と秋田縣下へ仕向く。

雜丸 三一二 同荒 四五五

同割 一七四一 雜込 二〇九三一

同荒 四一四三 同荒 四二七

計 三八五〇二 栗炭 二〇四三

松炭 三八六六九 計 四六四八二

白炭 合計 一二六〇六一

楢込 二四六六九

移出業者 工藤種三商店の五萬俵を筆頭に順

位に紹介せば 工藤種三商店 岩手川口驛前

本田榮吉商店 同

外川太郎商店 同

片岡晴次商店 牛込區納戸町二〇

瀧本千次郎商店 岩手川口驛前

### 岩手川口の産

#### 松炭(十二キロ)多産の地

岩手縣東北本線岩手川口驛移出の木炭三萬八千五百二俵、白炭四萬六千四百八十二俵、栗炭二千四十三俵、松炭十二キロ三萬八千六百六十九俵總計十二萬六千六十一俵は昭和十二年度に於ける移出量である。内譯左の如し。

黒炭 楢割 一二二二八

楢丸 一一七七〇 同荒 五六〇八

工藤六十郎商店 同  
成島忠三郎商店 好摩驛前

小綿龜次商店 岩手郡澁民村

八四

## 縣北の優品沼宮内の木炭

### 検査が嚴に過ぎる程に几帳面 改善施設も克く徹底してゐる

岩手縣沼宮内驛移出木炭は昭和十二年度の統計に依れば黒炭四十六萬六千五百二十九俵、白炭二萬九千五百一十一俵、松炭七萬二千二百二十四俵、栗炭八千七百七十俵、粉炭六千六百八十三俵合計五十六萬六千三百九十三俵にして、量にありても縣下有數の大量供給地であり、質にありては検査の嚴正と指導の徹底とが自づと改善を促進せしめてゐることが注目し値する、而かも昭和十一年五月の設置にかゝる同驛整束者の全員を網羅して組織せる沼宮内驛整束組合である、整束組合の事業たるや、單に山依の切替手直しをなすのみに止まらずして移出業者の受荷に對し及び生産地より搬入

せるものに對して直營と買炭とに拘はらず其等級を精査し疑問の筋あるものに向つては再検査を申請すると云ふが如き権限を店主より附與され恰も店主の支配人格となつて業に當るのである従つてその整束人なるものは検査吏員の格付認定と自らの鑑識を一にしなければならぬ謂はゞ検査吏員の職務を補佐することにもなる沼宮内では主任検査員が顧問となり隔月に検査格付査定會を開催して等級統一の完璧を期しつゝあることである加ふるに斯の如き大量に向つて現任検査員には毎俵に目を通し更に貨車へ積込むまで看視せねば氣が済まぬと言つた稀れに見る精勵着實の人寧ろ天賦の資性そのものが凡帳面に出來てゐると云ふ程に検査が嚴重である。

今試みに沼宮内産を等級別統計表より抜萃して見ると別項の如くにして極上は稀れであり上も多くなくて、商品の中心を並におかれてゐることを窺ひ知るに足るのである、沼宮内とても他と同様に更新林の若木が多くなり改善施設が徹底してゐるからには此の等級別より見れば或は並が上に該當するやも知れぬ。然るに並は並として並の値段で販賣するとせばその利益が消費地の業者に歸屬せざれば購買する需要家が惠まれる、理解あるものに對しては必ずそれが實物宣傳となり沼宮内の木炭は座ながらにして販路が擴張されることになる、されども反面には生産地に於ける誰かゞそれだけ犠牲たらざるを得まいことも亦考へさせられる同一縣下に於ける一律の規格なるに於ては検査

八五

等級格付の統一と云ふことが考慮されぬでもなく、又公定價格なるものが久慈物に比し楢では一錢方低位に認定されたに於ては之亦深く考へさせられる重要事項である、そは他日のことに屬すべく現在の沼宮内物は内容が充實してゐることは何人も認むるところである、左に年額移出量を品種別等級別に擧ぐれば左の如くなる。

<b>黒炭</b>		雜丸上	八九五	楢割上	一三	雜込並	一三〇四
楢丸極上	二三九	同並	一七六五一	楢込極上	三四一	雜荒上	三〇一八
同 上	一一八三二	雜割極上	六	同 上	一一〇三	同並	一二三八
同 並	七二二一八	同 上	一九六九	同 並	二七四九	栗炭	八七七〇
楢割極上	一一	同 並	二五四八五	楢荒上	二一六八	粉炭	六六八三
同 上	五六三八	雜荒上	三四一七六	同 並	二二〇	合計	五六六三九三
同 並	六四七九	雜荒並	九六六二〇	雜込上	二〇		
楢荒上	三四〇九六	松炭	七二二二四				
同 並	一五六一〇	<b>白炭</b>					
雜丸極上	四	楢丸上	七				

移出業者 沼宮内驛より移出する業者を昭和十二年度における數量の順位に基き紹介せば左の如し。

- 與志本合資會社 長野縣佐久線羽黒下
- 遠藤萬四郎商店 九戸郡葛卷村
- 岩瀬岩之助商店 九戸郡葛卷村
- 向井春吉商店 岩手縣沼宮内町
- 佐々木藏次郎商店 岩手縣沼宮内町
- 岩手縣沼宮内町
- 藤澤民藏商店 岩手縣沼宮内町
- 岩手縣沼宮内町
- 鈴木直八商店 九戸郡葛卷村
- 九戸郡葛卷村
- 國定岩松商店 九戸郡葛卷村
- 九戸郡葛卷村
- 竹花金四郎商店 下閉伊郡小川村
- 下閉伊郡小川村
- 高橋祐助商店 九戸郡葛卷村
- 九戸郡葛卷村
- 久保正雄商店 岩手縣沼宮内町
- 岩手縣沼宮内町
- 米田善治商店 岩手縣沼宮内町
- 岩手縣沼宮内町
- 齋藤新吉商店 岩手縣沼宮内町
- 岩手縣沼宮内町
- 杣留次郎商店 岩手縣沼宮内町
- 岩手縣沼宮内町
- 府金義兵商店 岩手縣沼宮内町
- 岩手縣沼宮内町
- 稻村俊太郎商店 岩手縣沼宮内驛前

### ③ 佐々木藏次郎商店

電話二十一番電略(〇三) 振替 仙臺 一八〇四三番

同店の製品は特に優秀せりとて好評を博し東京、神奈川、千葉の各仕向先より歓迎を受く、手山八分事業地は九戸下閉伊岩手の三郡に跨り若木二十年生楢九〇%雜一〇%の率に産出し、外に松炭十五キロ、十二キロの二種を産す、積出驛は沼宮内岩手川口の兩驛である。

夕

岩手縣沼宮内町  
木炭 問屋 藤澤商店  
移出

電話(〇夕)又ハ(フ)

手山經營品八割、買炭二割、岩手、九戸の兩郡に製炭所を有し、檜八割、雜二割、白炭檜込雜込合して一割の比率に生産し、松炭十五キロ十二キロ、黒炭荒をも産す、東京市場と千葉縣を仕向先とし沼宮内、岩手川口の兩驛より移出す。

黒炭檜雜檢査上四割、並六割白炭雜込上、並荒、黒炭を八割に白炭を二割の振合に産す、産地は九戸、下閉伊の兩郡にして手山經營にかゝる分は、樹齡二十年前後より三十年を選び居れるも、買炭に屬する奥地には百年内外の老樹を製炭せるもありて、舊檢三等級檜割並を多量に産出す、積出驛は沼宮内驛にして供給先は東京市場が大部分を占め更に神奈川縣に及ぶ店主は小屋瀬郵便局長に就任されてゐる。

ス 鈴木直八商店

岩手縣九戸郡葛卷村小屋瀬  
出張所東北本線沼宮内驛前

電話(カネス)又ハ(ス)

全 國定總介商店

岩手縣九戸郡葛卷村  
出張所東京市中野區川島町三十一番地  
手山經營にして製品中荒丸俵七割を占む、本

品は枝細丸と割の折炭との混入にして徳用無比

を誇り自慢のザク炭である、事業地は主に九戸郡内にして檜割多産、雜は全産額の一割に過ぎざるべきか、東京中野區に出張販賣所を有せる關係より販路は山手方面に多し東北本線沼宮内驛より積込む。

ある。

工

岩手縣九戸郡葛卷村  
手山 製炭 高橋祐助商店  
電話六番電話(〇工)

出張所東北本線沼宮内町

葛卷は檜荒雜荒の丸俵が、樹質も良く且つ精選せるを以て市場よりは葛卷のザクは徳用炭として特に歡迎されてゐる、同店も亦總産額の五割はザク炭であらふ檜丸檜割合して四割、雜丸雜割合して一割の生産率にして悉く自營品である、東北本線沼宮内驛より積込む。

研 竹花金四郎商店

岩手縣下閉伊郡小川村

電話(タケハナ)又ハ(タケ)

下閉伊郡小川村に營業所を有し檜七割、雜三割、丸、割、ザクを合し昭和十二年度には四萬五千餘俵を産出し東京市場を主とし次いで神奈川縣下へ供給される悉くが手山にかゝる、製品で

久 保商店

岩手縣沼宮内町  
木炭製造 移出問屋

### 店主 久保正雄

電略(クボ)又ハ(ク)

産地は岩手、下閉伊、二戸の三郡各部落にして、沼宮内驛、花輪線大更驛、平館驛、岩手川口驛、奥中山驛を積出驛とし、岩手川口は主として松炭を移出す、手山七割、買炭三割、黒炭櫛雑合して七割、白炭櫛雑合して一割、松炭二割と少量の栗炭をも産し、東京、神奈川、千葉、埼玉に販路を有す。

岩手縣沼宮内町

薪炭屋根材  
雜穀生栗商

### 米田商店

#### 店主 米田善治

電信略號(マイタ)

振替仙臺一七九七五番

同店は岩手、二戸、九戸の三郡各部落に製炭

事業所あり製品數量年額四萬俵乃至五萬俵を基準に産出し手山八割、買炭二割、黒炭櫛丸、割を八割、雜とザク合して二割を産し、外に花輪線田山驛より白炭、黒炭を移出し、總移出量中の八〇%は黒炭、二〇%は白炭である、又松角俵十五キロ、十二キロも取扱ひ、大東雜薪も供給す。販路は主として東京市場なり、店主は公共自治の上に信望あり沼宮内町會議員に再選さる。

岩手縣沼宮内町

### 齋藤新吉商店

木炭  
移出

#### 齋藤新吉商店

自宅用電話沼宮内一番

倉庫部電話沼宮内三七番

茲に新らしく紹介するまでもなく同店の健在

は斯界の周知せるところ、店主は實に立志傳中の人にして正に後進の龜鑑たるべきを思はせる、正に一代の功積み其所有山林臺帳面にても二千三百町歩を有し實測面積は或はその二倍半にも當るべきかとある、田地七十町歩、畑地亦七十町歩を所有し岩手縣の多額納稅者を以て知らる、木炭は悉くが自己所有山林を直營せる製品がある。

料を配給する關係より農事實行組合等の共同出

荷を購入するに便宜あり、直營地は沼宮内町の里山若木の櫛にして特に東京市場に歡迎さる、又白炭櫛込、雜込、荒、合して全移出量の二割を占む、岩手川口驛よりは松炭をも移出す、積出驛は沼宮内、岩手川口、好摩の三驛にして東京神奈川へ仕向く

岩手縣沼宮内町

### 府金義兵商店

薪炭  
移出

#### 府金義兵商店

電話六四番電略(フカネ)又ハ(フ)

振替口座仙臺二二七八一番

同店の移出木炭は悉く手山經營にして下閉

伊、岩手兩郡内資材は二十五年乃至三十五年生

岩手縣沼宮内町

各種肥料鹽  
木炭移出商

### 杉留次郎

電略(ツマ)又ハ(ソ)

取扱木炭は手山と買炭と相半ばし、農村へ肥

楢丸三、楢割七、雜丸二、雜八の振合にて總移出量中楢七〇%、雜一〇%、松炭と荒合して二〇%の率に生産し沼宮内を移出驛とし東京、神奈川、埼玉へ仕向く

岩手縣沼宮内町



木炭移出 稲村俊太郎商店

電話三八番電略(イナ)

下閉伊九戸の兩郡産黒炭、白炭、松炭、栗炭の各種を供給す、直營に係るものと買炭とが伯仲す、東北本線沼宮内驛、岩手川口驛、花輪線

岩手縣九戸郡葛巻村



木炭移出 鍋倉春海商店

振替東京一六一一〇八番

手山に依る製品、葛巻、江刈兩村の若木物、楢丸、楢割、雜丸、雜割各種均等率に製出し、買炭に屬するものに白炭楢込、雜込あり外に松十二キロ、十五キロをも産出供給す、沼宮内驛より主として東京市場へ仕向く

### 福岡支所管内産出木炭總覽

#### 昭和十二年度移出百四十三萬俵

### 奥中山以北金田一の間六驛概況

岩手縣林産物検査所福岡支所管内奥中山、小繋、小島谷、一戸、北福岡、金田一の六出張所、東北本線六個驛は岩手縣北物と稱し製品は統一し、改善施設も従つて統整され、其數量にありても年額移出量實に百四十三萬四千四百十八俵を示し、東京市場を中心に關東各地消費地の視聽の集まる大量供給地である左に概況を紹介すべし。

### 検査統一上の施設

検査の統一は商取引に於ける圓滑に資し得るは素より、生産者の利益を擁護し得る所以である。全縣下一條の規格のもとに縣營検査が行はるゝに拘はらず各出張所別に格差の隔たる製品を産出することは未だ統一施設の足らざるを物

語ることとなるとも言へば言へるであらふ。福岡支所は窯元指導、巡回講話、品評會の舉行優良職工表彰等悉く改善を奨励すべき事業ではあれども、更に進んで検査等級格付の鑑識を一にすべき必要上からして同支所では機會ある毎に各出張所駐在検査吏員をして隣接へ出張せしめ時宜に依りては他支所管内をも視察せしめて、相互間の聯絡協調を圖り斯くして製品検査統一

の貫徹に邁進し又検査吏員會議の際の如きも必ず査定會並に検査事務打合會を開催して各検査目的眼の平行統一を期することに努めてゐる。

### 整束組合設置狀況

整束組合の目的は依裝の統一乃至は依裝技術の練磨のみに止まらずして検査吏員の検査等級格付眼と各整束員の鑑識との一致を必要とし之に基いて各般の研究と批判と意見の交換とを行はしめ木炭の改良發達を圖る上に有力なる役割を課してゐる、就中北福岡木炭整束改良組合の如きは曩きには相率いて仕向先なる東京、横濱の兩市場を視察せしことあるも隔年毎に必ず先進地の見學をなし更に機會を見ては永年勤続し

且つ性行端正技術優秀なるものを支部に於て表彰し成績の向上に努力されてゐる。

整束組合は目下北福岡、一戸、小鳥谷の三出張所にて組織され、検査吏員に於て指導斡旋の衝に當り、紋上北福岡木炭改良整束組合は北福岡整束員三十一名を以て組織され、一戸木炭整束研究會は一戸整束員三十名を以て組織し小鳥谷村木炭整束研究會は小鳥谷、小繫、奥中山各驛整束員八十名を網羅し、各組合とも先進北福岡に倣ふて所期の目的に向ひ事業を勵行してゐる。即ち要は木炭の改良發達を圖り岩手木炭の聲價の維持向上を期することにある。

### 移出木炭種別數量

奥中山驛 移出木炭は年額七萬七千六十六俵にして品種別にせば

黒炭	荒	一七一九七
楢丸	松炭	八五九一
同割	栗炭	一三五三
雜丸	粉炭	一一五七
雜割	合計	七七〇六六

小繫驛 移出木炭は年額二萬九千二百五十三俵にして品種別にせば

黒炭	荒	四四七二
楢丸	松炭	七九一二
同割	栗炭	三四〇
雜丸	粉炭	一一六九
同割	合計	二九二五三

以上奥中山及小繫に於ける資材樹齡は大凡二十年より八十年生にして老木は鳥海村女鹿國有の一割が八十年生に該當せんも全體の一割に過ぎずして更新林が九割を占めてゐる。

小鳥谷驛 移出木炭は年額黒炭四十九萬九千六百五十二俵白炭一萬五千八百二十一俵にして之を品種別にせば

黒炭	栗炭	八一二
楢丸	粉炭	五一一〇
同割	計	四九九六五三
雜丸	白炭	
同割	楢丸	四
荒	楢込	一三〇
松炭	楢荒	二〇二五

雑込 三九五 計 一五八二一  
 雑荒 一三二六七 合計 五一五四七  
 樹齡凡そ二十年より三百年の古きありそは下  
 閉伊郡の小川、大川の少部分にして全體の二割  
 に該當せんも其他は大部分三十年搦みにして炭  
 材に適する。

一戸驛 移出木炭は黒炭年額十六萬百九十六  
 俵、白炭一千九百六十俵合計十六萬二千五百十  
 六俵にして品種別にせば  
 黒炭 四五七八七  
 雑丸 三四四三七 松炭 一二三〇  
 同割 五一五一九 栗炭 一七五一  
 雑丸 一四〇四二 粉炭 九八〇  
 同割 一〇四五〇 白炭

榿丸 三四四三七 松炭 一二三〇  
 同割 五一五一九 栗炭 一七五一  
 雑丸 一四〇四二 粉炭 九八〇  
 同割 一〇四五〇 白炭  
 榿丸 八八七四九 荒 七二三四三  
 同割 一〇七七〇四 松炭 三五八六三  
 雑丸 一八四四九 栗 二四一四

粉炭 三一五八 雑荒 九五六  
 計 三四五四二 計 一三四六  
 白炭 總計 三四六七七〇  
 雑込 三九〇  
 樹齡は十三年生より八十年にして老木地帯と  
 しては二戸郡浄法寺、九戸郡山形、伊保内地方  
 にして、凡そ四十年より八十年と云ふが全體の  
 四割にしてし六割は若木なり。

金田一驛 移出木炭は黒炭三十萬三千七百二  
 十七俵にして之を品種別にせば  
 黒炭 雜割 一六七五二  
 榿丸 八三一八三 荒 五〇四三〇  
 同割 七二二五七 松炭 四五九〇二  
 雑丸 三一八八九 栗炭 三四一四

北福岡驛 移出木炭は黒炭三十四萬五千四百  
 二十四俵、白炭千三百四十俵合計三十四萬六千  
 七百七十俵にして之を品種別にせば、  
 黒炭 同割 一六七四四  
 榿丸 八八七四九 荒 七二三四三  
 同割 一〇七七〇四 松炭 三五八六三  
 雑丸 一八四四九 栗 二四一四

福岡支所管内産の地歩

通稱縣北物と稱し製品の價値に於て又其數量  
 の巨額なる點に於て將亦當業移出業者の營業規  
 模の大なる點に於て縣下に冠たるの地歩を有し  
 需要地の注視を引く以下管内各驛に就いて移出  
 業者を紹介せん

福岡支所管内

木炭移出業者

北福岡驛積出



小野寺源助商店 二戸郡北福岡驛前

小野寺定雄商店 九戸郡伊保内村

高崎權次郎商店 九戸郡伊保内村

澤藤倉治商店 二戸郡福岡町

坂本貞治商店 二戸郡福岡町

坂本仁助商店 二戸郡北福岡驛前

黒澤治助商店 二戸郡福岡町

小保内松次郎商店 二戸郡北福岡驛前

阿部繁孝商店 二戸郡福岡町

浪岡徳四郎商店 二戸郡一戸町

中村善八商店 二戸郡一戸町

土手谷寅吉商店 二戸郡福岡町

田中善藏商店 二戸郡御返地村

岩手縣購販聯 盛岡市

四戸岸與八商店 二戸郡御返地村

### 金田一驛積出

岩岡商店 九戸郡輕米町

菅原久七郎商店 九戸郡輕米町

石田圓次郎商店 二戸郡金田一驛前

山本善次郎商店 二戸郡金田一驛前

村上喜三郎商店 二戸郡金田一村

小川留吉商店 二戸郡金田一村

澤田半次郎商店 二戸郡金田一村

小笠原與吉商店 二戸郡金田一驛前

### 一戸驛積出

岩手縣購販聯 盛岡市

### 小鳥谷驛積出

前野石松商店 下閉伊郡小川村

阿部繁孝商店 二戸郡福岡町

柳畑松太郎商店 二戸郡小鳥谷驛前

柳澤末太郎商店 二戸郡田部村

久保長太郎商店 二戸郡小鳥谷驛前

中村善八商店 二戸郡一戸町

同店は奥中山、小繋兩驛よりも移出

堀口治郎右衛門 二戸郡一戸町

遠藤彦三郎商店 九戸郡葛卷村

中島萬次郎商店 二戸郡一戸町

仲下彌平商店 二戸郡小鳥谷驛前

同店は奥中山驛よりも移出

高見春松商店 二戸郡一戸町

高見憲太郎商店 二戸郡一戸町

堀口治郎右衛門 二戸郡一戸驛前

中村善八商店 二戸郡一戸町

中村善次郎商店 二戸郡一戸町

浪岡徳四郎商店 二戸郡一戸町

關本善太郎商店 二戸郡鳥海村

鳥海村信購販組合 二戸郡鳥海村

夏井徳治商店 二戸郡一戸町

堀内萬次郎商店 二戸郡鳥海村

内田和次郎商店 二戸郡鳥海村

谷口正商店 二戸郡鳥海村

中島萬次郎商店 二戸郡一戸町

漆田金四郎商店 二戸郡淨法寺村

浪岡徳四郎商店 二戸郡一戸町

小繫奥中山の兩驛よりも移出

大欠熊太郎商店 二戸郡小鳥谷村

和田福次郎商店 青森縣五戸町

遠藤仁太郎商店 九戸郡葛巻村

中村貞男商店 二戸郡小鳥谷村

國定岩松商店 九戸郡葛巻村

岩手縣購販聯 盛岡市

三浦榮五郎商店 九戸郡葛巻村

志賀商店出張所 青森縣三戸町

野原佐太郎商店 二戸郡小鳥谷村

遠藤徳太郎商店 九戸郡葛巻村

平野倉藏商店 二戸郡小鳥谷村

### 奥中山驛移出

中村善八商店 二戸郡一戸町

浪岡徳四郎商店 二戸郡一戸町

高見春松商店 二戸郡一戸町

佐藤五郎助商店 二戸郡小鳥谷村

佐藤文健商店 二戸郡小鳥谷村

上山金太郎商店 二戸郡小鳥谷村

照井杉藏商店 二戸郡小鳥谷村

藤澤民藏商店 岩手郡沼宮内町

久保正雄商店 岩手郡沼宮内町

夏井徳治商店 二戸郡一戸町

### 小繫驛移出

中村善八商店 二戸郡一戸町

浪岡徳四郎商店 二戸郡一戸町

鹿志村善次郎商店 二戸郡小鳥谷村

夏井徳治商店 二戸郡一戸町

岩手縣二戸郡小鳥谷驛前

## 松 柳畑松太郎商店

電略(カネマツ)又ハ(ヤ)

本店岩手縣九戸郡江刈村

同店は下閉伊郡小川村、大川村に直營製炭所を有すれども、江刈、葛巻兩村産は買炭にて、黒炭櫓、雜、荒の各種を移出す曩きには岩手縣下第一位の移出量を示すこと連年に及べども其後事業縮少の觀ありたれども今は再び復舊の勢

力を逞ふし今秋よりは更に手山を擴張すべしとのことである、小鳥谷驛より移出し東京、神奈川へ仕向く。

岩手縣二戸郡田部村

## 半 柳澤末太郎商店

電略(ヤマキ)又ハ(スエ)

出張所東北本線小鳥谷驛前

九戸、二戸、下閉伊の三郡の産にして櫓、雜ザク、松炭十二キロを製出し櫓物は七割の多きに達し其他を合して三割の率、樹齡十五年生より二十五年生、若木良品なり、又櫓雜細物をも産出す、小鳥谷驛より積出、販路は東京市場に多し。

岩手縣二戸郡小鳥谷驛前



手山精撰  
木炭移出

### 久保長商店

電話八番電略(〇ホ)

支店 岩手縣下閉伊郡茂市驛前

電話六番電略(クホ)

店主は岩手縣木炭移出同業組合小鳥谷支部の支部長に擧げらるゝこと累任二期に及ぶ營業は悉く手山經營にして十七八年生より三十年生前後の資材下閉伊、二戸の兩郡各部落に製炭所ありて、黒炭楢、雜、荒合して八〇%、白炭楢三割、雜七割合して二〇%の比率に製産し、小鳥谷驛積出、東京、埼玉、千葉、神奈川へ供給す尙ほ實弟久保綱藏氏は茂市驛の支店を經營し、

下閉伊郡大川、小川の兩村に於て、手山移出を營む。

岩手縣二戸郡小鳥谷驛前



木炭移出

### 仲下彌平商店

電略(ナカ)又ハ(ヤ)

店主は曩きに小鳥谷支部長の任にあり岩手縣木炭移出同業組合評議員の要職にも就かる、營業は木炭製産移出を專業とし悉く手山物にして、小鳥谷、奥中山の兩驛より移出し、楢割多産、次いで丸物、雜割、松炭をも産し主として京濱兩市場へ仕向く。因みに氏は越前の出にして黒炭製炭に造詣深く又其性格は着實にして同業者の信用厚し

岩手縣二戸郡小鳥谷驛前



製炭移出  
米雜穀商

### 中貞商店

店主 中村 貞男

九戸郡葛卷、二戸郡田部、姉帯に於て直營し樹齡二十年前後の若木楢七割、雜一割、荒二割の比率に産出し東京市場へ供給す。

岩手縣九戸郡葛卷村



木炭直營

### 遠藤彦三郎商店

電話十七番電略(ヒコ)

手山にして精撰せる黒炭楢丸、楢割を多産、雜丸、雜割は全移出數量の一割、又徳用炭として

岩手縣九戸郡葛卷村



木炭移出

### 遠藤仁太郎商店

電略(エン)又ハ(ニ)

下閉伊郡小川村に製炭所を有し昭和十三年度は五萬俵の見込を樹立し専ら手山を以て製炭してゐる若木の外樹齡四五十年生製品は楢割並の上と云つた品位多産、ザクも多量に産出す、小鳥谷驛より主として東京市場へ仕向く。

岩手縣二戸郡一戸町

### 分印善印 中村善八商店

電話十番電略(ナカ)  
振替東京七七四六番

消費地に於ける配給の簡易、生産の上よりせば製炭の合理化、此の趣旨に出發し、箱入切炭の始祖小山田舜二氏と協和し、櫛糶箱入切炭を製産し年産額五萬箱を下らざるべしとある、他面にありては壹角俵の製出を營むこと従來の規模を支持し、北福岡、一戸、小鳥谷、奥中山、小繋の各驛より移出してゐる、櫛七割、糶、荒松炭を合し三割の比率である、生産地は廣汎にして二戸、九戸、下閉伊の三郡に跨り直營八割特約買入二割製品は常に消費地の嗜好に合致せ

しめ販路に依り夫々適品を仕向くることの方針

に則られてゐる、東京市場を中心に東海道、千葉、埼玉、秋田、北陸へ供給する令嗣中村善次郎氏の名義に依る供給品も含む、同家は沼宮内町の富豪齋藤新吉家と姻戚關係を結び、先代の築成せる店基と家門をして意義を深からしめてゐることを思はしむ、岩手縣木炭移出同業組合發起人としての先代中村龜次郎氏は廳で副組長の重任にも擧げられ一世を木炭界に貢獻し來れるの士、一代の功績は富と信用とを築成するに到り衣鉢を繼承せる當主中村善八氏にありては更に令嗣中村善次郎氏の如き正に幸運の人と謂ふべきである、而かも倦まざる精勵は家商をして益々隆盛に誘致せしめつゝある、敍上特に記

述し後進への軌範とせん。

### ホ印全印昭印直營

岩手縣二戸郡一戸驛前

### 堀口治郎右衛門商店

電話三番電略(ホリ)又ハ(ホ)  
振替口座 仙臺 一三三四番

店主は一戸驛合同運送株式會社に取締役社長の重責にもある製炭は直營を主義とし時に買入をも營む、手山に成る製品は精撰無比、常に種市物を標準とし改良を進めてゐる、櫛丸、割と糶丸、割とは六と三の製産率にしてその他に櫛糶荒は素よりのこと、白炭櫛糶の込、荒をも産し黒炭八〇%白炭二〇%、積出驛は北福岡、一

戸、小鳥谷、奥中山、花輪線荒屋新町の各驛にして東京、千葉、神奈川、埼玉、秋田、青森の各地へ供給する。

岩手縣二戸郡一戸町

### 命印余印 浪藏商店

木炭移出

店主 浪岡徳四郎

電話三十六番電略(ナミ)  
振替仙臺四三六六番

店主は岩手縣木炭移出同業組合一戸支部長に擧げらる。盛岡高等農林の出、久しく官界に勇躍せしことありと聞けど、父祖の築成せる店基と富貴とを繼承して斯業に没頭することゝなる製炭手山品八〇%、買入二〇%二戸郡一帯と九

戸郡の一部に産する若木物が多い、消費地の好み  
が近時檜割に轉向せる傾向に鑑み丸物に製産  
さるゝ資材をも二割として割に製する、斯く  
あつて檜割多産その檜割に屬するものは良質で  
あるが唯往々手山に非ざる買入品のうちに低位  
のものが混在するとの批評を聞く場合もあつ  
た。積出地は一戸、小鳥谷、北福岡、小繋、奥  
中山の各驛にして東京、横濱へ仕向く。

岩手縣二戸郡一戸町

### 炭 中島萬次郎商店

電話三十一番電略(〇スミ)  
振替仙臺 九七九五番

製品の吟味改良の點に於ては、店主の性格を

の儘を現はし敢へて人後に墜ちざるものがあ  
る、自ら申請し出づる等級格付を受檢申請者が  
並と稱するものに對し、検査員の方から之は上  
となすべしとは言はぬ場合が多い、中萬商店の  
製品は此の如くして自らの検査眼が嚴格にして  
几帳面である、常に二、三丁値が張るとは此の  
事柄の現はれであらう、されども公價と云ふも  
のが示達せられしに於ては考慮されるやも知れ  
ぬ、斯くして悉くが手山にして製炭地は二戸郡  
の姉帯、九戸郡の葛巻、江刈、下閉伊郡の安家  
等であり、安家産は久慈驛より發送されてゐ  
る、一戸驛、小鳥谷驛より積入れ主とし東京へ  
供給する黒炭各種、白炭雜込、荒をも移出して  
ゐる。

岩手縣二戸郡一戸町

### 春 木炭 高見春松商店

電話八番電略(タカハル)  
振替仙臺 二一七八九番

同店は一戸驛移出量に於て昭和十二年度は第  
一位の數量を示し、又奥中山驛よりも移出する  
一戸町の近在里山資材二十年前後の若木が多く  
檜八割、雜其他が二割、松炭十二キロをも産す  
る、仕向先は東京市場を主力に、神奈川、埼玉  
千葉、福井、青森の各縣消費地へ供給する。

岩手縣二戸郡福岡町

### 木炭生産 澤藤商店

移出販賣

福岡町の二ツ輪と云へば古くより中央市場に  
知られてゐる、吳服太物店は寧ろ副業であつて  
主業は製炭移出であり創業五十年と云ふ貴き歴  
史ある老舗である、先代は一戸町の故中村龜次  
郎氏と伍して木炭の改良と販路の擴張に盡し自  
己を離れて盡瘁されし功蹟を残されてゐる、現  
店主亦斯業に熱心にして岩手縣木炭移出同業組  
合の理事に擧げらるゝか然らざれば評議員かと  
云つた如くに常に組合公共のことに盡してゐる  
福岡支部長としても重任久しきに亘る、事業方  
面は嘗て直營と買入とを兼ね行ふ時代には其移  
出數量は北福岡驛第一位年額十萬俵内外を往來

せるも、現今は集約的手山經營良品製産方針となり年額四萬乃至五萬の範圍に經營される如くに眺める、二戸九戸の兩郡内に若木資材を購入し檜九割雜一割の率に産出し主として東京市場へ供給してゐる。

岩手縣二戸郡福岡町

### 工 木炭 問屋 坂下貞治商店

電話五三番電略(サカ)  
振替 仙臺 一六四四番

東京出張所 麴町區九段一丁目四番地  
電話九段一七八八番

樹齡二十年生より二十五年生の資材、主として二戸郡内の部落に依つて製炭を營み、檜七割雜二割、ザク、松十二キロ合して一割の率に生

産し積出は北福岡驛、東京、神奈川へ供給す、尙ほ炭俵をも多量に移出される。

岩手縣二戸郡北福岡驛前

### 小 木炭 輸出 小野寺源助商店

電略(オノ)又ハ(オ)

同店は手山と買入と相半ばし二戸、九戸兩郡産にして檜八割、雜、荒、松炭を合し二割の率に産出し、東京市場を主とし神奈川、新潟、青森の各地へ供給す、尙ほ木炭用精製萱俵をも移出されてゐる、

岩手縣二戸郡福岡町

### ヲ 木炭 米穀 阿部繁孝商店

炭十二キロをも産出し北福岡驛積入、東京市場と神奈川縣下を販路となす。

岩手縣九戸郡伊保内村

### 小 小野寺定雄商店

電略(ヲ)又ハ(ヨ)

出張所 東北本線北福岡驛前  
産地は九戸郡内樹齡二十年前後の若木資材、手山と買入、檜七割、雜二割、荒と松炭にて一割の振合に産出し北福岡驛を移出地に、東京及び神奈川へ仕向く。

岩手縣二戸郡北福岡驛前

### 三 木炭木材 移出販賣 坂本仁助商店

電話三番電略(〇ヲ)  
振替東京二四〇二二番  
移出驛は小鳥谷に主力を注ぎ次いで北福岡驛、更に山田線茂市へも製炭事業の手を擴め九戸、二戸、下閉伊三郡産、手山と買入相伯仲の率、黒炭檜丸一割、檜割四割、雜丸雜割合して一割、荒三割、松炭十二キロ一割の比率に産し主として東京市場を取引先となす。

岩手縣九戸郡伊保内村

### タ 木炭移出 肥料雜穀 高崎權次郎

電略(タカ)又ハ(タ)

製品は悉く手山物、若木なるを以て細物をも多量に産す。檜七割、雜三割の振合なり尙ほ松

電話二五番電略(ヤマニ)  
振替 仙臺 二三七三一番

直營品と買入品とを移出す。二十年生より三十年生を資材とせる若木物多く、楢物七割、雜物三割の率に製出し、北福岡驛より移出、東京市場各地へ仕向く。

四割の率を見込む、北福岡驛より積入れ東京市場へ供給す。

岩手縣九戸郡輕米町

### 平 岩岡商店

木炭製産  
移出問屋

電話十四番電略(〇ハ)  
振替 仙臺 七〇七三番

出張所 東北本線金田一驛前

岩手縣二戸郡御返地村

### 二 田中善藏商店

木炭木材  
移出問屋

電略(〇ニ)又ハ(タ)

手山に依つて産出し楢六割は樹齡二十年乃至三十五年生の資材、雜は四割の率なり二戸郡御返地、淨法寺の兩村より製出す、目下計畫にかゝるものは一個所五萬俵の豫定にして楢六割雜

店主岩岡貞次郎氏は岩手縣業界に重きをなし製炭事業も亦手擴く營まれ創業古く明治四十一年現今の成果を結ぶ、金田一出張所は令嗣岩岡秀三氏に於て掌理されてゐる、萱角俵の外に最近箱入切炭をも製産さる、又需要の擴大に伴ふて松炭にも力を注ぎ本品のみにも年移出額二

萬五千俵を見込まる、楢七割、雜三割、若木多きを以て細物も亦多額に上る、金田一驛積入、東京、神奈川、千葉、埼玉の各地を販路とされてゐる。

直營と買入とが相半ばす。細物は千葉縣八日市場及び銚子方面へ殊に歡迎さる金田一驛より移出し東京市場を主とし、千葉、神奈川、埼玉に仕向く

岩手縣九戸郡輕米町上館

岩手縣二戸郡金田一驛前

### 企 菅原久七郎商店

木炭  
問屋

電略(キウ)又ハ(ス)

振替 仙臺 九八三七番  
輕米局私書函第一號

出張所 東北本線金田一驛前

生産地は九戸郡北部輕米町の里山地帯と晴山村にして樹齡十五年生より二十年、楢の細物を多量に産出する、若木物多く楢丸、楢割とは丸七と割三、雜物も丸多し、松十二キロも産す、

### 三 石田圓次郎商店

木炭  
輸出

電話十一番電略(ヤマニ)

同店は手山經營にして、産地は二戸郡金田一斗米、爾薩體の各部落、樹齡二十年生前後の若木、楢丸、楢割を七割、雜物三割にして細物をも産出す、荒の如き唯規格が等級品に該當せずと云ふだけである故實用價值にありては丸割込に均し又松炭をも産す、東京市場へ仕向く。

尙ほ同店は萱俵をも多量に移出す。

岩手縣二戸郡金田一驛前

木炭

問屋

### 山本善次郎商店

電略(○ホン)又ハ(ヤマ)

店主は岩手縣木炭移出同業組合金田一支部に於て、前支部長石田圓次郎氏の後を繼ぎ支部長の任に擧げらる、營業は直營と買入相半ばし、檜、雜、荒松炭十二キロを産し、二戸、九戸兩郡内樹齡二十年生乃至三十年の資材を製炭し、販路は東京市場を主とし神奈川、埼玉へ仕向く

岩手縣二戸郡金田一驛前

### 村上喜三郎商店

電略(ムラ)又ハ(ム)

直營七割と買入三割、二戸郡の北部地帯と九戸郡内の産、黒炭檜、雜の丸割、檜雜の荒、概ね上検査品八割、並検査品二割精撰品なり金田一驛積入、東京、神奈川を販路とす。

## 優勢を極む久慈驛移出木炭

### 檜割多産年移出百二十萬俵を突破 帝都大消費市場の視聽愈々集まる

岩手縣久八線久慈驛移出木炭の數量は昭和十二年度に於て百二十萬一千四百二十七俵を示し尙も

増加の趨勢に向ひつゝあることは、申すまでもなく地方部落への産業道路の開発に伴ふて交通の便拓け、山田線又は本線へ搬出するよりは久慈驛への集荷を便とせる關係もあらふ、その何れにしても一驛年移出量に於て百二十萬俵を突破せるが如き巨額を算するに到れるは、業界廣しと雖も他に見出し能はざることは言を要せぬであらふ、その岩手縣林産物検査所久慈出張所(野田を含む)管内のみにても、九十四萬百六十四俵を示し、又當然久慈驛より發送せらるべき平井賀出張所管内十三萬六千八百二十九俵、普代出張所管内三萬七千八十俵、以上三出張所を合し既に百一十一萬四千七十三俵となる、其他九戸郡の山根、下閉伊郡の安家方面より集荷されつゝあるを以て貨物自動車の便に支障なき限り久慈驛移出數量は増加の數字を辿るべく現在ではまだ八合目に止まり頂上に達するには尙ほ充分の餘地を存すべきことを思はしむるものがある。

年消費量に於て約壹億萬貫に達せんとする東京市場にありて、黒炭は何んと言つても岩手縣の供給に俟たねばならぬ。又白炭では秋田縣産の移入を仰がねばならぬことは東京市場消費量の數字がそれを物語つてゐる。

従つて物價の統制に依る國策の現はれとし、木炭の價格も公定せらるゝに到つたが、黒炭の柵では銚田を見逃がさなかつた、白炭では角館を基準とされた、黒炭では當然久慈を基調とせらるべき



ことは想像に難からざりしことを思はせる。

而してその久慈の品種であるが、久慈は左に掲ぐるが如く楢割多産の地である、嘗て検査が極度に嚴格でありし當時は久慈の三等は本線の一等に該當した雜割にしても當然一等に該當せらるべき品位價值を有するものでも三等に落したものであつた、桐生市の問屋が口を揃へて言へるあり曰く商品であるに依つて三等品と云ふよりは一等品と云つた方が通俗的にも氣受けがよいのだがと、當時の久慈物は値が張り過ぎてゐたとの聲さへあつた、恰も検査規則改正に逢ふや等級名稱をして極上、並とせることとなつた久慈は之を契機に等級格付にも自然改訂が加へられ検査格付査定の統制と云ふ見地からと察せられたが現今は極上も出し、上も出すことになつた、今や久慈の木炭は大衆向家庭用とし廣く周ねく需求せらるゝよふになつた、或る人之を稱して久慈は品位が低下したとあるされども低下と云はんよりは絛上の事由に依ることと、思料する、之より久慈驛移出木炭の中心をなせる久慈、普代、平井賀の各検査所別に品種、品等、數量を掲げ、更に移出業者を紹介することとした。

### 改善促進の一端

昭和十一年久慈木炭整東改良組合を創設し組合員八十名を網羅し、久慈支所と連絡を保ち

検査諸規程を遵守し製品の統一を圖る上に資し並に貨車の輸送狀況並に馬車、駄馬、自動車に依る運搬に對して品質、量目、俵装等毀損せしめざる等取扱上に注意を與ふることにも整束組合に於て衝に當り聲價の維持向上に努力しつゝある。

### 久慈出張所管内

#### 移出數量

楢丸極上	三七七七五	楢割並	一一四九九六
同 上	一三二四五九	楢荒上	五四〇四一
同 並	一〇九八一三	同 並	四三〇四
楢割極上	八一三〇三	雜丸極上	一三六四
同 上	二四七二二二	雜丸上	二九四八七
同 計		同 並	二〇一八二
同 計		雜割極上	三三四九
		同 上	三七三一八
		同 並	七二八六
		雜荒上	四一八三七
		同 並	一八四二八
		同 計	一五八二五一
		同 計	九四〇一六四

普代出張所管内

移出數量

櫛丸上	六九三
同 並	四八八
同 割上	七八八
同 並	四六二
同 荒上	一三七
同 荒並	二九
計	二五九七
櫛丸極上	三一
同 上	三二八九
同 並	二二〇一

櫛割極上	九六
同 上	三六五一
同 並	一三一四
櫛荒上	六一八
同 並	二四〇
計	一一四四〇
雜丸極上	二九
同 上	二四七九
同 並	一八七九
雜割極上	三
同 上	一八四五
同 並	一〇〇七
雜荒上	八六九
同 並	八九五

平井賀出張所管内

移出數量

計	九〇〇六
合計	三七〇八〇
櫛丸極上	七二六
同 上	二八八二三
同 並	一五八七一
櫛割極上	一一六四
同 上	四〇六一二
同 並	一六〇二六
櫛荒上	六一六二
同 並	二〇二八

雜丸極上	—
同 上	五八二二
同 並	四八七七
雜割極上	—
同 上	五七二〇
同 並	三二五五
雜荒上	一五二三
同 並	四二二〇
合計	一三六八二九

移出業者 久慈驛より移出を營まるゝ諸氏は數量の巨額だけに左の如く多數に上り、縣販聯が十九萬俵で一位を示し、工藤精作商店が十七萬俵で二位を示し、大川目村中野善九郎商店の三千俵を合し三十店の多きを數ふ、但し諸氏の

うちには久慈を主とせるもあり、他驛を主とし久慈を従とせるもあることを御承知ありたし。

- 岩手縣購販聯 盛岡市大通り
- 工藤精作商店 九戸郡久慈町
- 熊谷亮二郎商店 下閉伊郡普代村
- 八戸木炭株式會社 八戸市八戸驛前
- 野中榮吉商店 九戸郡久慈町
- 宮古林業株式會社 八戸市番町
- 米内石太郎商店 九戸郡中野村
- 中塚堅一商店 九戸郡夏井驛前
- 中野義廣商店 九戸郡野田村
- 高久友良商店 九戸郡久慈町
- 山田千太郎商店 九戸郡久慈町
- 明内文一郎商店 九戸郡野田村

- 西塚商店木炭部 九戸郡久慈町
- 中野繁商店 九戸郡久慈町
- 大澤良文商店 九戸郡野田村
- 中野省一郎商店 九戸郡久慈町
- 中島萬次郎商店 二戸郡一戸町
- 中森市三郎商店 九戸郡久慈町
- 角田出張所 九戸郡久慈町
- 久慈季六商店 九戸郡宇部村
- 三船平吉商店 九戸郡久慈町
- 中野清吉商店 九戸郡久慈町
- 馬場運太郎商店 九戸郡長内村
- 三船仁太郎商店 下閉伊郡普代村
- 畑村常吉商店 九戸郡野田村
- 岩崎恒哉商店 八戸市八幡町

以上は六萬俵以上

- 長内仁太郎商店 九戸郡久慈町
- 熊野繁藏商店 九戸郡久慈町
- 兼田操商店 九戸郡久慈町
- 中野善九郎商店 九戸郡大川目村

斯くして久慈驛移出木炭は年額十七萬俵の多きに達し之を東京、千葉、埼玉、神奈川の各地へ仕向く、品種は楢割、丸を八割、雜丸、割、荒合して二割の率に供給し、外に湊驛よりも移出されてゐる。

營業所岩手縣久八線久慈驛前

### 余 木炭 輸出 工藤精作商店

本店岩手縣下閉伊郡田野畑村 電話一〇二番

店主は盛岡高等農林の出、林業には學究的造詣深く、營業にありては製炭を手山にて經營せる外豊富なる資本力を有し部落共同出荷に對し買入を爲し、或は生産者に資金を供給する等

岩手縣下閉伊郡普代村

### 熊谷亮二郎商店

電話二番電略(〇二) 出張所 久八線久慈驛前 熊谷久慈出張所 電話六十二番

普代の店舗は實に堂々たるものがある、米雜穀、肥料、雜貨、度量衡、酒類外に國定教科書文具等の販賣を營む、木炭は手山に依るもの七

萬俵と稱せられ買入十萬昭和十二年度にありては十七萬俵の多量を移出してゐる、生産地は九戸郡の大野、宇部、長内、夏井、大川目、野田の各村と下閉伊郡北部の諸部落にして、黒炭楡丸、割、雜丸、割、楢七割、雜二割、荒一割の振合に産出す、手山に屬する樹齡は二十年生乃至三十年生にして上検査品五割、並検査品五割にして、荒にも若木が多い、久慈驛積出、東京神奈川、埼玉、千葉へ仕向く、同店は自家用貨物自動車二臺を有し規模の大なるを窮ふに足る。

岩手縣九戸郡久慈驛前

**野中榮吉商店**

木炭 移出 電話一〇七番電略(ノナカ)

米雜穀問屋をも營む、木炭の産地は九戸郡の山形、大野、山根、野田の各村と久慈町近在及下閉伊郡の普代、田野畑、安家の各地にして買入品八割を占め、直營二割を合し昭和十二年度には年額十三萬俵を移出す、楢、丸割、雜、丸割、楢荒、雜荒、松炭の各種にして楢六割五分雜二割、荒と松にて一割五分の振合なり、東京市場を主とし神奈川、千葉、稀に青森へも供給す、自家用トラック一臺を充て山元集荷に活躍してゐる。

岩手縣下閉伊郡普代村

**三船仁太郎商店**

電略(ミフネ)又ハ(ミ)

製炭移出と運輸業を營み貨物自動車三臺を所有す、木炭は直營品と買入品と相半ばし、普代村の外下閉伊郡一圓に亘る製品楢丸楢割半々は全額中の六割、雜丸雜割半々は三割に該當し荒一割の比率、昭和十二年度には八萬俵を移出されてゐる、手山は樹齡二十年前後にして品質良好である、店主は普代村會議員、區長、經濟更生委員等の公職に擧げられてゐる。

岩手縣九戸郡中野村

**金米内石太郎商店**

出張所 久八線久慈驛前

電話一三二番

同店は中野村にして中野支部長に擧げられ陸

中中野驛よりも多量の産を移出する外久慈驛前に出張所の設けありて昭和十二年度には此の驛のみにて六萬俵を移出してゐる、手山八割、買入二割、産地は九戸郡内大野、中野、久慈、山根の各村にして楢物七割、雜物二割、サク及松炭合して一割の振合を示す、移出驛は陸中中野侍濱、久慈の各驛にして東京、千葉、埼玉、神奈川へ仕向く、同店の製品楢荒上のうちに小丸楢角俵の逸品を見る。因みに中野支部の創設せざる以前は種市支部に屬し居りしが一昨年同支部の設置と共に種市より分離せる他方には久慈に屬せる侍濱を併合し爾來店主は中野侍濱兩地統制の上に立ち業者の親睦と製品の統一に努む。

盛岡市岩手縣廳内

木炭改良指導  
販路擴張幹旋  
品評共進開催  
製炭指導普及  
優良職工表彰  
其他必要事項

岩手縣木炭移出同業組合  
岩手縣木炭移出商業組合

組長 小山小十郎  
理事長 北山鏘一  
主任理事

岩手縣木炭移出同業組合  
岩手縣木炭移出商業組合

東京出張所

主任 千葉喜造  
農林主事補

東京市豊島區雜司ヶ谷七ノ一〇二五  
電話大塚三五七六番  
東京市荒川區南千住五ノ一五  
電話淺草〇六四二番

受託木炭販賣數量年額壹百萬俵

岩手縣九戸郡久慈町

木炭 山田千太郎商店  
直營

電話六八番電略(ヤマ)又ハ(ヤ)

楢上検査品八割並檢二割の率二十年乃至三十年生の資材悉く手山物、楢物七割雜物三割の振合昭和十二年度にありては四萬俵を移出す、九戸郡の長内、久慈里山、野田の各地に製炭所を有し久慈驛より出荷し東京市場へ供給す。

營業 製炭輸出、運送部  
鐵道枕木、海産物  
米 穀、雜貨部

岩手縣九戸郡野田港

中野義廣商店

電話野田一番

電略(カネヨ)又ハ(ナ)  
振替仙臺五〇三四番

木炭は手山七分買入三分、楢物七割、雜物三割、久八線久慈驛積出、東京、神奈川、埼玉へ仕向く、昭和十二年度移出量四萬俵、貨物自動車を所有し久慈、野田間の運輸をも營む。

岩手縣九戸郡野田港

木炭 明内文一郎商店  
移出

電略(メウ)又ハ(メ)  
木炭積出驛久八線久慈驛

樹齡二十五年乃至三十年生の資材に依り楢八割、雜二割の手山を野田村各所にて直營せる外に部落共同出荷に依る買入品合して三萬五千俵

久八線久慈驛より移出し東京市場へ仕向く、所有トラック一臺は自家専用に使せられてゐる。

岩手縣九戸郡野田港

### 大澤良文商店

電話野田二五番電略(オサワ)

九戸郡野田、安家を事業地とし直營品五割、買入品五割の振合に營み、黒炭楡丸四割、楡割六割、雜丸、雜割、楡荒雜荒の各種を生産し又松炭も之より多量に産出の見込、昭和十二年度に於ける移出量は二萬五千俵、久慈驛積入れ、東京市場へ供給す。

### 中野驛と侍濱驛

岩手縣木炭移出同業組合は嘗ては種市支部に屬せる中野村と久慈支部に屬せる侍濱とを結んで中野支部の設置を見ると共に米内石太郎氏が支部長に當選することゝなつた、岩手縣林産物検査所もまた中野出張所を置き中野と侍濱とを所屬せしめてゐる、依つて本誌もまた中野支部管内の産として陸中中野驛と侍濱驛との概況を掲ぐることにした。

移出木炭の品種 兩驛より移出する木炭は樹齡大凡そ十五年生より四十年生にして品種別は

- 楡丸 五三四四〇 荒ザク 九六四五
- 黒炭

### 中野支部管内産

- |   |        |         |        |          |        |
|---|--------|---------|--------|----------|--------|
| 楡割  | 七九一六五  | 松炭      | 二〇一一六  | 大粒來岩吉商店  | 九戸郡中野村 |
| 雜丸  | 六八九二   | 栗       | 二五     | 日向石太郎商店  | 同郡同村   |
| 雜割  | 九三五〇   | 粉炭      | 一二八    | 中村傳三郎商店  | 同郡同村   |
| 合して十七萬八千七百六十一俵にして陸中中野驛よりは十二萬八千六百二十俵、侍濱驛よりは五萬百四十一俵を移出し、東京市場を中心に近縣並に横濱市場方面へ供給す。 |        |         |        | 笠水上忠太郎商店 | 同郡同村   |
| 移出業者 は左の諸店を數ふ   |        |         |        | 久慈清輔商店   | 九戸郡侍濱村 |
| 米内石太郎商店   | 九戸郡中野村 | 砂澤卯助商店  | 同郡同村   | 阿部由三商店   | 八戸市長横町 |
| 大久保忠五郎商店  | 同郡同村   | 西塚商店木炭部 | 九戸郡久慈町 |          |        |

### 最高優良品種市の木炭

久八線八木種市階上の三驛より移出

岩手縣種市の産は最高權威をなし製炭の技術普及し楡資材多く樹齡も亦十四五年生より二十三年生の範圍にして而かも種市木炭改良組合の組織ありて消費地の嗜好が時に並品を好む如き傾向を呈することありても一定不變の方針に則り改良に邁進してゐることが種市木炭の聲價をして依然堅持し得らるゝことである、唯八木驛に集荷する大野村の産にして同驛移出量の七割を占むる製品中に樹齡四五十年生のものが含まれ此の驛より供給せらるゝ數量中純種市産は三割強を數ふべきかを眺むるも、移出検査吏員の眼は一つであるに依つて純種市産を見る眼で八木驛經由大野村産をも檢するるのであるから等級格差は同一でありそは等級が落ちると云ふことゝなるに過ぎない、而して階上驛は三戸郡に屬し居れども種市産にして此の驛より移出するもある、左に各驛に別ちて品種別と移出業者を掲げん。

### 種市驛の概況

種市驛移出木炭は昭和十二年度にありては黒炭七萬八千八百五十六俵にして樹齡若く樹質亦

良好にして唯僅かに城内村國有林地帯より生産する製品が稍々老木の憾みなきにあられどもそは僅かに百分中の五%にして馬車にて八戸市へ向け地方消費に充つ品種別に擧ぐれば

楡 丸 四二一九一

楡 割	一一〇五二
雜 丸	一〇五〇〇
同 割	九七〇〇
松 炭	一九九三
栗 炭	四〇〇
丸俵ザク	三〇二〇
計	七八八五六

楡 割	三二二八〇
雜 丸	四〇八一
同 割	一九九七
松 炭	三六九
栗 炭	二二〇
丸俵ザク	二〇七四
計	六〇〇八〇

### 八木驛の木炭

種市出張所管内陸中八木驛移出は前に掲ぐるが如く種市村産三割、大野村産七割の振合にして總移出量を品種別にせば

楡 丸 二〇〇五九

### 階上驛種市産

種市村の産にして此の驛より移出せる數量は昭和十二年度にありては二萬千三百六十二俵を示せり品種別にせば

楡 丸 一〇六二二

檜 割 八八一

雜 丸 九八〇

同 割 七六一

松 炭 一〇二

栗 炭 一六〇

丸 俵 〆ク 一二二六

計 二一三六二

移出業者 驛別且つ移出數量順位に擧ぐれば  
左の諸店を數ふ。

種市驛移出業者

- 工藤仁太郎商店 九戸郡種市驛前
- 種市信購販組合 九戸郡種市驛前
- 城内信購販組合 種市村城内
- 畑田磯吉商店 種市村城内

宮古林業株式會社 八戸市番町

久保田永作商店 種市村字傳吉

陸中八木驛移出業者

- 工藤久助商店 種市村八木驛前
- 高屋敷ナツ商店 同 所
- 川崎富藏商店 中野村字小子内
- 宮古林業株式會社 八戸市番町
- 阿部山三商店 八戸市長横町

階上驛移出業者

- 八戸木炭株式會社 八戸市八戸驛前
- 大入市造商店 種市村字角濱

岩手縣九戸郡種市驛前

三 工藤仁太郎商店

同店の營業を紹介するに先だち種市木炭が依然聲價を保ちつゝあることに關し同店主が多年改良に盡瘁し來れる功績を表彰せんとするものである、店主は種市支部長として永年累任されてゐるが、種市の木炭が萬古不朽の名聲を堅持してゐるその支援者とも稱すべき人に工藤仁太郎氏の存在を見逃がし得ぬ一事である、氏は常に検査當局と協調提携して、改良指導施設をして毫も緩めざること努力し最近種市木炭改良組合を組織し生産者並に販賣業者の悉くを網羅

し窯元指導、部落品評會舉行、等級査定會等の施設を講じてゐる、又一面には種市は検査吏員にも職に熱心なる人を得てゐる、曩きには片桐検査員の努力あり氏が久慈へ轉ざる後を享けては青名畑氏の就任となり、現任者また稀れに見る、謹直忠誠の人検査技手高橋榮氏の永勤せらるゝありて、工藤支部長よりの進言、同検査技手の迎合、斯くあつて種市木炭は充實せる品位を永へに保ち得る所以であると信ずる。

同店の營業は木炭の移出數量が種市驛の首位を示してゐるのみならず鐵道枕木方面へも手廣く關係してゐる、檜八割、雜其他を合して二割の率に移出し主として東京市場へ供給し檜細、雜細の類は東京市場の外に千葉縣へも仕向く。



岩手縣九戸郡種市驛前

保證 種市 信用販賣 責任 購買利用 組合

電話種市四番

組合長理事 岡本福太郎

木炭部主任 川又幸一郎

種市信用販賣購買利用組合は種市村の城内を

除ける以外の總てを網羅し組合員の製産木炭を  
販賣してゐる、その製品は種市支部の改良施設  
のもとに於ける優良木炭であつて一ケ年の移出  
量毎年二萬俵を示してゐる、販賣の方法は縣販  
聯、全販聯を経由せずその大部分は直接市場の  
業者に供給してゐる、曩きに木炭部に主任であ  
る川又幸一郎氏に依つて有力なる生産者數名を

率いて東京市場の視察をされたことがある、そ  
は消費地の嗜好を汲んで更に改善を進めんとす  
るにあつた且又取引の圓滑を圖るべく産販兩者  
の接觸を密ならしむることに存してゐた。斯  
くて同組合の成績愈々良好を加へつゝある。

俵裝切替の妙技

久慈に見る、八木に見る、その俵裝の技術に  
就いて、稱して切替へと云ひ又手直しとも名づ  
けるが、假りに古い傷める包俵を外して新しき  
俵と替へる之を切替へと云ふ、その妙技こそ他  
縣には見られぬものがある、八戸木炭株式會社  
の使役人や宮古木炭株式會社の傭役人のうち切  
替手直しに従事せるものには二十五年勤続者さ  
へも數へられる、その早い手際には驚嘆する、  
視察の序に見學も亦一興あらん。

久八線産 精撰角俵

支店 宮古

宮古林業株式會社

支店岩手縣宮古町築地通

電話 宮古一八五番

電信略語(〇ミヤ)

積出驛 川井、茂市、藁目、宮古、豊間根、山田、大槌

年移出額五拾萬俵

本社 八戸市番町

本社 登録商標

宮古林業株式會社

電話 八戸三一二番

電信略語(〇キウ)

積出驛 久八線種市、八木、久慈

山田線産 改良角俵

青森縣八戸市八戸驛前

# 八戸木炭株式會社

取締役社長 接待 麻雄

電話二二六番電略(ハスミ)

## 特撰黒炭角俵



### 年移出量參拾五萬俵

輸出驛 久八線久慈 階上 八戸

## 八戸市の今昔

八戸町と稱せられし當時は木炭の大量供給地であつて同地業者の向背如何は直ちに中央の市價を動かしたものである、その八戸町は夙に市制が布かれて大八戸市が建設され鐵路はまた久慈町への開通を見て、八戸の木炭界はその儘久慈へ遷された如き態様に推移し、有力なる業者八戸木炭株式會社も亦宮古林業株式會社にありても爾來久慈に主力を注ぐこととなり、又嘗て湊驛移出の第一位を占めてゐた工藤精作氏の如きも久慈驛に於て活躍し、阿部山三氏もまた久八線の各驛より移出を營むこととなりて現今の

八戸市は地方文化の中心地となり、行政の府となり、商取引港となり木炭の大消費地となつた故に木炭界よりせば絛上有力筋の店舗所在地として残されてゐるのみではあれど三戸郡の産又は岩手縣の一部分よりして八戸驛へ集荷するを以て不便とせざる部落の産は八戸驛よりし若くは湊驛より移出し、港には木村竹次郎商店、久慈季六商店出張所、長谷佐太郎商店等依然盛業を營み、八戸、湊の兩驛を合して三戸郡及び岩手縣海岸地帯の産年額三十五萬俵の移出量は今尚ほ數へられてゐる。

八戸市八戸驛前

 八戸木炭株式會社

電話二二六番電略(ハスミ)

取締役社長接待麻雄氏は同地方に徳望を有し八戸市會議員に擧げられてゐる、又青森縣三戸郡木炭同業組合に組長の重職に推擧されてゐる氏は言論の人ではなく誠意實行の士言行心の一致せる人として衆望を集めてゐる、會社業務は木炭の製造輸出、各種燃料及び、燃料器具の販賣、倉庫業、等にして木炭の移出は久八線、久慈驛、階上驛、八戸驛より改良精撰されし黒炭角俵年額三十五萬俵を東京市場を中心に周ねく關東市場へ供給してゐる。

八戸市番町

### 宮古林業株式會社

組合の設置をなす等、三戸郡產木炭が常に種市木炭と同一品位を保ち聲價を恣にしつゝあることは組合理事者の功績に俟つべきものが多い、青森縣木炭検査所八戸支所當局との聯絡提携も亦密なるものがある、さて會社業務の主なるものは木炭の製造販賣にして直營に屬する製品は依然として優秀を誇り後進他縣の當局に求められ其縣の標準木炭として提供せることの如きも既に一再に止まらざるものがある、事業地は久八線と山田線とにして久八線は種市、八木久慈の各驛より移出し、山田線は川井、茂市、墓目宮古、豊間根、山田 大槌の各驛より移出され年額移出量五十萬俵を下らざるべしとある、豈に偉なりと謂はざるを得ぬ。

電話三一二番電略(〇キウ)

專務取締役 阿部眞之介

岩手縣下閉伊郡宮古町

支店 宮古林業株式會社宮古支店

電話一八五番電略(〇ミヤ)

支店長 喜藤 昌亮

阿部眞之介氏は八戸市商工界に他日を囑望されてゐる、明敏にして穩健の資性、三戸郡木炭同業組合接待組長の補佐役としての副組長の任にもある、同業組合は時代の潮流より取り残されたる形ちにあり、謂はゞ弱體となれる法人三戸郡木炭同業組合をして、依然として有効に有意義に活躍せしめつゝありて、木炭倉庫の建設は素より製炭改良窯元指導、部落品評會並に競技會の開催、八戸湊及び三戸驛に木炭改良整東

太陽印奥州角俵輸出

### 阿部由三商店

八戸市長横町七番地

同店は九戸郡大野、中野の兩村の産並に青森縣三戸郡產と讚へらるゝ階上、是川の産を合し手山七割と買入三割の率に盛大に縣外移出を營み、久八線の八戸、陸中中野の兩驛より積出、東京、埼玉、神奈川の各地へ供給してゐる、品種は楡九割、雜一割の率にして手山に屬する部分は樹齡十七年より二十七八年を止まりとされてゐる優良資材である、三戸郡產にありては十五年生と云ふ若木が多い外に松炭をも産する。

帝國火災保險株式會社代理店  
青森縣八戸市湊驛前



木炭 移出  
**木村竹次郎商店**

電話五〇五番電略(〇キ)  
振替東京四二三〇九番

炭材の樹齡は十四五年生より二十年、三戸郡

産の稱ある優良木炭の産地階上村産を多量に、  
手山と買入品とを移出し、尙ほ岩手縣下閉伊郡  
海岸地方産をも取扱ひ年額移出量は五萬俵を突  
破すべし、品種は黒炭楢丸六分、楢割四分、雜  
丸六分、雜割四分の率にして楢八割雜二割の振  
合なり、荒及び松炭十二キロも製出し東京市場  
と千葉縣を取引先となす、店主は秋田縣白炭改  
良の先驅者木村幸右衛門氏の次の令息に生れ、

尊父は明治三十九年秋田縣湯澤町に於て木炭製  
造移出を開始し一世の功を收められし人、木村  
竹次郎氏の創業は大正七年にして湊木炭界の變  
遷に逢ふも微動だもせず、店基益々鞏固なるも  
のがある。

八戸市湊驛前



久慈季六商店出張所

久慈恭次郎

電話五二〇番電略(カネカ)

本店は九戸郡宇部村にして木炭鐵道枕木製材  
販賣を營む、當湊出張所は久慈恭次郎氏に依つ  
て經營し店基固く、移出木炭は悉く手山製品に  
屬し九戸郡山根村、下閉伊郡平井賀の産にして

黒炭楢物雜物共に丸割相半ばし又松炭は十二キ  
ロ、ハンノキ炭十二キロも多量に製出し、移出  
量は年額七萬俵内外を示し、更に又山田線茂市  
驛へも事業の手を延べ着々擴大せしめつゝある  
移出驛は八戸線湊、久慈、山田線の茂市の各驛  
にして東京、千葉、神奈川、群馬の各地へ仕向

楢物七割雜物、荒、松炭十二キロ、ハンノキ炭  
十二キロ物合して三割の率に取扱ひ、八戸市内  
卸賣をも手廣く營むも尙ほ且つ移出量は五萬俵  
を下らざるべし、手山物は二十年前後の若木に  
して特に優秀せり、東北本線三戸驛と湊驛より  
積出し、東京、埼玉、神奈川の各地へ供給す。

木炭部八戸市湊驛前



木炭 移出  
**長谷佐太郎商店**

雜貨部 八戸市小中野町

電話二五二番電略(ハセ)  
振替 仙臺 二一九六三番

同店は九戸郡大野村の産、下閉伊郡沿岸地方  
の産並に三戸郡産の手山物と買入品とを移出し

各地木炭卸商

澁谷區千駄ヶ谷五丁目九九八

(新宿貨物驛前)



三新商店

店主 木村庄三郎

電話四谷五四四一番

昭和二十年東京木炭鐵道到着數量

二 十 八 驛 四 〇 八 三 四 噸

秋葉原驛	四五四四八	龜戶驛	一〇八七四
隅田川驛	三九一〇二	王子驛	一〇七八八
新宿驛	三一六六五	汐留驛	一〇七二三
錦糸町驛	二六五一六	赤羽驛	八八六五
芝浦驛	二五二二二	目白驛	七九七三
品川驛	二一〇三六	小名木川驛	七四四三
飯田町驛	一七七三一	巢鴨驛	六七二九
澁谷驛	一六六八三	中野驛	六〇九九
田端驛	一六四四八	蒲田驛	五八九五
惠比壽驛	一四五八四	三河島驛	五七七五
大崎驛	一四五〇七	平井驛	五二五一
池袋驛	一四四五〇	板橋驛	四六五七
北千住驛	一三四〇一	兩國驛	四一七七
大森驛	一三一九一	大塚驛	三六〇二

京濱市場著名木炭問屋の芳名

東京市神田區各木炭問屋のリスト

薪炭問屋

東京市神田區佐久間町一丁目十六

若菜屋商店

分大橋忠三郎

電話下谷 (五〇三九番) (五八八〇番)

荷受驛 秋葉原

薪炭問屋

神田區佐久間川岸二九

若義

金若林義三郎

電話下谷 (〇六八七番) (二六八〇番)

荷受驛 秋葉原

神田區松住町一番地

野田要商店

木炭問屋 室田金壽

電話下谷 (二八七二番) (二九七二番)

荷受驛 秋葉原

下谷區秋葉原驛前

秋田屋

加藤商店

電話下谷 (四五六七番) (二六八〇番) 振替東京 六二三八一番

荷受驛 秋葉原

神田區佐久間町一丁目

川初商店

薪炭 榎本長治郎  
問屋

電話下谷 五七四六番

荷受驛 秋葉原

神田區花房町三番地

奧山商店

薪炭 奧山德治  
問屋

電話下谷 三〇三番

荷受驛 秋葉原

薪炭問屋

神田區和泉町一番地八號

武州屋本店

電話下谷 一七三七番

鈴木式タドン形成器

製造發賣元

荷受驛 秋葉原

日本通運第二種加盟店

木炭專門誠實取扱

神田區秋葉原驛前

山石運送店

(佐久間町一丁目十一番地)

電話下谷 六六六二番

店主 下平清助

日本橋區蠣殻町二丁目四

服部商店

薪炭 服部安吉  
問屋

電話茅場町 三三二八番

荷受驛 秋葉原

京橋區寶町二丁目一番地

辰巳屋

薪炭 田中辰藏  
問屋

電話京橋 (四五四六番  
九三一六番)

荷受驛 秋葉原 汐留

諸國木炭紀州備長  
箱入切炭元賣捌所

炭問屋 三 柳原商店

電話 銀座 三五八二番  
京橋 五八〇〇番  
五九〇〇番

荷受驛 汐留

下谷區上車坂町五十三番地

石炭木炭問屋

株式會社 釜芳商店

電話 二一四一番 二一四二番  
二一四三番 二一四四番  
根津 二一四五番

木炭倉庫部

芝區西芝浦四丁目四番地  
電話三田 三二〇七番

下谷區仲御徒町二丁目三四

加賀屋

薪炭 三橋喜太郎  
問屋

電話下谷 八三八〇番

電略(ミ)又ハ(ミハシ)

荷受驛 秋葉原

下谷區西町五十八番地

越中屋

薪炭 高野留吉  
問屋

電話 四八五一番

荷受驛 秋葉原

下谷區稻荷町五十四番地

木炭 矢口商店  
問屋

店主 矢口次郎一

電話下谷 八七〇二番

荷受驛 秋葉原

下谷區龍泉寺町一六六番

三龜

薪炭 鶴田善次  
問屋

電話下谷 二二七〇番

荷受驛 隅田川

淺草區北清島町七十七番地

金子商店

薪炭 金子昇平  
問屋

電話根岸 三〇六九番

荷受驛 隅田川 秋葉原

淺草區田中町二丁目二十二番地

三河屋

木炭 加藤有清  
問屋

電話淺草 一二四八番

荷受驛 隅田川

下谷區仲御徒町一丁目六三

高松屋

燃料 新川秀吉  
問屋

電話下谷 一二九八番

荷受驛 秋葉原

下谷區竹町公園十一號地

大黒屋

燃料 糟谷幸市  
問屋

電話下谷 一四一番

荷受驛 秋葉原



下谷區入谷町三七七番地

駿河屋本店

木炭 今古地福松  
問屋

電話根岸 〇五一六番  
振替東京 三九四九〇番

荷受驛 隅田川丸通

淺草區菊屋橋一丁目三番地

薪炭 關本長藏  
問屋

市電三筋町北二丁目

荷受驛 隅田川

下谷區入谷町二三一番地

幸島屋

薪炭 大島利重  
問屋

電話根岸 〇八四一番

荷受驛 隅田川

淺草區壽町一丁目二四番地

薪炭問屋神松屋號

合名 小松原商店  
會社

代表社員 小松原由三郎

電話淺草 二八七四番

振替東京 九九四九六番

荷受驛 隅田川

薪炭問屋

西野屋商店

吉 岩井喜一郎

荒川區南千住町三丁目六六  
電話淺草 三五二四番

荷受驛 隅田川

荒川區尾久町五丁目七二一

西森商店

薪炭 全西森三郎  
問屋

電話下谷 九三三七番

荷受驛 田端 王子

薪炭問屋

荒川區日暮里町九丁目一〇四四

分 増田屋本店

店主 増田友市

電話駒込 一九八八番

荷受驛 田端

木炭煉炭問屋

荒川區南千住町二丁目八九  
隅田川驛前

合名 高橋商店  
會社

電話淺草 〇六六八番  
振替東京 五二二〇四番

荷受驛 隅田川

東京北千住薪炭問屋懇話會

(次 第 不 同)

足立區千住末廣町七〇番地

伊藤金松

電話足立 二五五五番

足立區千住一ノ八四番地

長谷川子之助

電話足立 二二二二番

足立區北千住驛前

太田勝藏

電話足立 二七三八番

足立區北千住驛前

川島嚴隆

電話足立 二二七九番

足立區千住二ノ三六番地

吉田兼吉

電話足立 二七七九番

足立區北千住驛前

榎本吉太郎

電話足立 二二四八番

足立區千住橋戸町八一番地

荒井長三郎

電話足立 二二二四番

足立區千住一ノ八番地

遊間森三

電話足立 二二七八番

足立區千住仲町一一

鈴木龜次郎

電話足立 二三一一番

足立區千住河原町三四番地

大久保由太郎

振替東京 八七五〇七番

淺草區田中町二十二番地  
電話淺草四七九一

藤岡金次郎商店

薪炭問屋  
小林號

薪炭問屋

王子區赤羽町二丁目四九七

石井半兵衛商店

電話赤羽 二二〇二番

荷受驛 赤羽

薪炭問屋

町田屋

川島治三郎商店

瀧野川區田端町二〇七番地

荷受驛 田端

東京燃料研究會

燃料問屋

羽鳥丈吉

荒川區町三丁目一四九〇

荷受驛 三河島

王子區王子一丁目四七二  
(王子驛前)

山木屋

薪炭 山田清五郎  
問屋

電話王子 三三三三番

荷受驛 王子

王子區下十條町一丁目一〇六

高木商店

薪炭 高木清三郎  
問屋

電話王子 三〇七五番

荷受驛 王子

豐島區雜司ヶ谷町七丁目九五二  
(池袋驛前)

相馬屋

薪炭 菅野商店  
問屋

電話牛込 四九八四番

荷受驛 池袋

豐島區巢鴨町一丁目四三

省線巢鴨驛南口前

薪炭問屋

吉弘商店

電話大塚 三九六番

荷受驛 巢鴨

諸國 木炭 問屋  
石炭

營業所

瀧野川區上中里五三九

田端驛前通

電話王子三〇〇五番

合資 橫山商店  
會社

第二賣場

王子區下十條北王子驛前

倉庫部

王子區下十條北王子驛前

王子區豐島町二五一〇

毛 薪炭 矢島守治  
問屋

電話王子 三七五八番

振替東京 九四二四〇番

荷受驛 王子

豐島區巢鴨二丁目三八番地

省線巢鴨驛前

薪炭問屋

齋藤祐三郎商店

電話大塚 一三三七番

荷受驛 巢鴨

杉並區高圓寺六丁目七五七

薪炭 加茂商店

店主 加茂富雄

電話中野 四六一一

荷受驛 中野

石炭薪炭米穀問屋

淀橋區柏木一丁目六三

石塚鶴吉商店

電話淀橋 〇六〇二番

荷受驛 新宿

大東燃料 代理店

板橋區南大泉町三三〇

薪炭問屋各種石炭

列 杉本泰助商店

電話保谷 二四番

電略(ス)又ハ(タイ)

置場 武藏野線保谷驛前

製炭部 磐越東線夏井驛前  
出張所

荷受驛 武藏野線保谷驛

薪炭問屋

豐島區西巢鴨町四丁目四〇四  
王子電庚申塚驛前

千原屋  
千原六右衛門

電話大塚 一三九〇番  
六八七五番

荷受驛 板橋

淀橋區柏木一丁目三五番地

青森屋號

薪炭問屋 市川壽五郎

電話四谷 一九九〇番

荷受驛 新宿

木炭燃料問屋

澁谷區千駄谷五丁目九七七番地  
新宿貨物ホ一ム前

株式會社 杉田與兵衛商店  
東京支店

電話四谷 〇七九九番  
四三七〇番

荷受驛 新宿 汐留

木炭燃料問屋

淀橋區角筈町新宿驛前  
入龜商店

龜丸山幸一

電話四谷 〇三七五番

荷受驛 新宿

薪炭問屋

世田谷區松原町二丁目六六六

鈴木石藏商店

電話松澤 二一〇六番

荷受驛 新宿

新宿驛

⑥ 島田運送店

營業所 四谷區旭町二二番地

新宿驛貨物ホム前  
電話四谷 五六九〇番

中野區新井町六二八番地

那須屋商店

薪炭 問屋  
塩谷 浩

電話中野 二四三四番

荷受驛 中野

中野區新井町六二五番地

若松商店

薪炭 問屋  
若松 喜造

電話中野 二六四五番

荷受驛 中野

諸國燃料問屋  
燃料テパ

合名  
會社

山德商店第二營業所

松本 德兵衛

杉並區馬橋一丁目四三

着驛 荻野

西馬橋電停前  
第一營業所

電話中野 六〇九三番  
神田區三崎町飯田町驛前  
電話九段 二三四三番

薪炭 製氷 問屋

杉並區天沼一丁目四五番地  
中央線荻窪驛南口大通り

本郷彦吉商店

電話荻窪 二二一〇番

販賣部

京王電車下高井戸市場  
電話松澤 二〇九五番  
杉並區高圓寺寶市場  
電話中野 四二六二番

川井新次郎商店

杉並區荻窪三丁目八八  
中央線荻窪驛前

電話荻窪 二〇二九番

**營業品目**  
 各國木炭 石炭 コークス 煉炭 豆炭 新燃料及器具 各種生炭 煉炭石炭ストーブ 燃料器具一式 精製白米 優良炭團製造箱

代理店  
**薪炭問屋 田口守治商店**  
 杉並區成宗一丁目八八番  
 電話 萩窪 三三四三番

**薪炭問屋**  
 杉並區東田町一丁目二番地

高橋 高橋峰松  
 商店 萩窪  
 電話 萩窪 二六五七番

**薪炭石炭煉炭**  
 タドン、タドン原料  
 杉並區天沼一丁目二二二番地

薪炭問屋 **大場商店**  
 電話 萩窪 二九八六番  
 阿佐ヶ谷中央市場内  
 電話 萩窪 三二四九番

**東京煉炭株式會社** 代理店  
**品川煉炭株式會社**  
 薪炭石炭煉炭各種

燃料問屋 **關口嘉平商店**  
 杉並區井萩二丁目一四四  
 電話 萩窪 三七六二番  
 電話 (セキ) 又ハ(マス)

杉並區西萩窪二丁目七七

小俣商店  
 薪炭問屋 **小俣丑藏**  
 電話 萩窪 二〇九一番  
 倉庫 中央線吉祥寺驛前  
 荷受驛 吉祥寺

株式會社 **中村採炭經營**  
 浪花炭礦 綴坑 三松炭礦 勿來坑 專屬代理店  
**株式會社 上田炭鑛**  
 薪炭石炭問屋 **新倉貞勝商店**  
 東京市外武藏野町境八五五番地  
 中央線武藏境驛前電(境)七二番  
 東京市芝區新橋三ノ六(駒場ビル三號)  
 電話 芝 (43) 三〇、六七八七三番

**大日本煉炭株式會社** 代理店  
**藤澤煉炭株式會社**

薪炭問屋 **井上富藏商店**  
 八王子市横山町一丁目  
 電話 一三五九番

**燃料荒物味噌問屋**  
 八王子市寺町十八番地

**三榮屋商店**  
**丹羽義三**  
 電話 七九〇番  
 振替東京九三〇八三番

東京中央線吉祥寺本宿二八六

薪炭  
問屋 北海屋商店

電話吉祥寺 四五九番

荷受驛 吉祥寺

薪炭問屋

東京中央線吉祥寺六一六

城越前屋商店

山内九平次

電話吉祥寺 八五一番  
電略(ヤ)又ハ(ヤマ)

木炭問屋

神田區三崎町二丁目一三

飯田町貨物驛前

天野聖資

電話九段 二四二〇番

荷受驛 飯田町丸五

薪炭問屋

麴町區飯田町一丁目七番地

會富所富市商店

電話九段 一五九〇番

倉庫部 麴町區飯田川岸  
飯田町驛前通り

諸國薪炭問屋

野田屋

山口健治郎

麻布區飯倉五丁目六〇

電話赤坂 〇六一九番

振替東京 一八七三〇番

荷受驛 汐留 惠比壽

薪炭問屋

麻布區新網町一丁目七二

越伊藤商店

伊藤長右衛門

電話赤坂 一二〇三番

荷受驛 惠比壽 汐留

諸國木炭燃料問屋

神田區三崎町二丁目二一

飯田町驛前

合名  
會社 山德商店

電話九段二三四三番

第二賣場

杉並區馬場一ノ四三  
電話中野六〇九三番

薪炭問屋

神田區三崎町二丁目四四番地

小林富久太郎商店

電話九段三九九七番

賣場 麴町區飯田川岸  
電話九段三九九六番

荷受驛 飯田町

麴町區飯田町一丁目二番地  
相馬屋

薪炭問屋  
**相馬清造**

電話九段三三三八番

製炭所

岩手縣山田線川井村  
岩手縣二戸郡荒澤村  
福島縣田村郡舟引

荷受驛 飯田町

神田區三崎町二丁目

那須屋本店

薪炭問屋  
**鹽谷勇**

電話九段二四六三番

荷受驛 飯田町

澁谷區景丘町四十四番地

(惠比壽驛東口)

各種納炭  
燃料問屋

**三上新次郎商店**

電話(高輪) 五六九九番  
(赤坂) 〇三五三番  
振替東京 四〇七五八番

支店平塚市西海岸紡績通り

電話平塚 七五五番

澁谷區山下町六〇番地

(惠比壽驛前)

薪炭問屋  
**三上商店**

店主 石渡子之吉

電話高輪七四七番

荷受驛 惠比壽

薪炭燃料問屋

赤坂區新町三丁目三十番地

**日本林業合資會社**

代表社員 小島磯五郎

電話赤坂一三八二番

荷受驛 惠比壽 汐留

薪炭石炭問屋

赤坂區田町五丁目八番地

**藤内忠**

電話赤坂三六二四番

荷受驛 澁谷

薪炭石炭問屋

澁谷區代官山町三番地

**博多直久商店**

電話澁谷三五七三番

荷受驛 澁谷



燃料問屋澁谷驛荷受問屋商進會員

澁谷區代官町三  
博多直久  
電話澁谷三五七三  
赤坂區田町五ノ八  
藤内忠  
電話赤坂三六二四  
澁谷區並木町一〇  
渡邊隆雄  
電話青山七二六二  
澁谷區上通り二ノ二十一  
金子信吉  
電話青山七三七六  
澁谷區櫻丘町三四  
加藤善太郎  
電話澁谷一八三四  
澁谷區櫻丘町四三  
龜山與市  
電話澁谷二三五八  
澁谷區並木町一五  
吉澤二男  
電話青山四八八六  
目黒區上目黒三ノ一八〇三  
高萩六右衛門  
電話青山六〇四九

目黒區中目黒三ノ一〇〇〇  
高萩一郎  
電話大崎二六五一  
世田谷區大原町一〇〇四  
永井音次  
電話(ナ)又ハ(ヲト)  
目黒區上目黒三ノ一六八一  
南雲石次郎  
電話(イシ)又ハ(ナ)  
世田谷區下馬町一ノ二五八  
中村艶次  
電話世田谷三二一七  
世田谷區三宿町二八  
宇田川萬藏  
電話世田谷二二二〇  
世田谷區三宿町二〇八  
黒田彌五郎  
電話(クロ)又ハ(ヤ)  
赤坂區青山南町五ノ七八  
安岡徳治  
電話青山一〇九一  
赤坂區新町五ノ三四  
牧野金太郎  
電話赤坂四四五四

赤坂區青山北町四ノ一〇六  
小杉けい  
電話青山二三〇一  
澁谷區並木町一  
小泉幸藏  
電話青山六四七二  
澁谷區神宮通り二ノ五  
佐藤島太郎  
電話青山〇四九九  
澁谷區並木町一九  
笠井山壽郎  
電話青山一〇一七  
澁谷區並木町一二  
湯澤瀧藏  
電話青山一三六七  
目黒區上目黒八ノ五五三  
島崎廣吉  
電話澁谷一六〇八  
澁谷區並木町一六  
杉浦恒康  
電話青山一八一四・三八九三  
澁谷驛貨物ホ一ム前  
金子運送店  
電話青山六八一〇

品川區東大崎五丁目五三

嘉 薪炭  
問屋 角田周造

荷受驛 大崎

(大崎驛前)

電話大崎三四九〇番

品川區五反田一丁目二七五

企 木炭  
問屋 金井出張店  
金井銓次

荷受驛 大崎

電話大崎 一一六二番  
振替東京九六一五三番

品川區東大崎五丁目四六

薪炭  
問屋 荒井祐治

荷受驛 大崎

電話高輪四二一七番

(大崎驛前)

各種燃料問屋

品川煉炭株式會社代理店  
品川區大井鮫洲町六三

三 角田善吉

荷受驛 品川

電話高輪 二八二七番  
電報略號 (〇サン)  
振替東京四一一五一番

諸國薪炭燃料問屋

芝區下高輪町六一

分

合資  
會社

升田商店

電話高輪〇九九八番

代表社員 升田定次

出張所品川貨物驛内出張所

電話高輪四六〇六番

賣場芝區新堀川岸三六號地

電話高輪三五二二番

芝區田町九丁目一四番地

尖

薪炭  
問屋

太田長五郎

電話三田 一六〇九番

電略(ヲホタ)又ハ(ヲ)

荷受驛 品川

諸國薪炭問屋

芝區新堀川岸十五號地

林英治商店

電話三田 三五六八番

荷受驛 芝浦 品川

諸國薪炭問屋

芝區本芝四丁目二九

刃

合資  
會社

小池新太郎商店

電話三田 三三六一番

別宅電話三田三五八五番

品川貨物驛構内出張所電話高輪〇四五二番  
品川貨物驛構内賣場電話高輪一六一二番

芝區三田松坂町三八

大阪屋

薪炭  
問屋

松田虎之助商店

電話高輪 四〇三七番  
三〇八九番

荷受驛 惠比壽 丸通 丸共

麻布區北新門前町一七

高瀨屋

薪炭  
問屋

高瀨睦人商店

電話赤坂一三三四番

荷受驛 惠比壽 丸通 丸共

京橋區京橋二丁目二番地

伊豆徳

薪炭  
問屋

伊藤政七商店

電話京橋二五二九番

荷受驛 秋葉原

取引産地 岩手、青森、福島、栃本  
山梨、鳥根、秋田、茨城  
牛込區市谷甲良町六

甲州屋

薪炭  
問屋

鷹取慶昭商店

電話牛込三九八一番

荷受驛 新宿 島田 丸通

薪炭問屋

品川區北品川六丁目三五

和田屋商店

店主 和田友次郎

電話 (大崎) 二一八七番  
(高輪) 六五八八番

薪炭問屋

品川區北品川二丁目一二番地

永田盛吉商店

電話高輪〇三二六番

荷受驛 品川

深川區新大橋三丁目一〇

木炭 問屋 舎 小野吉商店

小野吉右衛門

電話本所五一六一番

荷受驛 小名木川

深川區扇橋三丁目六番地

木炭 問屋 小杉商店

電話本所八五六一番

振替東京一〇五四一九番

荷受驛 小名木川

深川區千田町十七番地

薪炭 問屋 小曾根商店

電話本所〇三九三番

電略(コンネ)又ハ(コ)

荷受驛 小名木川

薪炭問屋

宇津木商店

深川區扇橋三丁目二九

荷受驛 小名木川

城東區南砂町一丁目五八五

薪炭 問屋 島村吉衛商店

振替東京一三三八三番

荷受驛 小名木川

薪炭問屋

城東區北砂町一丁目七二九

益山徳商店

電話本所九六九二番

荷受驛 小名木川

本所區豎川四丁目三番地

薪炭問屋



**中金本店**

中村市太郎

電話本所三三四九番

米穀部電話本所一六二〇番

荷受驛 錦糸町 隅田川 秋葉原

本所區錦糸町一丁目四番地

(錦糸町驛前)

薪炭問屋



**川幸商店**

木暮禮一郎

電話本所五〇二六番

電略(カワコ)又ハ(カワ)

荷受驛 錦糸町

諸國薪炭燃料問屋

本所區江東橋一丁目十番地

信與 堀内與三郎

電話本所一三八三番

荷受驛 錦糸町

本所區豎川二丁目十六番地

薪炭問屋



**全下清商店**

繪面末吉

電話本所三三七三番

荷受驛 錦糸町

本所區綠町一丁目二八



薪炭問屋

**荻井商店**

荻井石藏

電話本所五三六〇番

荷受驛 錦糸町 兩國

各種薪炭燃料

本所區豎川三丁目七番地

燃料問屋



**柳商店**

電話本所一〇七九番

荷受驛 錦糸町 兩國

薪炭問屋

城東區龜戸町七丁目一四一

弘木屋號



**岩井政雄商店**

電話 墨田二六三四番

振替東京九一一八二番

荷受驛 龜戸

本所區太平町三丁目九番地

薪炭問屋

甲州屋

**松土正信**

電話墨田二九八四番

振替東京八四五七六番

電略(マ)又ハ(マツ)

荷受驛 龜戸

薪炭問屋

城東區龜戶町五丁目六〇

(龜戶驛前)

余勝田小三郎商店

電話墨田三五〇八番

荷受驛 龜戶合同

薪炭問屋

城東區大島町二丁目二一

合名 龜田屋商店

代表社員 田中祥介  
電話本所五七〇三番

荷受驛 龜戶合同

城東區龜戶町五丁目一七四

薪炭問屋 益子商店

店主 益子義次

荷受驛 龜戶合同

向島區吾嬬町東五丁目八八

薪炭問屋 双葉屋商店

店主 三瓶信吉

荷受驛 龜戶合同

薪炭問屋

江戸川區平井三丁目

正起屋

光 島村欣志商店

電話墨田三一四四番

荷受驛 平井

向島區寺島町六丁目五

薪炭問屋 石井商店

店主 石井柳吉

荷受驛 東武線曳舟

江戸川區小岩町三丁目一八八六

薪炭問屋 八木沼健之

電話 小岩一四七番  
振替東京九七一四番

荷受驛 平井

東京煉炭株式會社  
三鱗豆炭株式會社  
新美唄磐城炭鑛 代理店

三 薪炭問屋 八木章商店

江戸川區小岩町五丁目(學校前)

着驛 平井

電話 小岩二四九番  
振替東京九七一三番  
電略(ヤ)又八(ヤキ)

創業明治二十年

千葉縣市川市菅野一四九

京成電車菅野驛東二丁  
省線市川驛より十丁



商標

薪炭 問屋 石井信吉商店  
燃料

電話北八幡三三六番

仕入  
産地

岩手 青森 島根 鳥取 群馬 北海道  
秋田 福島 茨城 長野 山形 鹿兒島

薪炭問屋

品川區大井坂下町二六七六

余岡田太刀馬商店

電話大森二二八五番

製炭所福島縣田村郡舟引

荷受驛 大森丸通丸二

大森區大森一丁目三〇四

濱崎屋

燃料 問屋 田中米次郎

電話大森二九九六番

荷受驛 大森

大森區大森一丁目五二番地

己之丸

薪炭 問屋 田中喜三郎

電話大森二二六〇番

略電(〇ミ)又ハ(ミ)

荷受驛 大森

品川區大井水神町二〇一二

薪炭 問屋 大塚商店  
店主 松野爲造

電話大森四〇一九番

荷受驛 大森

品川區大井南濱川町一九〇六  
燃料 山形正榮商店  
問屋

電話大森六三四九番  
愛國煉炭製造工場經營  
薪炭荷受驛 大森 品川

米穀薪炭問屋  
煉炭玉炭元扱

ⓑ 長谷川啓次郎商店

川崎市砂子一丁目五五  
店用電話二二八一番  
倉庫用電話二二八二番  
電話(ハセ)又ハ(ハ)

大森區調布鶴ノ木町四三  
增田屋支店  
薪炭 增田進商店  
問屋  
電話田園調布三一五九番  
荷受驛 大森

川崎市溝ノ口片町  
薪炭 坂戸屋商店  
問屋  
電話溝ノ口五番  
荷受驛 川崎

諸國木炭問屋  
煉炭玉炭元扱

ⓐ 上田商店

川崎市幸町二丁目  
上田忠太郎  
電話川崎二四三二番  
着驛 川崎

ⓑ 石渡清治商店

薪炭煉炭石炭  
川崎市大師裏門通  
電話(イ)又ハ(〇セ)  
荷受驛 川崎

薪炭 子安商店  
問屋

川崎市國道通  
電話二〇四九番  
荷受驛 川崎

木炭 畠千川商店  
問屋

横濱市鶴見區潮田榮町七五六  
電話鶴見二七八七番  
電話(ホシ)又ハ(ホ)  
荷受驛 鶴見合同

共同火災保險株式會社代理店

橫濱市鶴見區生麥町一二〇六

薪炭問屋  
石炭  
煉炭

久吉原久一郎商店

電話鶴見三五四四番  
振替東京八五八二八番  
振替橫濱一一〇七番  
倉庫川岸十三、十四號

橫濱市神奈川區御殿町十二

薪炭問屋 櫻井商店

櫻井國三郎

電話本局二二六七番

荷受驛 東神奈川

橫濱市鶴見區潮田日の出町五一九

薪炭問屋 宮田政一商店

電話鶴見三二四八番

荷受驛 鶴見合同

薪炭問屋

橫濱市神奈川區二ツ谷町二〇

合資會社 山下政利商店

電話神奈川二七一三番

荷受驛 東神奈川

木炭問屋 石炭コークス 特約販賣店

金澤屋

西方淺次郎商店

着驛東 橫濱市中區花咲町二丁目六六  
置場 中區花咲町二丁目八一  
電話長者町一六三四番  
振替橫濱一二〇七番

諸國木炭問屋

三井物産株式會社特約店

橫濱市中區長者町三丁目一ノ三四三

大谷倉次郎商店

電話本局〇一二四番

出張所 橫濱市神奈川區平沼二ノ九八  
電話神奈川二四一六番

主任 大谷一郎

荷受驛 東橫濱相互運送店

橫濱市中區松影町三丁目一一八

薪炭問屋 東北商會

平山 敦

電話長者町〇三九八番

荷受驛 東橫濱相互運送店

保土ヶ谷 合同  
東橫濱 相互

木炭問屋 高善商店

高橋善吉

營業所橫濱市中區西久保町五四

倉庫 電話神奈川四〇七五番  
振替東京九二七八〇番

本宅 橫濱市保土ヶ谷帷子町  
三三三九番地



日本通運株式會社第二種加盟店

荷扱驛(東横濱驛)(高島驛)

全横濱薪炭問屋指定

合 相 互 運 送 店

店 主 風 戸 信 司

横濱市中區福富町西通四番地

電話長者町 (二六一三番)  
(長七六六番)

千 葉 縣 著 名 移 入 問 屋

千葉縣船橋市五日市町

合 薪炭問屋 石崎商店

電話三十番

店主 石崎勇次郎

薪炭問屋

千葉縣松戸町

藁 惣

合 倉田惣兵衛

電話松戸三二二番  
電略(クラ)又ハ(ソ)  
振替東京一八〇〇番

諸國薪炭移入問屋

千葉縣銚子市新生驛前

入 飯島宇一郎

電話一二九番

電略(イシマ)又ハ(ウ)

地方物價専門委員

木炭問屋木屋號

千葉縣銚子市

余 大塚新六商店

電話二七二番  
電略(キヤ)又ハ(ヲ)

千葉縣の著名移入問屋

千葉縣銚子市陣屋町

薪炭 飯田富藏  
問屋

電話銚子六五六番

着驛 新生驛

千葉縣銚子市和田通り

薪炭 根本徳太郎  
問屋

電話銚子四二四番

千葉縣海上郡旭町

薪炭 高野豊吉  
問屋

電話旭町一一六番

千葉縣海上郡旭町驛前

薪炭 齋藤商店  
問屋

電話旭町三三番

千葉縣の著名移入問屋

千葉市市場四一二

吉原商店

薪炭 吉原良造  
問屋

電話一〇六番

地方物價専門委員

千葉縣海上郡旭町網戸

薪炭 加瀬房吉  
問屋

電話旭町一四〇番

千葉市南道場一八六一

薪炭 植草本店  
問屋

店主植草長吉

電話三八五番

千葉縣海上郡旭町太田

薪炭 齋藤榮次  
問屋

電話旭町六八番

標商錄登

專賣特許 關東

橫濱市鶴見區大黒町十二番地  
株式會社十全商會橫濱工場

電話 神奈川 一九五五番  
鶴見 二六八三番

# 十全豆炭

産量日本一 關西

株式會社 十全商會

大阪市大正區南恩加島町四五八

電話櫻川 二一五二番  
二一五八番  
二二六〇番  
二三六番

## 久八線特撰品

梅印久印西印移出

木炭移出商

岩手縣九戸郡久慈町

西塚商店木炭部

電話 七四番  
電略 (〇ニシ)

移出驛

久八線 久慈驛  
八戸市湊驛 中野驛

移出品と  
年移出量

黒炭、柄丸、割割、雜丸  
雜割、柄荒、雜荒、サク  
各種拾萬俵

### 絶對若木の産地

定評ある摺澤の木炭  
特に檜割の優良を誇る

商標

佐藤 命三 郎

岩手縣東磐井郡大原町

發信電略 (サ) ハ又 (トサ)

仕向地

東京市場  
神奈川縣  
其他

年移出量  
手山三萬俵

木炭取引案内岩手縣産之卷

定價壹圓  
送費八錢

東京市神田區三崎町一丁目八番地

編輯兼  
發行  
大竹群次郎

東京市麴町區麴町三丁目十二番地

印刷人  
廣安與三右衛門

東京市神田區三崎町一丁目八番地

發行所  
薪炭新報社

東京市麴町區麴町三丁目十二番地

印刷所  
東水印刷所

昭和十三年十月十五日印刷  
昭和十三年十月廿一日發行

版權所有  
複製不許

發賣所

薪炭新報社

東京市神田區三崎町一丁目八番地

振替東京一九六四番  
電話神田三六八八番